

# 知的・産業クラスター 支援ネットワーク強化事業

## 平成30年度事業報告書



琉球大学  
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS



一般社団法人  
大学コンソーシアム沖縄





# 平成30年度知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業 事業報告書目次

<b>第1章 事業概要</b> .....	<b>1</b>
1-1 本事業の目的 .....	1
1-2 事業概要 .....	1
1-3 事業内容 .....	2
<b>第2章 [取組1] 地域課題ソリューションワーキンググループ立ち上げ支援</b> .....	<b>5</b>
2-1 地域(市町村)・企業等へのヒアリングによる課題調査 .....	5
2-2 地域課題解決のための研究者の調査 .....	16
2-3 地域と研究者のマッチング（ワーキンググループの立ち上げ支援） .....	16
2-4 地域へのアンケートによる検証（課題解決への貢献度） .....	35
2-5 国内外の先進的取り組みに関する研修会等の実施 .....	43
<b>第3章 [取組2] 大学と地域・産業との結び付きを強化する為の取り組み</b> .....	<b>53</b>
3-1 若手コーディネーターの配置と育成 .....	53
3-2 大学・企業交流会の開催 .....	56
3-3 実践的インターン送出 .....	57

<b>第4章 その他の取り組み</b> .....	<b>77</b>
4-1 高等教育機関への活動報告 .....	77
4-2 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整 .....	77
<b>第5章 総括</b> .....	<b>79</b>
5-1 本事業における成果 .....	79
5-2 本事業における課題と展望 .....	81
<b>知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業 巻末 研究シーズ事例集</b> .....	<b>83</b>

# 第1章 事業概要

## 1-1 本事業の目的

本委託業務は、知的・産業クラスターの発展に向け、地域課題を解決するワーキンググループを立ち上げ、地域連携コーディネーターによる県内大学研究者等と地域の連携(産学連携)を促進することを目的とする。

## 1-2 事業概要

沖縄県では知的・産業クラスターの形成に向けて各種事業に取り組んでおり、地域における様々な課題に対して産学官民連携による課題解決(ソリューション)が求められている。沖縄県が策定した「沖縄21世紀ビジョン」には、産業間連携の強化や科学技術と産業界を仲介するコーディネート機能及びコーディネーターの配置が必要とされている。

本事業では、大学コンソーシアム沖縄と琉球大学が連携したコーディネート機能強化に取り組み、地域連携コーディネーターを中心に、県内大学が有する「知」を活用した地域課題解決に向けて、県内大学研究者等と地域(市町村・企業等)の連携による地域課題解決を検討するワーキンググループを立ち上げ、県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進することで、大学発イノベーションの活性化を図るとともに、地域振興への貢献を目指す。また、事業の実施にあたっては、複数の大学間・異分野研究者間の連携を促進し、複雑な地域課題に対する総合的な解決に向けた取り組みを実施する。

さらに、大学と地域・産業との結びつきを強化する取り組みとして、「若手コーディネーターの育成」や「大学企業交流会の開催」、「実践的インターン送出」など、産学連携を強化する取り組みを検討・実施し、地域・産業連携の促進を図る。

なお、本事業では、地域課題解決に向けたプロジェクトを統括する地域連携コーディネーターを1名配置するとともに、同プロジェクトをサポートする若手地域連携コーディネーターを年間3名程度育成し、大学等高等教育機関及び公的支援機関、地域(市町村)、産業界とのネットワーク構築に取り組む。

最終的な目標として、知的・産業クラスターの形成に向けて、地域課題解決のプロセスを明確化し、地域のイノベーションを創出する地域課題解決エコシステムの構築を目指す。

### 1-3 事業内容

本事業では、知的・産業クラスターの発展に向け、地域課題を解決するワーキンググループを立ち上げ、地域連携コーディネーターによる県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進するため、以下の項目を実施した。

#### (1) 地域課題ソリューションワーキンググループ立ち上げ支援

- ① 地域（市町村）・企業等へのヒアリング
- ② 地域課題解決のための研究者の調査
- ③ 地域と研究者のマッチング（地域課題ソリューションワーキンググループ開催）
- ④ 地域へのアンケートによる検証（課題解決への貢献度）
- ⑤ 国内外の先進的取組に関する研修会等実施

#### (2) 大学と地域・産業との結びつきを強化するための取り組み

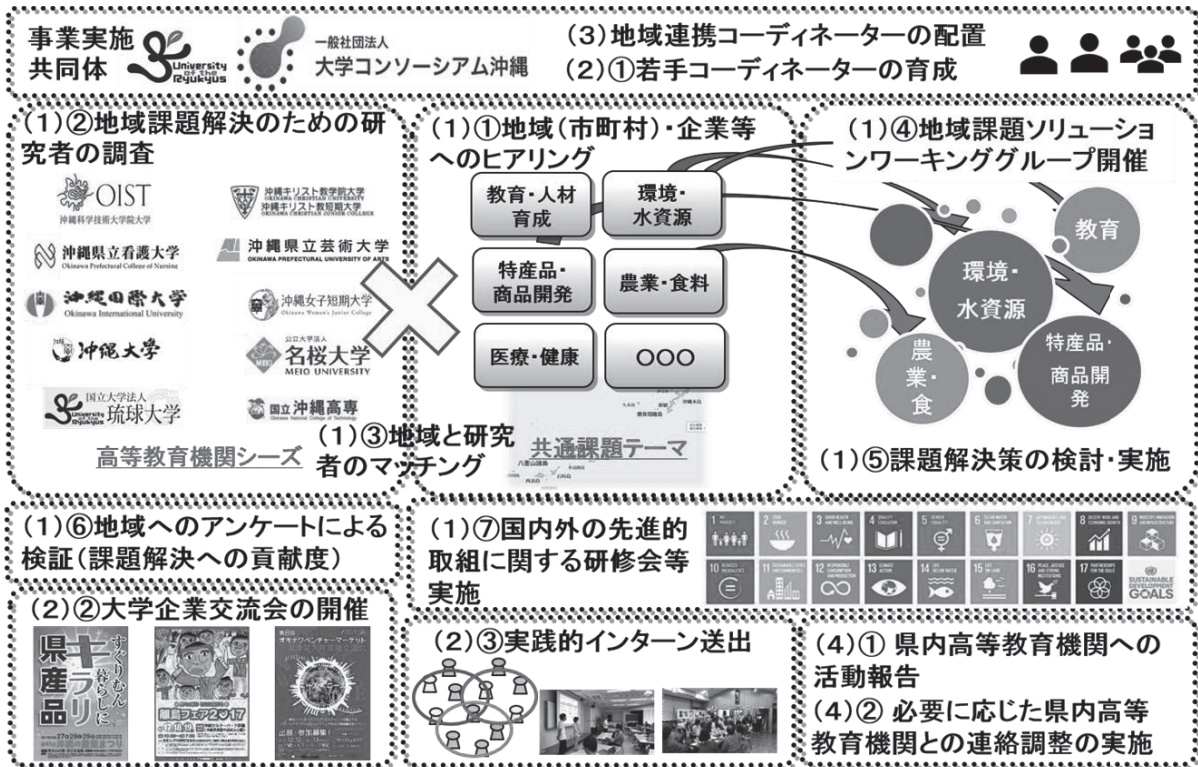
- ① 若手コーディネーターの育成
- ② 大学企業交流会の開催
- ③ 実践的インターン送出

#### (3) 地域連携コーディネーターの配置

#### (4) 県内高等教育機関との連絡調整

- ① 県内高等教育機関への活動報告
- ② 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整の実施

【事業内容イメージ】

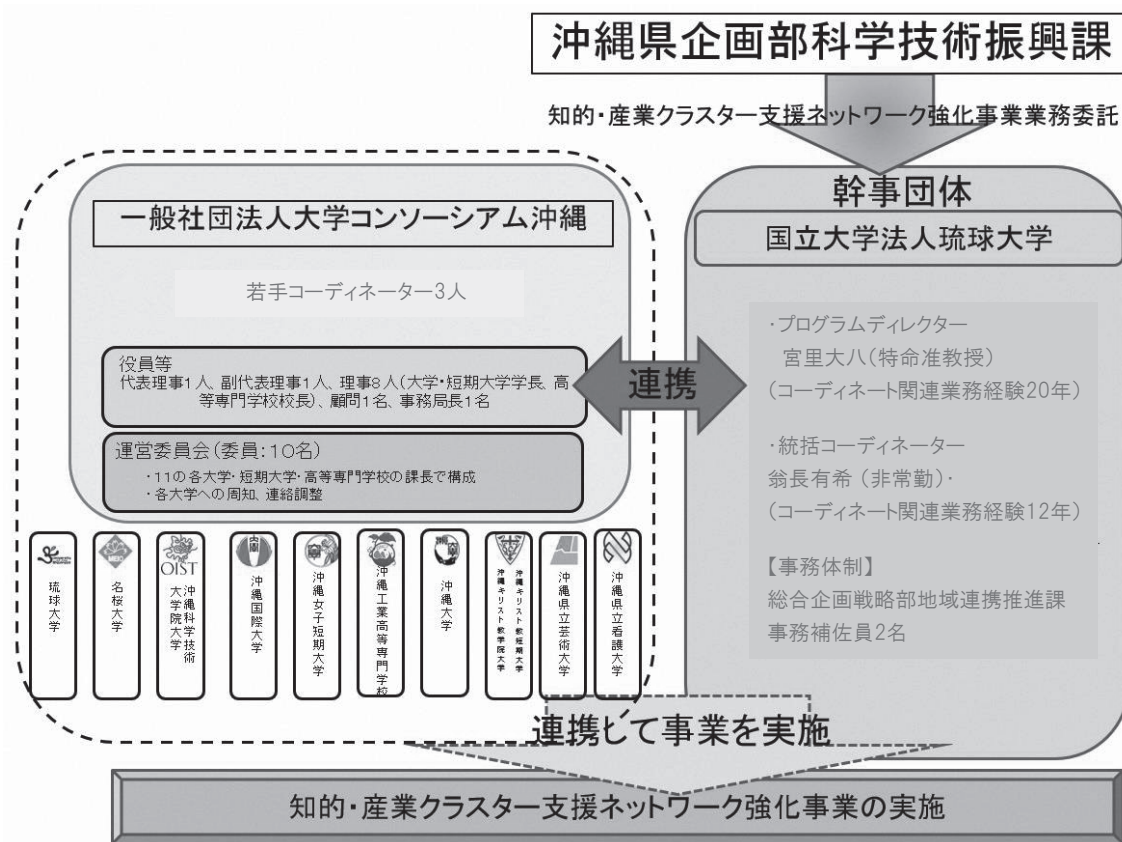


【年間スケジュール】

		平成30年						平成31年			
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 地域課題ソリューショングループ立ち上げ支援	①地域(市町村)・企業等へのヒアリングによる課題調査		●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②研究者の調査				●	●	●	●	●	●	●
	③ワーキンググループ開催						●	●	●	●	●
	④先進的取組に関する研修会等				●	●	●	●	●	●	●
2. 大学と地域・産業との結びつきを強化するための取組	①若手コーディネーターの育成		●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②大学企業交流会						★産業まつり	★ベンチャーマーケット			
	③実践的インターン送出		●	●	●	●	●	●	●	●	●
3. 地域連携コーディネーターの配置	若手コーディネーターの育成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	統括コーディネーター、若手コーディネーターの配置										
4. 県内高等教育機関との連絡調整	①県内高等教育機関への活動報告			◎地域イノベーション協議							◎総会
	②必要に応じた連絡調整										

【実施体制】

琉球大学と大学コンソーシアム沖縄の共同事業体で実施





## 第2章 [取組 1] 地域課題ソリューションワーキンググループ立ち上げ支援

### 2-1 地域（市町村）・企業等へのヒアリングによる課題調査

#### 【地域（市町村）ヒアリング】

##### ○平成29年度成果

- ・ 地域連携コーディネーターで地域（41市町村）・企業等のヒアリングを実施した。平成29年度に全市町村の総合計画、「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の現状を分析し、地域における課題を抽出した。また、市町村のヒアリングについても5人のコーディネーターが分担して全ての自治体のヒアリングを実施した。

##### ○平成30年度

- ・ 引き続き、全ての自治体をフォローしながら、平成29年度にアンケートの回答を得られた21市町村を優先的にヒアリングし、高等教育機関との連携についての関心の高さや必要性の高い自治体を中心にフォローアップを行い、その中から出た課題を各地域のニーズや時期に合わせワーキンググループの立ち上げ支援や、学生との協働における課題解決授業につなげた。

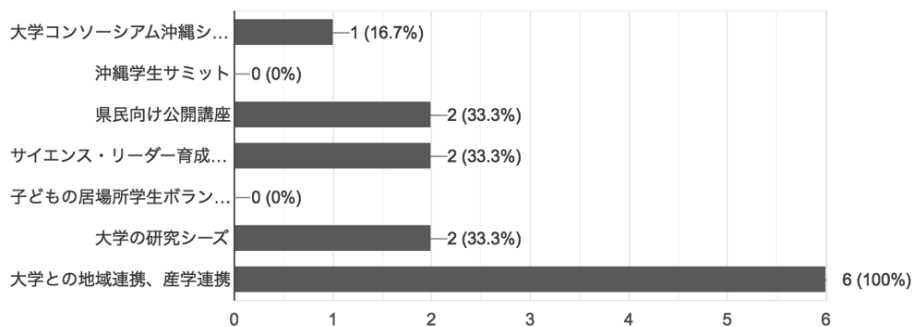
	ヒアリング先	ヒアリング内容	本事業でのフォロー内容
1	那覇市総務部防災危機管理課 主幹	那覇市の防災に関する現状と、危機管理課が行なっている取り組みや大学等への連携について	ワーキンググループの立ち上げ支援
2	石垣市文化観光スポーツ局観光文化課 観光推進班	星空観光を進めている石垣市において、自然の発信だけでなく、保護や教育への取り組みについて	ヒアリング
3	与那国町 企画財政課	・与那国町における観光の取り組みと現状について ・大学からどのような支援や協力が必要かについて	その他
4	北谷町 総務課	・北谷町における防災の取り組み状況について	ヒアリング
5	豊見城市 市民部 協働のまち推進課	・豊見城市における自治体活動について	ヒアリング
6	那覇市市民協働課	・市民協働のための地域における生涯教育やコミュニティ形成の取り組みについて（地域の大学院の運営）	SDGsの研修を実施
7	浦添市市民協働課	・市民協働のための地域における生涯教育やコミュニティ形成の取り組みについて（地域の大学院の運営）	SDGsの研修を実施予定
8	宜野湾市市民協働課	・市民協働のための地域における生涯教育やコミュニティ形成の取り組みについて（地域の大学院の運営）	SDGsの研修を実施予定
9	うるま市 企画部企画政策課 地域振興係 係長	・うるま市における観光事業施策について ・産学官連携に期待すること ・ワーキンググループに期待すること	ワーキンググループの立ち上げ支援

10	嘉手納町企画財政課	・嘉手納町の課題等について ・大学等高等教育機関との連携のニーズについて	ヒアリング
11	竹富町教育委員会 総務課 課長	・大学等との連携状況について（東京大学との学習支援） ・大学等高等教育機関との連携のニーズについて	ヒアリング
12	竹富町 政策推進課 企画課長	・大学等との連携実績・今後の連携のニーズについて ・竹富町の現状と課題について	H31年度以降、実践的インターンとのマッチングを希望
13	渡名喜村総務課	・渡名喜村の現状と課題について ・大学等高等教育機関との連携のニーズについて	ヒアリング
14	南風原町教育委員会生涯学習文化課	・南風原町の子どもの貧困対策について ・大学等高等教育機関との連携のニーズについて	沖縄女子短期大学とマッチング（IT教育プログラム）
15	沖縄市 健康福祉部こども家庭課/こどものまち推進課	・沖縄市の子どもの貧困対策について ・大学等高等教育機関との連携のニーズについて	ヒアリング
16	沖縄市都市整備室 主事	・公共交通の地域公共交通再編実施計画のニーズについて	ヒアリング
17	恩納村企画課 定住促進係 係長	・大学等高等教育機関との連携のニーズについて	ワーキンググループの立ち上げ支援
18	糸満市行政経営課 係長	・糸満市イノベーション教育ワーキンググループ ・青年会活動の活性化に向けた提案について	実践的インターンとのマッチング
19	糸満市教育委員会生涯学習課 係長	・糸満市イノベーション教育ワーキンググループ ・青年会活動の活性化に向けた提案について	実践的インターンとのマッチング
20	北大東村建築課 主査	・離島の住環境プロジェクトのワーキンググループ	ワーキンググループの立ち上げ支援
21	宮古島市建設部 建築課 住宅企画係 補佐	・離島の住環境プロジェクトのワーキンググループ	ワーキンググループの立ち上げ支援
22	南風原町企画財政課 主事	・花いっぱいプロジェクトの研究成果の展開について	ワーキンググループの立ち上げ支援
23	宜野座村観光商工課 主幹	・花いっぱいプロジェクトの研究成果の展開について	ワーキンググループの立ち上げ支援
24	豊見城市総務企画部企画財政課 主任主事	・花いっぱいプロジェクトの研究成果の展開について	琉球大学農学部本村教授とのマッチング

- ・ 平成30年度は特に島しょ地域の課題にもフォーカスし、改めて全離島のヒアリングに取り組み、その中で宮古島市、南大東村、与那国町についてはについてはワーキンググループを立ち上げ、課題解決に取り組んだ。
- ・ また、3月には改めて、全市町村担当者に向けての地域課題に関するアンケートを行った。結果は次項以降。

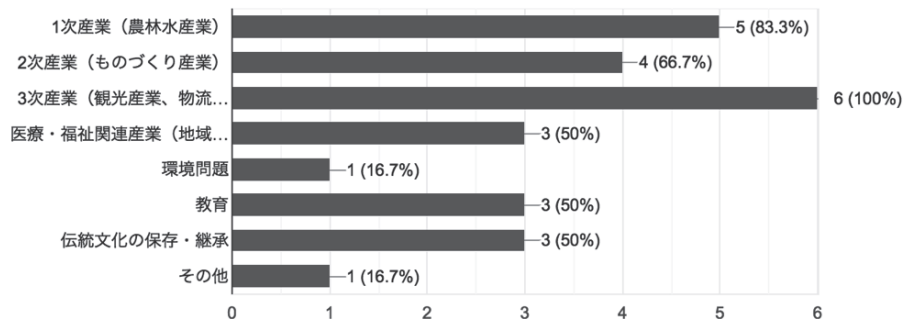
[質問 1] 大学コンソーシアム沖縄は、大学等の沖縄県内の高等教育機関が連携して事業を実施しています。以下のどの事業に興味がありますか。

- 大学コンソーシアム沖縄シンポジウム     沖縄学生サミット     県民向け公開講座  
 サイエンス・リーダー育成講座（子ども科学人材育成事業）     子どもの居場所学生ボランティアセンター  
 大学の研究シーズ     大学と地域連携、産学連携     その他



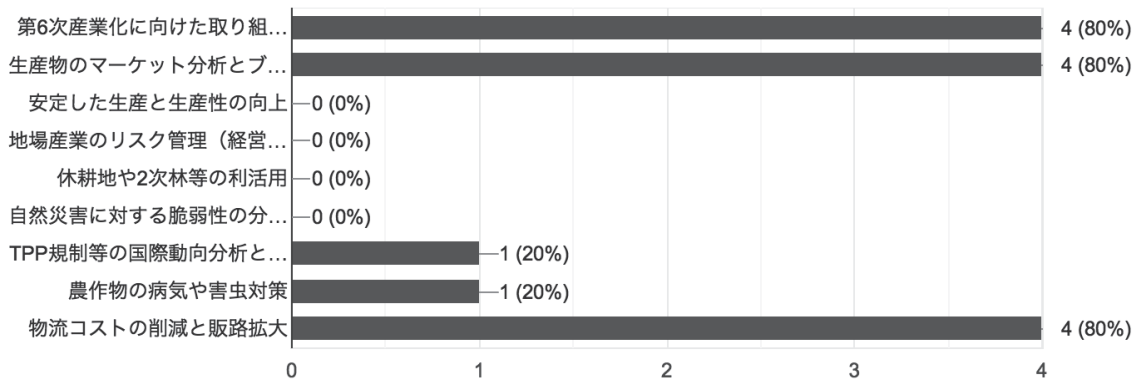
[質問 2] 大学コンソーシアム沖縄と琉球大学では、地域および企業ニーズとマッチングを行い、地域連携や産学連携に取り組んでいます。皆様の関心の高いニーズをお聞かせください。

- 1次産業（農林水産業）     2次産業（ものづくり産業）     3次産業（観光産業、物流、サービス等）  
 医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）     環境問題     教育     伝統文化の保存・継承     その他



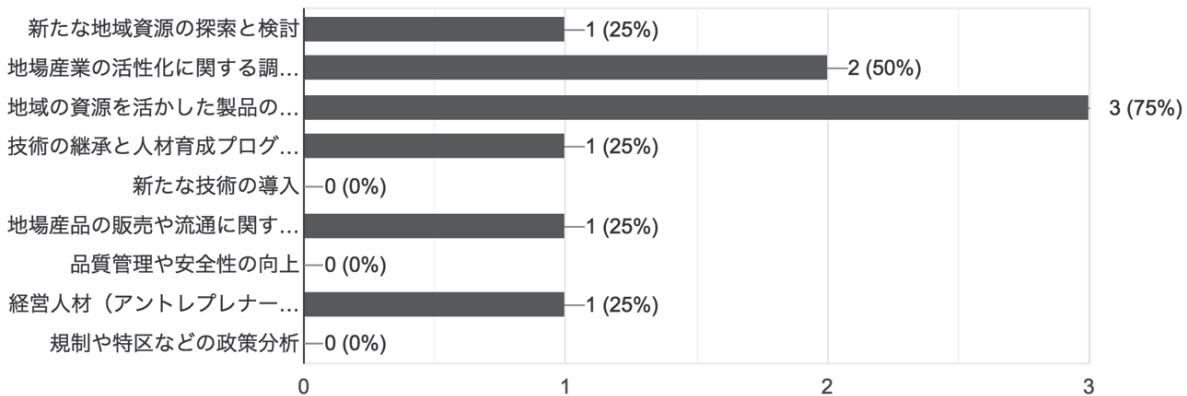
[質問 3] 「1次産業（農林水産業）」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

- 第6次産業に向けた取り組みの企画・開発     生産物のマーケット分析とブランド化     安定した生産と生産性の向上  
 地場産業のリスク管理（経営）分析・研究     休耕地や2次林業等の利活用     自然災害に対する脆弱性の分析と対策  
 TPP規制等の国際動向分析と対策     農作物の病気や害虫対策     物流コストの削減と販路開拓     その他



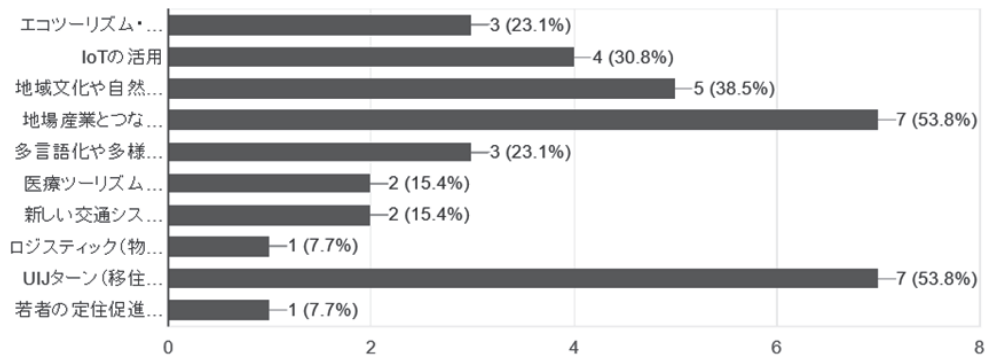
[質問4] 「第2次産業（ものづくり産業）」と答えた方は、以下の中から、特に興味がある項目を最大3つ選択してください。

- 新たな地域資源の探索と検討
- 地場産業の活性化に関する調査・研究
- 地域の資源を活かした製品の企画・開発
- 技術の継承と人材育成プログラムの開発
- 新たな技術の導入
- 地場製品の販売や流通に関する調査・研究
- 品質管理や安全性の向上
- 経営人材（アントレプレナー）の育成と分析
- 規制や特区などの政策分析
- その他



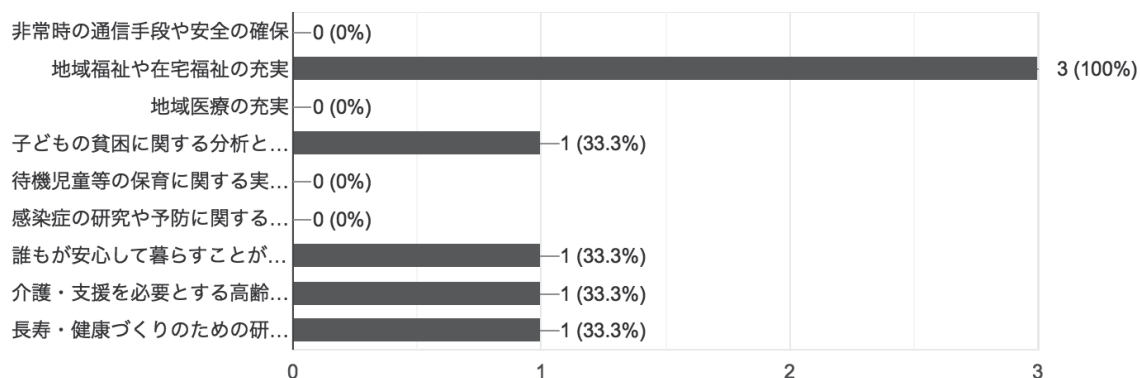
[質問5] 「3次産業（観光産業、物流、サービス等）」と答えた方は、以下の中から特に興味のある項目を最大3つ選択してください。

- エコツーリズム・ブルーツーリズムプログラムの開発
- IoTの活用
- 地域文化や自然環境と調和した循環型観光産業の分析
- 地場産業と繋がる観光の分析・開発
- 多言語化や多様な文化ニーズへの対応可能な観光プログラム
- 医療ツーリズムの開発と地場産業の連携
- 新しい交通システムの開発（ランドシェアや相乗りタクシー等）
- ロジスティック（物流）分析・研究
- UIターン（移住者）の定着・就職・雇用創出支援
- その他



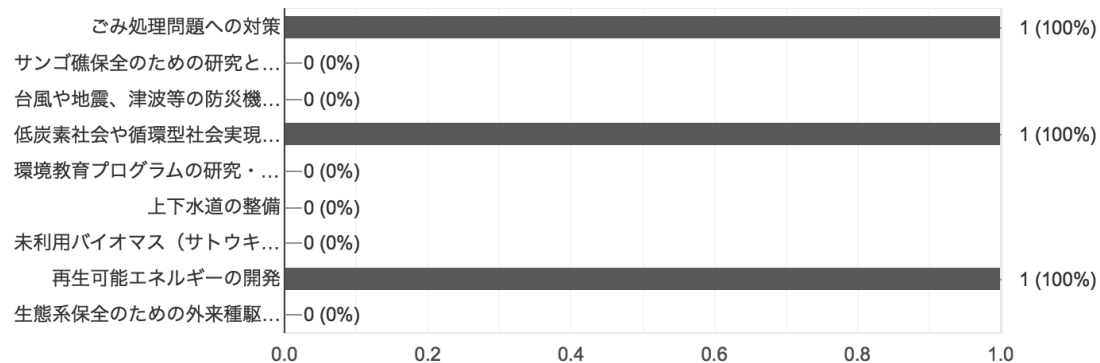
[質問6] 「医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を3つ選択してください。

- 非常時の通信手段や安全の確保
- 地域福祉や住宅福祉の充実
- 地域医療の充実
- 子どもの貧困に関する分析と対策
- 待機児童等の保育に関する実態分析と対策
- 感染症の研究や予防に関する保険活動
- 誰もが安心して暮らすことができる都市計画と住宅環境の整備
- 介護・支援を必要とする高齢者や障がい者へのサービスや自立支援の分析・開発
- 長寿・健康づくりのための研究と普及
- その他



[質問7] 「環境問題」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

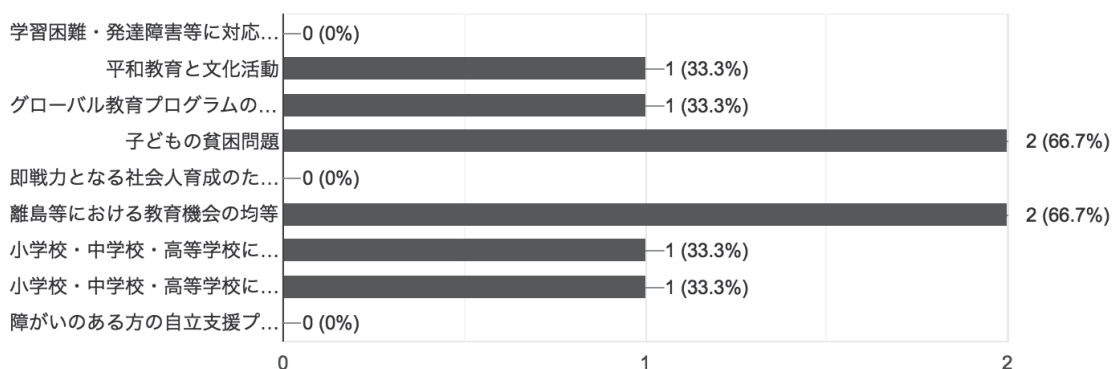
- ごみ処理問題への対策
- サンゴ礁保全のための研究と保全活動
- 台風や地震、津波等の防災機能の強化
- 台風や地震、津波等の防災機能の強化と環境保全
- 低炭素社会や循環型社会実現のための技術開発
- 環境教育プログラムの研究・開発
- 上下水道の整備
- 未利用バイオマス（サトウキビの搾りかす等）の利用
- 再生可能エネルギーの開発
- 生態系保全のための外来種駆除等の研究・活動
- その他



[質問8] 「教育」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

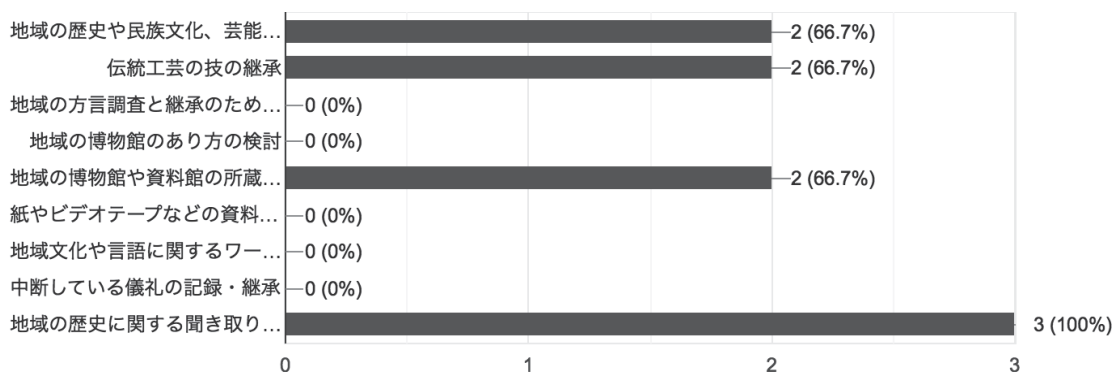
- 学習困難・発達障害等に対応したプログラムの開発と普及
- 平和教育と文化活動
- グローバル教育プログラムの開発
- 子どもの貧困問題
- 即戦力となる社会人育成のための教育プログラムの開発
- 離島等における教育機会の均等
- 小学校・中学校・高等学校における基礎学力向上のための分析と教育プログラムの開発
- 小学校・中学校・高等学校における「教師の教育力」向上のための研修プログラムやシステム開発
- 障害のある方への自立支援プログラムと就労先確保（産業界との連携等）
- その他

3件の回答



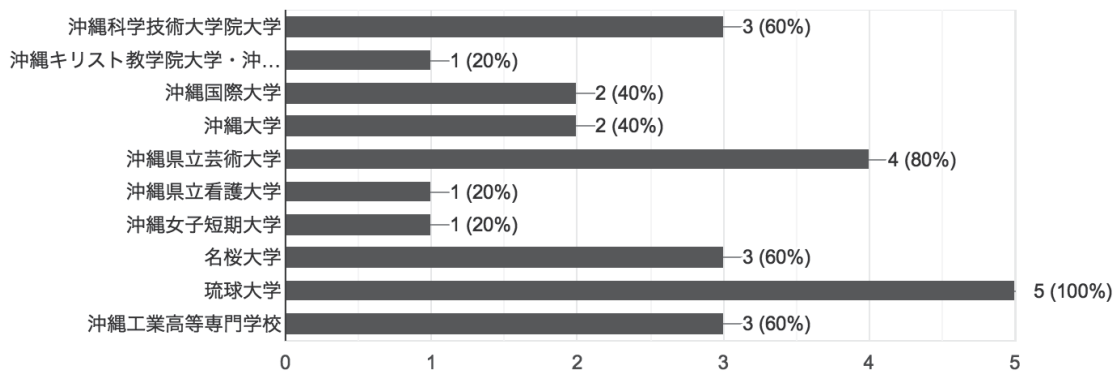
[質問9] 「伝統文化の保存・継承」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

- 地域の歴史や民族文化、芸能などの記録・調査
- 伝統芸能の技の継承
- 地域の方言調査と継承のためのプログラム開発
- 地域の博物館の在り方の検討
- 地域の博物館や資料館の所蔵資料の整理・データベースの構築
- 紙やビデオテープなどの資料のデジタル化
- 地域文化や言語に関するワークショップ等の教育プログラムの開発
- 中断している儀礼の記録・継承
- 地域の歴史に関する聞き取り調査・研究
- その他



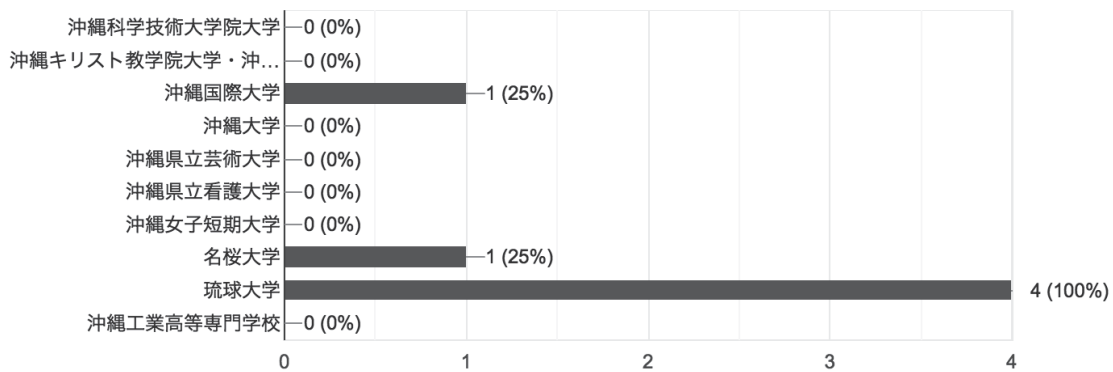
[質問10] 大学コンソーシアム沖縄の加盟中で連携をしたい高等教育機関について教えてください。

- 沖縄科学技術大学院大学
- 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学
- 沖縄国際大学
- 沖縄大学
- 沖縄県立芸術大学
- 沖縄県立看護大学
- 沖縄女子短期大学
- 名桜大学
- 琉球大学
- 沖縄工業高等専門学校
- その他



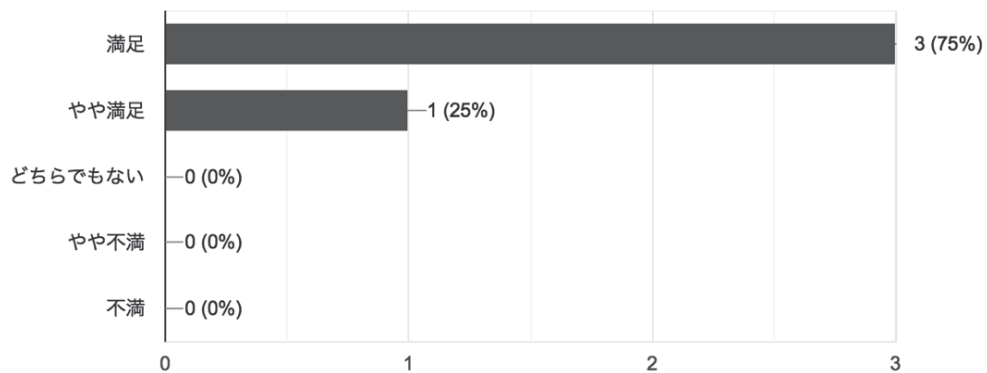
[質問 1 1] 過去に、大学コンソーシアム沖縄の加盟校の中で連携をした高等教育機関について教えてください。

- 沖縄科学技術大学院大学   
  沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学   
  沖縄国際大学  
 沖縄大学   
 沖縄県立芸術大学   
 沖縄県立看護大学   
 沖縄女子短期大学   
 名城大学   
 琉球大学  
 沖縄工業高等専門学校   
 その他



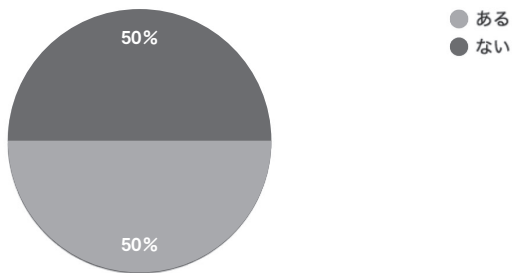
[質問 1 2]

過去に連携を行った方にお聞きます。連携を行った結果、どのような満足を得られましたか。



[質問 1 3]

地域事業者間連携を促進するために実施している事業などがあるか教えてください。  
(地域事業者は大学に限らず地域の企業、NPO、団体等と連携している組織)



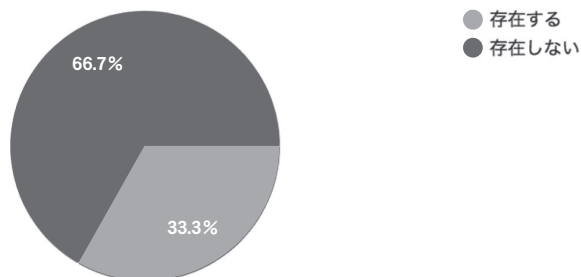
[質問 1 4]

地域事業者間連携を促進するために実施している事業などがある場合、どのような連携をしているのか教えてください。

特産品などの販路拡大
サトウキビ作農業の振興
商店街の活性化

[質問 1 5]

地域連携及び産学連携等を推進するためのコーディネーター人材が存在するか教えてください。



[質問 1 6]

コーディネーターを配置・育成する際に留意している点などを教えてください。  
(コーディネーターは産学連携に限らず様々なコーディネーターで可)

地域の方々の意見を聞き、連携を行えるような人材
-------------------------

[質問 1 7]

「自由記述」大学コンソーシアム沖縄に期待すること、ご意見、ご要望などをご記入ください。

積極的に自治体に関わっていただきたい
--------------------



## 【企業等へのヒアリング】

### ○平成29年度成果

- 平成29年度は、沖縄経済同友会、沖縄県中小企業家同友会、沖縄県商工会連合会等の各団体の協力を得ながら、アンケート調査項目の洗い出し、アンケートを実施した。

### ○平成30年度

- 平成30年度は、地域課題に取り組むため、主にワーキンググループの立ち上げを行う地域課題テーマに関する情報収集を行うため、個別企業・NPO等地域団体・社会教育施設等計36件へ訪問しヒアリングを行った。

	ヒアリング先	ヒアリング内容	その後の本事業との連携
1	沖縄県地域振興協会 専務理事	・産学連携等の取り組みに対する助成金制度等について ・地域連携コーディネーターとの連携について	ヒアリング、ワーキンググループへの参加
2	内閣府沖縄総合事務局経済産業部 企画振興課 地域経済分析システム普及活用支援調査員	・産学官連携等の促進施策について ・データ分析REASUSの仕組みについて、活用実績等について	実践的インターン（講義）に講師として参加
3	NPO法人地域サポートわかさ（那覇市若狭公民館）館長	・地域の防災に関する取り組みについてや、実施している取り組みの1つであるパーラー公民館について	ワーキンググループへの参加
4	Happyぼうさいプロジェクト 共同代表	・北九州市での防災に関する取り組みについて ・沖縄と北九州との連携について	ワーキンググループへの参加
5	南城市観光協会 事務局長	・南城市の現状や課題について ・ワーキンググループ立ち上げの必要性や可能性について	ヒアリング、実践的インターン協力
6	タピック沖縄株式会社(ウェルネスリゾート沖縄休暇センター ユイinchホテル南城) 支配人	・南城市の現状や課題 ・タピックが地域と取り組んでいる事例などについて	ヒアリング、実践的インターン協力
7	株式会社萌す 代表取締役社長	・糸満市の現状や課題について ・萌すが地域と取り組んでいる事例などについて	ヒアリング、実践的インターン協力
8	与那国島観光協会 事務局長	・与那国島の現状や課題について ・学生インターン受け入れの可能性等について	ヒアリング、実践的インターン協力
9	jardin raphas 主宰	・モバイルハウスを取り巻く環境や可能性について ・住環境問題に対する提言等について	ワーキンググループへの参加
10	株式会社アンカーリングジャパン 代表	・与那国島における観光の取り組みについて（観光協会の現状） ・離島における観光の立ち上げをどのように進めるかについて ・ワーキンググループについての意見交換	その他
11	繁多川公民館 館長	・地域コミュニティ発足の仕方と具体的な取り組みについて	ヒアリング

12	株式会社ジャンボツアーズ	・北谷町での観光客の防災について（観光客向けの飲食店を経営している観点から）	ヒアリング
13	株式会社アカネクリエイション	・現在のバス利用促進の取り組みについて	ワーキンググループへの参加
14	琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース	・公共交通に関する教授の取り組みについて ・防災の取り組みについて（主に観光客向けの防災について）	ヒアリング
15	嘉手納町マルチメディアセンター事務局長	・嘉手納町の地域性や課題等について ・マルチメディアセンターの役割と今後の事業方向性等について	ヒアリング
16	NPO法人ホールアース 沖縄支部担当	・団体の活動内容やうるま市地域振興事業について ・ワーキンググループ立ち上げの必要性や可能性について	ワーキンググループへの参加
17	一般社団法人プロモーションうるま 代表理事	・団体の活動内容やうるま市地域振興事業について ・ワーキンググループ立ち上げの必要性や可能性について	ワーキンググループへの参加
18	株式会社Roku you 代表取締役社長	・団体の活動内容やうるま市地域振興事業について ・ワーキンググループ立ち上げの必要性や可能性について	ワーキンググループへの参加
19	独立行政法人国際協力機構JICA	・自治体との連携事例について ・沖縄県内の地域振興についてJICAが提供可能な支援について	ヒアリング
20	農業生産法人安座間珈琲園 合同会社	・農業と福祉の連携について ・農産物の認証システムについて	ヒアリング
21	宮古島住宅環境センター株式会社 公営住宅管理課 課長	・離島の住環境プロジェクトのワーキンググループ	ヒアリング、実践的インターン協力
22	東南植物楽園学芸ガイド部アシスタントマネージャー	・花いっぱい運動、地域美化に関する持続可能なモデル研究ワーキンググループ	ワーキンググループへの参加
23	株式会社クレイ沖縄 代表取締役	・花いっぱい運動、地域美化に関する持続可能なモデル研究ワーキンググループ	ワーキンググループへの参加
24	カゼモニワ 代表	・花いっぱい運動、地域美化に関する持続可能なモデル研究ワーキンググループ	ワーキンググループへの参加
25	アメルミチ 代表	・花いっぱい運動、地域美化に関する持続可能なモデル研究ワーキンググループ	ワーキンググループへの参加
26	一般社団法人沖縄オープンラボラトリ 理事	・ワーキンググループ立ち上げの必要性や可能性について ・実践的インターンのサポート	ヒアリング、実践的インターン協力
27	株式会社パム コークリエイション ビジネスマッチプランナー	・ワーキンググループ立ち上げの必要性や可能性について	ヒアリング、実践的インターン協力
28	糸満市市民活動支援センター まちテラス 相談員	・糸満市イノベーション教育ワーキンググループ	ワーキンググループへの参加 (H29年度立ち上げWGの継続支援)
29	糸満市青年団協議会 事務局長	・糸満市イノベーション教育ワーキンググループ ・青年会活動の活性化に向けた提案について	ワーキンググループへの参加、実践的インターン協力
30	公益財団法人みらいファンド沖縄 副代表理事	・産学連携等の取り組みに対する助成金制度等について	ヒアリング

31	沖縄県地域づくりネットワーク (一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会) コーディネーター	・地域連携コーディネーターとの連携について	ヒアリング
32	一般社団法人沖縄ビジネスインキュベーションプラザ 代表理事	・産学連携等の取り組みに対するクラウドファンディング等について ・実践的インターンのサポート	ヒアリング、実践的インターン協力、ワーキンググループへの協力
33	一般社団法人アントレプレナーシップラボ沖縄 代表理事	・琉球大学発ベンチャーの活動状況について ・実践的インターンの協力依頼	ヒアリング、実践的インターン協力
34	株式会社Grancell 代表取締役	・琉球大学発ベンチャーの活動状況について	ヒアリング
35	株式会社Alpaca.Lab 代表取締役	・琉球大学と共同研究ベンチャーの活動状況について	ヒアリング
36	ロープス株式会社 代表取締役	・琉球大学と共同研究ベンチャーの活動状況について	ヒアリング

## -2 地域課題解決のための研究者の調査

- 平成30年度は、研究者のシーズ調査の強化を図るため、大学コンソーシアム沖縄の加盟校すべてに個別に訪問し、窓口担当者との連携体制の構築を図った。
- 平成29年度にヒアリングやアンケートにて収集した地域課題テーマに関連する研究者を、上記大学コンソーシアム窓口担当者を通じて紹介を得たり、インターネット等の研究者情報等で情報収集を行ったりしながら抽出し、随時訪問を行った。
- 調査内容については、巻末掲載。

## -3 地域と研究者のマッチング(ワーキンググループの立ち上げ支援)

- 平成30年度は、地域（市町村）や企業・団体など主体となる関係者等へのヒアリングやワーキンググループ立ち上げの調整を行い、地域のニーズに応じて随時研究者とのマッチングを行い、観光・教育・貧困・移住定住・防災・離島の住環境問題等の地域課題ソリューションワーキンググループを開催した。
- 立ち上げたワーキンググループの一覧は以下。ワーキンググループは、地域の状況やニーズに合わせて支援を行っており、分類を下記3つに整理した。
  - 【分類1】研究者とマッチングし課題解決の検討を行っているワーキンググループ
  - 【分類2】研究シーズと課題のマッチングをしているが、具体的な実施事項等の調整が済んでいないもの
  - 【分類3】学生の実践インターンシップとマッチングしたもの
- 立ち上げたワーキンググループ（ワーキンググループ立ち上げの準備会議等の過程も含む）においては、構成する自治体・企業・NPO等のメンバーにおいて、課題解決策の検討を行い、一部モニター実施・検証を行うなどの活動を行っている。

### 【分類1】研究者とマッチングし課題解決の検討を行っているワーキンググループ

	自治体・テーマ	地域課題	連携大学・研究シーズの活用	具体的取り組み内容
1	【宮古島市】 【北大東村】 離島の住環境の解決に向けたプロジェクト	離島では、建築コストの高騰、技術者不足、住宅地や農業振興地域、条例や住民自治、空き家問題など、住環境に関する多くの課題	【琉球大学】 地域連携推進機構 特命准教授 宮里大八  宮古市の空家等対策協議会は、宮里プログラムディレクターが委員長を務めており、研究者ではなく、宮里先生及び地域が主体となってプロジェクトを進めており、研究者のシーズ活用はそれを補うものである。	離島の住宅問題について、宮里プログラムディレクターを中心にモバイルハウスの活用を提案するため、現地のフィールドワークなどにおいて、住民の意見を調査し、知見をまとめる。琉球大学本村教授や沖縄国際大学佐藤教授の地域行政、島嶼に関する知見も踏まえて、宮古市の空家等対策協議会において、住宅問題の解決策としてモバイルハウスの活用を盛り込むことを検討している。また、宮古市に提案するモバイルハウスの活用に関する知見は、他の離島地域等へも提案を広げることができる。
2	【うるま市】 地域資源を活用したコンテンツ開発	沖縄県内の観光客数の増加に伴い、うるま市への観光客誘致を行いたい観光コンテンツが不足	【琉球大学】 国際地域創造学部観光科学部研究科 荒川雅志 研究者は開発するプログラムに対する指導助言を行い、それに関連する情報や事例等の提供を行う。	うるま市の自然環境（特に伊計島などの離島）を活かした観光コンテンツの開発を提案するため、琉大荒川雅史教授のウェルネスツーリズムに関する研究の知見を活用して、うるま市観光協会やNPO法人アースホール等の団体をマッチングし観光コンテンツの開発を行う。荒川教授は、ヘルス・ニューツーリズム等の研究実績があり、ウェルネスツーリズム研究の第一人者として、観光コンテンツ開発に知見を提供する。

3	【那覇市】 防災拠点を使った宿泊型の体験プログラム開発	防災意識が低く、防災教育が重要であるが、那覇や都市部での取組がまだまだ不十分である	【沖縄国際大学】 特別研究員/講師 稲垣暁 沖縄大学・沖縄国際大学の稲垣暁特別研究員から防災キャンプについてのアドバイス・フィードバックをいただく。同氏は、防災士として県外の被災地を回りノウハウを還元している	那覇市の若狭公民館と沖縄国際大学の稲垣暁教授の防災及びソーシャルワークに関する研究をマッチングした。稲垣教授は、震災等の被災地域等で現地調査等を実施し、防災対策について知見を集めている。本ワーキンググループでは、若狭地域の住民とともに防災キャンプを開催し、住民参加型のプログラム開発を行うとともに、研究知見の収集を行う。
4	【南風原町】 【北中城村】 花いっぱい、沖縄の在来種の保護プロジェクト	在来の樹々の減少、及び生産、植え付けについての知識不足	【琉球大学】 農学部亜熱帯地域農学科教授 本村恵二 農学部本村恵二教授による沖縄独自の風土における在来の樹々の植生と、その利用方法について、プロジェクトへのアドバイス、及び学術的根拠として協力頂いている。	県内での在来の樹々の苗木の生産の減少、およびまちづくりにおける在来の樹々の利用の減少について、地域のキーパーソンや本村教授を中心に、その魅力や歴史的背景などを発信する。くわえて、苗木の生産を増やすために盆栽という手法を選択し、それについての啓発活動や、団体等への苗や栽培技術等の指導をおこなうことでネットワーキング活動を行う。
5	【那覇市/浦添市/宜野湾市】 バス（公共交通）の利用環境改善	交通渋滞緩和（公共交通利用率の向上）	【琉球大学】 国際地域創造学部 教授 大角玉樹 琉球大学の大角玉樹教授の経営学の視点から、学生のバス利用に関する調査方法・分析方法に対する助言、バスマップ製作等における助言をもらう	沖縄の公共交通である路線バスの利用が減少傾向にあり、要因としては使いづらさ、運賃が高いなどの理由が挙げられる。運賃の値下げは現実的に厳しく、その他の方法での利用増加の検討が行われなければならない。地域の渋滞緩和などの課題もあり、どのような改善法があるかの課題分析を行い、対策について検討を行う。

- ・ 分類1のワーキンググループの活動内容の詳細については、p.20以降に記載する

#### 【分類2】研究シーズと課題のマッチングをし、WG立ち上げを支援したもの

	自治体	地域課題	連携大学・研究シーズの活用	具体的取り組み内容
1	【北谷町】 観光客向けの防災対策計画に向けたプロジェクト	観光客向けの防災計画	【琉球大学】 工学部工学科社会基盤デザインコース准教授 神谷大介 防災マップ製作の手法に関する指導助言、避難ルートや環境整備等の防災インフラに関する情報提供	琉球大学工学部神谷大介教授の避難ルートや環境整備等の防災インフラに関する研究を活用し、北谷町の観光客向け防災体制を検討する。
2	【恩納村】 移住定住プロジェクト	観光業のための移住者やOIST関係者の転入が多く人口微増であるが、子育て世代が少ない状況であり、どのように若者を呼び込むかが課題	【名城大学】 国際学群国際学類経営情報教育研究学系 准教授 大城美樹雄 名城大学の名城大城美樹雄准教授は、地域コミュニティの課題解決を行う学生プロジェクトを支援し、自治会に残る伝統文化芸能の継承活動などを行っており、それら活動を持続的に取り組める調査研究を行っている	人口の減少傾向になること、地域のコミュニティへの影響や伝統行事や伝統芸能の継承が困難になることが予想されており、定住に必要な施策を調査・検討を行う。

3	【宜野湾市】 子どもの貧困 に対する大学 連携の手立て の検証	教育機会の平等 化	【県立看護大学】 看護学部看護学科 准教授 井上松代 公民館を活用した高等教育機 関と連携した教育プログラムの 一例として、県立看護大学井 上松代准教授が研究開発した 性教育プログラムを実施する。 その際、井上准教授が顧問を つとめる生サークル「きらり」とも 連携を行い、学生参加型の教 育プログラム実施の検証にもつ なげる。	子どもの貧困という課題に対して、学校教育や家庭教育以外に大学を活用した地域における社会教育の機会を提供するためのプログラム（モデルケース）を提案する。モデルケースとなる教育プログラムとして、看護大学井上教授の性教育に関する実践的研究をマッチングし、子どもの貧困という大きな課題に対して、性教育という観点から大学と地域（公民館）の連携による社会教育プログラムを提示する。
---	---	--------------	---	--

### 【分類3】学生の実践インターンシップとマッチングしたもの

	自治体	地域課題	連携大学	実践的インターン「お題解決プログラム」とマッチングした理由	具体的取り組み内容
1	【糸満市】 自治会加入 率向上、青 年会活動活 性化について	糸満は糸満ハーレー や綱引きなど伝統行 事が多く、それら行事 に青年会が関わる活 動が数多くあるが、自 治会や青年会の加 入率に伸び悩んでい る	琉球大学	自治会加入や青年会加入など の課題を大学生を中心とした若 者の視点を踏まえての分析を行 いたいとの理由から、自治体が 学生との連携を要望した	他地域でも同様だが、市民の自治会加 入率や青年会活動が低迷状況にあり、 地域のつながりの貧弱化から、家庭の孤 立など様々な課題につながっていく。このよ うな背景がある中で、これらの課題を改め て分析し、地域の解決につなげていけるよ う協議を行う。
2	【与那国町】 与那国島を 資源とした新 しい観光事 業の立ち上 げ支援	観光におけるソフト 面・ハード面共に不 足している一方で、 未開発の資源も多く 残っており、沖縄本 島の観光とは違うジャ ンルの観光事業を 目指している（富裕層 向けの観光など）	琉球大学	与那国町では人口施策として若 者のUIターンにも関心を持ってお り、大学生等との交流や情報発 信の機会として自治体が実践型 インターンとのマッチングを要望し た	与那国島では、観光誘客のためのソフト 面・ハード面の両方が不足している。一方 では未開発の資源も多く残っており、沖縄 本島の観光とは違うジャンルの観光事業 （富裕層向けの観光など）を目指してい る。このプロジェクトでは与那国島の観光 資源の発掘から事業化（観光サービス 開発）までを取り組んでいく。
3	[再掲] 【宮古島市】 離島の住環 境の解決に 向けたプロジ ェクト	離島では、建築コス トの高騰、技術者不 足、住宅地や農業 振興地域、条例や 住民自治、空き家問 題など、住環境に関 する多くの課題	琉球大学	当該テーマはワーキンググループ での課題検討も行われている が、自治体により新しい視点の ひとつとして大学生との連携も要 望されたため実践型インターンと のマッチングも行い、大学生視点 での課題解決策の提案も並行 して行った。	ワーキンググループで共有される課題や検 討される解決策などを一部共有しながら、 別途観光協会や地域企業へのヒアリング 等を行い、大学生としての当該テーマに 対する解決策を企画し、提案する。

4	<p>[再掲] 【那覇市】 防災拠点を使った宿泊型の体験プログラム開発</p>	<p>防災意識が低く、防災教育が重要であるが、那覇や都市部での取組がまだまだ不十分である</p>	<p>琉球大学</p>	<p>当該テーマはワーキンググループでの課題検討も行っているが、プログラムの対象となる住民のタイプ（様々な年齢層や、独居・ファミリー等）のひとつとして学生の視点も取り入れたいとして、ワーキンググループにより大学生との連携の要望があったため、ワーキンググループと並行して大学生視点での課題解決策の提案も行った。</p>	<p>ワーキンググループで共有される課題や検討される解決策などを一部共有しながら、別途公民館や地域企業・地域住民へのヒアリング等を行い、大学生としての当該テーマに対する解決策を企画し、提案する。</p>
---	---	--	-------------	--	---

- 分類3の学生インターン生の活動内容および提案内容については、「第3章 3-3学生インターンの送出」の項にて記載する。

# 離島の住環境問題の解決に向けたプロジェクト

対象自治体

宮古島市 北大東村



## 地域課題

離島では、建築コストの口頭、技術者不足、住宅地や農業振興地域、条例や住民自治、空き家問題など、住環境に関する多くの課題を抱えている

## 連携大学

琉球大学地域連携推進機構  
特命准教授 宮里大八  
琉球大学 人文社会学部  
人間社会学科地域福祉学  
教授 本村真  
(社会福祉学)

## 研究シーズの活用

宮古島市の空き家等対策協議会は、宮里プログラムディレクターが委員長を務め、宮里プログラムディレクターと地域が主体となってプロジェクトを進め、研究者のシーズ活用はそれを補うものである

## 内容

離島の住宅問題の解決に向けたプロジェクト。宮古島市や北大東村をはじめとした離島での生活や環境を理解し、その上で現在起こっている住宅問題解決に向けたワークショップや意見交換等を産学連携のもと企画・運営する。そこで得られた成果や知見をまとめ、各連携先へ還元する。

## H30年度の活動スケジュール

- 第1回：10/10宮古島市空き家等対策協議会
- 第2回：12/18宮古島市空き家等対策協議会  
宮古島フィールドワーク
- 第3回：2/4宮古島市空き家等対策協議会
- 第4回：2/26北大東村意見交換会

## 主な関係団体

- 沖縄国際大学法学部地域行政科
- 宮古島市空き家等対策協議会
- jardin raphas主宰
- 北大東村建設課
- 宮古島市住宅情報センター
- 琉球大学 人文社会学部人間社会学科地域福祉学



## 活動の内容詳細

ワーキンググループ名	離島の住環境問題の解決に向けたプロジェクト
課題解決策の検討	<p>離島では、地方創生を進めるにあたり観光振興や若者のUIターンや移住定住を促進していきたいが、建築コストの高騰、技術者不足、住宅地や農業振興地域、条例や住民自治、空き家問題など、住環境に関する多くの課題が存在する。例えば北大東村では、最終的に「定住人口」の増加を目指したいが、島に足を運び島での生活に触れてもらうためのきっかけを作る施策を企画・実施するにも宿泊施設やアパートなどを新たに建設するには課題がある。そこで、本ワーキンググループでは宮古島市・北大東村のふたつの離島の状況などを参考にし、今後の離島振興においては「関係人口」をいかに増やしていくかとの本村教授の助言も踏まえ、提案する対策案の方針を空き家リノベーションやモバイルハウスなどを活用し、観光拠点や2拠点生活などの新しいライフスタイルを行う若者の関係人口増加につなげる新しい視点での住環境問題解決案について情報収集を行い、提案を行うものとした。</p>
課題解決策の実施	<p>離島の住環境問題について、モバイルハウスや空き家活用を提案するため、現地のフィールドワークなどを行い、離島関係者の意見を調査を行った。この活動を通して、離島の「関係人口」構築に対しこれらの提案が一定程度有効であることが確認できた。この結果を宮古島市空き家対策協議会においては宮里プログラムディレクターから会議内で、また北大東村においては意見交換の場で報告を行った。加えて、北大東村では、北大東村におけるヒアリングやフィールドワークの内容も踏まえ、同村の状況に合わせたモバイルハウス活用案を提示し、フィードバックを行った。</p>
今後の展開	<p>今後地方創生においては、「関係人口」に向けての取り組みの必要性がますます高まる。また、離島における住環境問題の課題解決をモバイルハウスで取り組むことが全国的にも先進的な取り組みであり、地域と地域外の担い手とを繋げる「関係人口」を増やす可能性が期待できる。今後は、宮古島や北大東島だけでなく、その他の離島に対しても住環境の課題解決に向けて提案を行っていく。</p>

参考（「関係人口」についての参考：総務省資料[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000568239.pdf?fbclid=IwAR1tenbd4z9MucCsDW2rkjpxiZiV9osHFpkIbNjQCX74aoQt52-jLSdUSy8](http://www.soumu.go.jp/main_content/000568239.pdf?fbclid=IwAR1tenbd4z9MucCsDW2rkjpxiZiV9osHFpkIbNjQCX74aoQt52-jLSdUSy8)）

## 地域資源を活用したコンテンツ開発プロジェクト

対象自治体

うるま市



### 地域課題

沖縄県内の観光客数増加に伴い、うるま市への観光誘致を行いたい、観光コンテンツが不足している

### 連携大学

琉球大学国際地域創造学部  
観光科学研究科荒川雅志  
(ウェルネスツーリズム研究)

### 研究シーズの活用

研究者は開発するプログラムに対する指導助言を行い、それに関連する情報や事例等の提供を行う

### 内容

うるま市では、沖縄県内の観光客数の増加に伴い、市への観光客数の増加に伴い、市への観光客誘致を行いたい、観光コンテンツが不足している状況である。一方、伊計島の離島を含む自然環境などの地域資源は豊富であるため、それらを生かしたコンテンツ開発を行う。

### H30年度の活動実績

- 第1回：9/21ワーキンググループ活動計画案策定
- 第2回：10/22メンバー選定・依頼
- 第3回：11/12プログラム開発方針のアイデア出し
- 第4回：11/21フィールドワーク計画
- 第5回：12/26フィールドワーク①（地域資源視察）
- 第6回：3/2-3フィールドワーク②（地域資源視察）
- 第7回：3/14フィールドワーク振り返り・プログラム案素案策定

### 主な関係団体

- NPO法人ホールアース沖縄
- 株式会社roku you（教育コーディネイト会社）
- 一般社団法人プロモーションうるま
- うるま市企画部企画政策課
- 琉球大学 国際地域創造学部観光科学研究科
- 琉球大学地域連携推進機構 地域連携コーディネーター

## 活動の内容詳細

ワーキンググループ名	地域資源を活用したコンテンツ開発プロジェクト（うるま市）
課題解決策の検討	開発するプログラムの方針として「うるま市の地域資源が活かされ、うるま市独自の観光コンテンツの開発を行う」ことが関係者会議で決定し、うるま市のヒト・自然・文化などの資源を改めて洗い出し、プログラム開発を行うこととなった。研究者からは、コンテンツ開発の方針策定の段階でウェルネスツーリズムの観点からの助言をもらい、うるま市の、特に島しょ地域を活かしたリゾートツーリズムなど新しいプログラムの可能性について示唆をもらった。
課題解決策の実施	うるま市内外、県内外の観光コンテンツや教育コンテンツ企画の経験を有する有識者（企業を含む）の視点から、うるま市の地域資源を改めて洗い出し、プログラム案の開発を行うこととなり、全3回のフィールドワークを行い、プログラム案としてまとめた。
今後の展開	次年度以降、開発したプログラム案の実証研究のためモニターツアーなどを実施し、事業化につなげていく。本プログラムは、うるま市の新しいブランディングを構築するコンテンツとなることが期待されるため、本ワーキンググループでネットワーク構築された産学官連携ネットワークでの取り組みとしていく。また、今年度は、プログラム案をまとめるまでに留まっているが、モニターツアー等の実施に向け改めて研究者等の知見をもらい、ブラッシュアップをかけていきたい。

## ヒアリング・フィールドワークの内容

フィールドワーク
<p>目的：文化的リソースとなりうるコンテンツを実際にフィールドワーク・ヒアリング また、うるま市の地域づくりに関わる関係者へのヒアリングも同時に行う</p>
<p>【フィールドワーク①平成30年12月26日(水)】</p> <p>訪問先：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合資会社越来造船 4代目代表 越来勇喜氏 琉球王朝時代から受け継がれる「まーらん船」の造船の歴史からうるま市の歴史・文化についてヒアリング <a href="http://www.urumajikan.com/portfolio_page/goeku/">http://www.urumajikan.com/portfolio_page/goeku/</a></li> <li>・一般社団法人プロモーションうるま 代表 中村薫氏 うるま市の地域づくりの施策に関わってきた経験から、新しいコンテンツ作りに対しての意見をヒアリング</li> <li>・monobox 河野こずえ氏 うるま市の工芸作家などの作品を扱うセレクトショップをオープンするなどうるま市活性化に寄与する同氏にうるま市活性化のビジョンをヒアリング</li> </ul> <p>【フィールドワーク②平成31年3月2日(土)～3日(日)】</p> <p>訪問先：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うるま市移住コーディネーター 石川優子氏（宮城島まち歩き） 宮城島のまちを回りながらうるま市島嶼地域の魅力や課題などについてヒアリング</li> <li>・宮城島移住者 Marylka Yoe Uusisaari氏（OIST研究者） 移住者の視点からの宮城島の魅力、今後の可能性についてヒアリング・空き家活用事例</li> </ul>

**勉強会・ワークショップ：**

・講師：ハバタク株式会社代表 丑田俊輔氏

『地域の資源を生かすビジネス開発・コンテンツ開発について』

・フィールドワークでは、主に「人」を取り上げ、海外からの移住者・県内他市町村からの移住者・地元住民・コーディネーター業に携わる方など多様な立場の方々にヒアリングを行ったが、移住者の多くは「島の生き方で人生が変わった」「命が救われた」など、島嶼地域に今なお残る伝統文化・昔ながらの生き方・地域コミュニティの価値に言及している。

・フィールドワークをもとにおこなった振り返りのワークショップでも、「生き方を見直す場所」や「リトリート」などのキーワードが多く挙がった。

**開発プログラム内容**

ヒアリングやフィールドワークの結果、うるま市島嶼地域の「ヒト」「生き方」「自然」を活かし、ワークショップであった『うるま市 リトリート島』をコンセプトにした、短期リトリート・中長期滞在型リトリート・ビジネスリトリートの研修コンテンツを開発することとなった。（※リトリート＝近年、日常生活から遠ざかり精神のリフレッシュや自己啓発等を行う研修などの意に使われる）

**プログラム内容：**

【案 1】短期リトリートプログラム

期間：3日～1週間

内容：期間中は携帯やデジタルツールを一切持たず過ごす。Social Emotional Learningの手法を用いて自分に向き合い、島の人や島の生き方との出会いにより、自分の生き方に向き合う。一人でいる時は自然と内省が進み、対話プログラムでは体験の言語化による気づきを得る。

【案 2】中長期リトリートプログラム

期間：2週間～1か月

内容：島での滞在・生活をベースに、日ごろの生活スタイルとは違った時間の流れを体験する。滞在中は与えられた「島の役に立つ」ミッションをこなしながら、島の人とのふれあいや生活の中で自分に向き合い、生き方を再考する。

【案 3】ビジネスリトリートプログラム

期間：3日～1週間

「考える」のではなく「感じる」、自己受容したありのままの状態、直感的にサインを受け取り必要なメッセージを得る力を、日常に帰ってからビジネスの現場に実用する。これまで当たり前になっていた認知の枠組を越えてパラダイムがシフトし、行動が本質的に変容することで、起こる結果が大きく変わる

## 防災拠点を使った 宿泊型の体験プログラム開発

対象自治体

那覇市



### 地域課題

自主防災組織の人口カバー率は全国平均80%以上に対して、那覇市は約10%と沖縄県の中でも低いカバー率であり、避難所の大幅な不足も課題となっている。有事の際には野外泊や車中泊を強いられる状況が容易に想像できるが、対策としては課題が山積している。

### 連携大学

沖縄国際大学  
特別研究員/講師  
稲垣暁  
(社会福祉・防災研修)

### 研究シーズの活用

研究者は開発する防災キャンプに対する指導助言を行い、それに関連する情報や事例等の提供を行う。

※稲垣暁特別研究員は、防災士としても県外の被災地を回り、ノウハウの集積がある。

### 内容

那覇市など都市部を中心に防災意識向上を目指すプロジェクト。市民の野外体験機会や実際避難所となりうる組織、公的施設での受け入れ体制向上を狙いとし、各所との連携を図り「防災キャンプ」など住民が親しみをもって参画できる防災プログラムの開発を行う。また、地区や学区単位などで行えるようになれば、地域コミュニティ形成や活性化、協働のまちづくりを行える入口となりうる。

### H30年度の活動実績

- 第1回：10/25スタートアップミーティング（プロジェクト概要等共有）
- 第2回：12/5 関係者ミーティング（プロジェクト実施計画策定）
- 第3回：12/14関係者ミーティング（防災キャンププログラム案策定）
- 第4回：12/19関係者ミーティング（防災カルタ・防災キャンプ企画）
- 第5回：1/5-6防災カルタ・防災キャンプ試験実施@若狭公民館
- 第6回：1/21 関係者ミーティング（防災キャンプ振返・成果分析）
- 第7回：2/22関係者ミーティング（防災デイキャンプ企画）
- 第8回：3/24 防災デイキャンププログラム試験実施@緑ヶ丘公園

### 主な関係団体

- 若狭公民館 ○那覇市防災危機管理課
- 沖縄国際大学 稲垣暁（ソーシャルワーカー、防災士）
- Happy防災プロジェクト（赤い羽根福祉基金助成事業）
- 那覇市民協働大学院 ○学校法人ゴレスアカデミー

## 活動の内容詳細

ワーキンググループ名	防災拠点を使った宿泊型の体験プログラム開発（那覇市）
課題解決策の検討	開発するプログラムの方針として「地域住民が気軽に参加でき、かつ、参加することにより住民同士が継続して防災についての知識や経験を高め合えるプログラム」が関係者会議で決定し、その方針に基づき、『防災キャンププログラム』の提案がされ、今年度は、『防災キャンププログラム』のプログラム案の策定と、トライアル実施を行うこととした。その後、『防災キャンププログラム』の振り返りから、新たに『防災デイキャンププログラム』も提案され、2つのプログラムのトライアル実施を行うこととなった。
課題解決策の実施	『防災キャンププログラム』『防災デイキャンププログラム』のふたつのプログラムのプロトタイプを作成し、実施検証を行った。実証実施の内容について稲垣教授がプログラム構成に対する助言及び分析を行い、両プログラムについては、一部改善の余地はあるものの、プログラムの有効性は認められたため、引き続き今後の展開につなげることで合意された。
今後の展開	若狭公民館においては、現ワーキンググループのメンバーを中心に活動を継続し、年4回防災キャンププログラムを実施し、季節や天候などの異環境下における防災キャンプの実証を行う。また、このプログラムを他地域に展開できるよう、那覇市との協議を継続する予定。

## 開発したプログラム（案）及び分析内容

### 『防災キャンププログラム（開発プログラム1） トライアル実施』

日時：平成31年1月5日～6日 14：00～翌12：00

場所：那覇市立若狭公民館

目的：宿泊型防災プログラム開発における効果検証

参加者：計15名（大学関係者3名、行政0名、地域団体5名、コーディネーター等2名、その他一般5名）

防災キャンププログラム内容：

〈参加条件〉

- ・持ち物等は「避難」を想定して自分で考えて持参
- ・食事も同様に

【1日目〈1/5(土)〉】

14:30-15:00 防災キャンプ受付

15:00-15:30 オリエンテーション、自己紹介

15:30-17:30 寝床作成、寝床見学

17:30-19:00 ご飯準備、防災食夕ご飯

19:30-21:00 防災グッズお試し会

【2日目〈1/6(日)〉】

7:00-8:00 朝食

8:00-9:30 振り返り会



9:30-11:00 片付け

11:00 解散

分析内容：

・本プログラムの検証は、様々な属性（防災経験値、社会的状態）のメンバーにより構成されており、適切な防災プログラムの検証ができた。

・本プログラム内は、「持ち物は自己完結」「食事も各自持参」「寝床づくりは各自」という設計になっており、参加者により様々な行動傾向が見て取れ、この状況は、実際の被災地の現場をシュミレーションする場を作り出すのに十分なプログラム設計であると言える。

・実際の被災地となると、避難所における生活期間や、その他の環境（ライフラインや収容人数、物資など）が更に深刻な状況になり得ることは言うまでもないが、本プログラムは、地域において住民が気軽に参加しながら、回数を重ねるごとに防災知識をお互いに学びあい、高めあえるプログラム設計としている。

・改善点としては、地域において災害時の避難場所（公園や学校など）での実施を行うなどの工夫が必要。しかしながら、公園や学校などは宿泊型プログラムとなると利用制限等で実施が難しい場合が多いので、「デイキャンププログラム」も有効であると考ええる。

### 『防災デイキャンププログラム（開発プログラム2） トライアル実施』

日時：平成31年3月24日10:00-18:00

場所：那覇市緑ヶ丘公園

目的：日帰り型防災プログラム開発における効果検証

参加者：計100-150名

防災デイキャンププログラム内容：

〈参加条件〉

・運営も参加者も自己完結型のデイキャンププログラム・出入り自由

【3/24(日)】

10:00～ 受付（目印はパーラー公民館）

10:00～ テントや寝床づくり、ご飯準備

12:00～ お昼ご飯

13:00～ 防災グッズ体験やお昼寝

15:00～ おやつタイム

16:00～ 防災グッズ体験や片付け、お掃除（18:00終了）



・本プログラムは地域の防災プラットフォームとして有効である。自己完結型のプログラムにより、トップダウンの防災訓練などでは生まれない地域の自主性や主体性が生じる。海外の方、観光客、車椅子、高齢者から子供達と防災訓練では中々巻き込めない多様な世代、多様な層を巻き込むプログラム構成により、実際の被災時や避難時の状況と近い環境を再現できる。

・また今回のプログラムで実施したアンケートは100人前後、インタビューによるヒアリングは30人前後のデータを得ることができた。それを基に地域の防災人材の発掘やさらには地域課題の更なる発掘を狙う。

# 花いっぱい、 沖縄の在来種の保護プロジェクト

対象自治体

南風原町 北中城村



## 地域課題

在来の樹々の減少、および、  
生産、植え付けについての知識  
不足

## 連携大学

琉球大学

農学部亜熱帯地域農学科

教授 本村恵二

(育種学・作物学)

## 研究シーズの活用

沖縄独自の風土における在来  
の樹々の植生と、その利用方  
法について、農学部本村恵二  
教授によりプロジェクト全体への  
指導助言、および学術的根拠  
の提供を行う

## 内容

県内での在来の樹々の苗木の生産の減少、および、まちづくりにおける在  
来の樹々の利用の減少について、地域のキーパーソンや大学研究者を  
中心に、その魅力や歴史的背景などを発信する。加えて、苗木の生産を  
増やすための手段として盆栽という手法を選択し、それについての啓発活  
動やネットワーキング活動を行う。

## H30年度の活動実績

第1回：7/11関係者会議

第2回：9/25スタートアップミーティング

第3回：10/13盆栽づくりワークショップ

第4回：10/16在来の樹々の周知に関する展示作品制作

展示@沖縄タイムス社ビル

第5回：10/25協議会

「持続可能な地域美化モデルの創出プロジェクト～南風原モデル構築」

第6回：12/10展示のための準備活動

第7回：12/15在来の樹々の魅力を伝える展示作品制作

展示@ホテルマリオット

第8回：1/27 フォーラム開催@東南植物楽園

## 主な関係団体

○琉球大学農学部 ○琉球大学地域連携推進機構

○カゼモニワ（任意団体）

○北中城のコミュニティ アメナルミチ

○東南植物楽園 ○クレイ沖縄



## 活動の内容詳細

ワーキンググループ名	花いっぱい、沖縄の在来種の保護プロジェクト
課題解決策の検討	南風原町と宜野座村からのニーズをもとに「花いっぱい運動、地域美化に関する持続可能なモデル研究」と連携する形で、持続可能な地域美化や在来種の保存についての課題解決に向けて取り組んだ。
課題解決策の実施	南風原町と宜野座村へ本村教授から苗の提供と栽培管理に関する技術指導を行い、持続的な地域美化活動の推進をした。北中城村は在来種の保存の拠点としてNPO等と連携した取り組みでワークショップなどを実施した。 県内での在来の樹々の苗木の生産の減少、およびまちづくりにおける在来の樹々の利用の減少について、地域のキーパーソンや本村教授を中心に、その魅力や歴史的背景などを発信した。加えて、苗木の生産を増やすために盆栽という手法を選択し、それについての啓発活動のシンポジウムや人的なネットワーキング活動を行った。
今後の展開	南風原町と宜野座村では、栽培管理を担う役場や自治会の地域リーダーに対して継続的な指導及び助言を行っていく。また、持続的な取り組みを行うために、在来種の盆栽を通じた環境教育、ソーシャルな資金調達の方法を検討していく。

### 『盆栽づくりワークショップ』

日時：平成30年10月13日 10：00～13：00

場所：北中城村 アメナルミチ

講師：

・カゼモノワ代表 多田 弘

参加者：14名

(大学関係者1名、地域団体3名、コーディネーター等1名、その他一般7名)

成果：県内在来の樹々の苗木をつかって、盆栽づくりを行った。参加者からは「手を動かして作ると楽しいし愛着がわく」「沖縄県にいるが苗木を見たのは初めて」など感想を頂いた。実際に盆栽をつくりながらそれぞれの樹々についての生態や、県内でなぜ在来の樹々が減少傾向にあるかなどの具体的な講義も行うことで、参加者は盆栽づくりを通して現状を学び、沖縄県の課題である風景づくりについての関心がより向上したといえる。

また、それぞれが持ち帰った盆栽づくりの技術をもとに、苗木生産者との交渉によって苗木の生産枠の増加が見られた。



---

### 『在来の樹々の周知に関する展示作品制作及び展示@沖縄タイムスビル』

日時：平成30年10月16日 9：00～17：00

場所：沖縄タイムスビル

講師：

・カゼモノワ代表 多田 弘

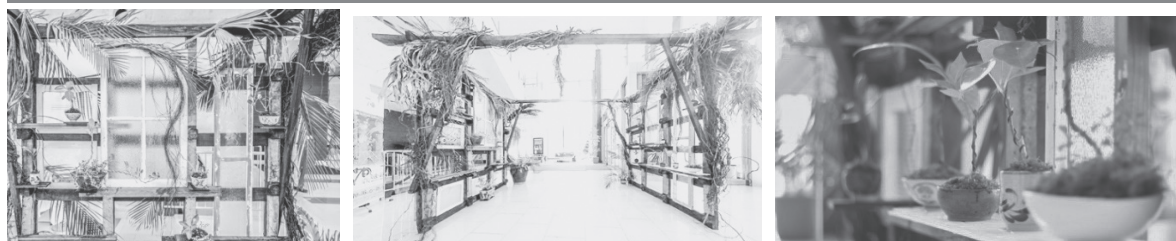
・東風平木工芸組合 木の工房楽樹 古我知 毅

参加者：10名（展示製作者）

（大学関係者1名、地域団体5名、コーディネーター等1名、その他一般3名）

成果：沖縄タイムスにて、県内の古民家解体に伴って出た廃材やガラス、在来の樹々を用いた展示活動を行った。来場者でも高齢者の方からは「懐かしい」「こういうガラスだったよね」「こういう樹々が当たり前にあった」など、風景についてのコメントを頂き、その他の来場者も「県内で在来の樹々がほぼ生産されていないのを初めて知った」など、風景についての関心向上がみられた。

また、器はホテルサンパレス球陽館から実際に戦前～戦後期のものを寄付していただき行った。当プロジェクトの内容への深い共感を頂いての連携だった。



---

### 『在来の樹々の周知に関する展示作品制作展示@マリオットホテル』

日時：平成30年12月15日 10：00～18：00

場所：マリオットホテル

講師：・カゼモノワ代表 多田 弘 ・アメナルミチ代表 武島 綾子 ・東風平木工芸組合 木の工房楽樹 古我知 毅

参加者：15名（展示製作者）

（大学関係者1名、地域団体5名、コーディネーター等1名、その他一般8名）

成果：

前回の展示活動よりも、開催場所の関係で県外の方が多く来場した。結果として県内の課題についての発信ができたとともに、県内の樹々のもつ魅力を感じて頂いた様子や、購入できないかという相談も複数寄せられた。

資金を確保しながら県内在来の樹々の苗木生産、および植え付けイベント開催などその後の活動の流れが見えるきっかけとなった。

また今回は前回の展示を見てじぶんも参加したいと集まってくださった方が多くおり、展示物を製作しているなかで、具体的な活動のアイデアが深まるなど、製作を通じて活動の活発化も起きた。



## 100年ぬ森まじゅんちくらや（沖縄風景プロジェクト キックオフイベント）

日時：平成31年1月27日 9：00～18：00

場所：東南植物楽園

トークセッション登壇者：

- ・琉球大学 農学部 教授 本村 恵二 ・カゼモニワ代表 多田 弘 ・アメルミチ代表 武島 綾子
- ・プロジェクトメンバー 宮野 静香 ・東風平木工芸組合 木の工房楽樹 古我知 毅
- ・多幸の山自然学校 校長 安富祖 常雄 ・成勝園 盆栽師 平尾成志

参加者：64名（大学関係者2名、地域団体8名、コーディネーター等1名、その他一般53名）

成果：今年度の動きの集大成と、次年度以降も活動を継続するためにキックオフイベントと位置づけてフォーラムを開催した。構成としては有識者とプロジェクトメンバーによる現状と未来への展望について専門的な知識も交えたトークセッション、盆栽師平尾成志によるパフォーマンス、盆栽づくりのワークショップや草遊びのワークショップ、木工のワークショップなど、在来の樹々の魅力を来場者に体感していただくのを目的とした。

アンケートには「風景づくりについてもっと知りたい」「子どもたちと自然に触れ合えて良かった、これからもそういう場所が欲しい」など、これからの活動への希望を感じる言葉が並び、トークセッション登壇者らも次年度以降の活動の方向をトーク内で見つけるなど、今年度のまとめと来年度への道のりが見えたイベントとなった。



# バス（公共交通）の利用促進による 交通渋滞緩和を解決するプロジェクト

対象自治体

那覇市 浦添市 宜野湾市



## 地域課題

公共交通利用率の向上と  
交通渋滞緩和

## 連携大学

琉球大学 国際地域創造学部  
経営学プログラム  
教授 大角玉樹  
(観光学・経営学)

## 研究シーズの活用

研究者は開発するプログラムに  
対する指導助言を行い、それに  
関連する情報や事例等の提供  
を行う

## 内容

現在、沖縄の主要な公共交通である路線バスの利用が減少傾向にあり、要因としては使いづらさ、運賃の高さなどが理由に挙げられる。運賃の値下げは現実的に厳しく、その他の方法での利用増加の検討が行われなければならない。地域の渋滞緩和などの課題もあり、どのような改善方法があるかの分析を行い、主に学生の利用を促すための対策について検討を行う。

## H30年度の活動実績

- 第1回：12/6 関係者会議：方向性・スケジュール等
- 第2回：12/7 [講義] 参加学生へのレクチャー（意見交換）
- 第3回：12/13 関係者会議：プロジェクトの進め方について協議
- 第4回：12/19 [講義] 課題の分析・アイデア出し
- 第5回：1/9 [講義] ターゲットの絞り込み
- 第6回：1/23 関係者会議：教授
- 第7回：1/30 [講義] バスマップ試案作成
- 第8回：2/20 関係者会議：大学における配布方法の検討
- 第9回：2/28 関係者会議：振り返り、次年度の取り組みについて

## 主な関係団体

- 琉球大学
- 株式会社アカネクリエーション ○エマインタープライズ株式会社
- 沖縄県交通政策課

※平成30年度「公共交通の利用環境改善に係る広報活動」と共同での実施

## 活動の内容詳細

ワーキンググループ名	バス（公共交通）の利用により交通渋滞緩和を解決するプロジェクト
課題解決策の検討	関係者会議においてターゲットを「学生のバス利用」に絞り、学生のバス利用に関する動向を把握し、学生の行動範囲に合わせた路線マップ製作等を行うために、ゼミの学生と連携をすることとなった。
課題解決策の実施	大角教授が経営学の観点から、動向調査の方法や企画内容の作成等について随時学生らに助言を行いながら、①大学生の利用しやすい路線検討のための調査 ②①を踏まえたバスマップの作成を行った。バスマップについては、「学生」の中でも比較的車保有率の低い新入学生にターゲットを絞り、調査・作成を行った。また、この活動で製作したバスマップを、平成31年度琉球大学入学式で新入学生に配布するため、事務局調整を行った。
今後の展開	4月には作成したバスマップを琉球大学1年次へ配布し、活用を促す。その活用度などを継続的に観察・追跡調査しながら、今回の大学生からの意見を踏まえ、課題解決に向けた新しい取り組みを模索する。

### 講義におけるマップ製作の流れ

12/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生向けに沖縄におけるバス事情と取り巻く課題についてレクチャーを行なった</li> <li>・大学生のバス事情（乗る、乗らない）をディスカッションした</li> </ul>
12/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12/7に参加した大学生の中の有志（大角ゼミ生）が集まり、バスマップ作成に関する説明を行なった</li> </ul>
1/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生がどんなタイミングでバスに乗るか（乗っても良いと思うか）について意見交換を行なった</li> <li>・バスを使うとしたら、目的地はどこになるかを話し合い、マップのアイデアを出した</li> <li>・この時にバスに乗る可能性のある「大学1年生」「留学生」を対象にすることになった</li> </ul>
1/23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/9に話し合った内容を踏まえ、目的地に関してさらにアイデア出しを行なった</li> <li>・目的地だけでなく、どんなタイミングであれば乗るのかということを含めたマップの使用方法を検討した</li> </ul>
1/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスマップの仕様（形、大きさ、目的地以外に載せる情報）について話し合った</li> </ul>
2/6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したラフ案を元に変更点や修正点について話し合った</li> <li>・この後はメール等で教授を通して、整理することになった</li> </ul>



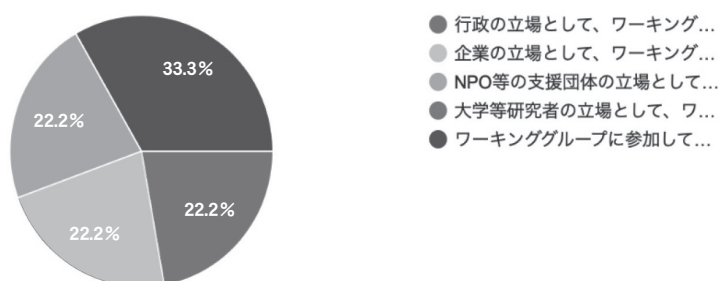
## 2-4 地域へのアンケートによる検証（課題解決への貢献度）

- 平成30年度は、市町村の課題解決への貢献度を挙げていくため、市町村と地域の課題解決策の具体的な提案を行い、評価を高める取り組みを実施してきた。その成果を図るために、ワーキンググループを開催した市町村の構成メンバーに対しアンケート調査を実施した。
- 結果は以下の通り。

[質問 1] 本事業では、地域課題を解決するためのワーキンググループ（意見交換会、研究会、委員会、ミーティングを含む）を立ち上げております。ワーキンググループの参加についてお尋ねします。

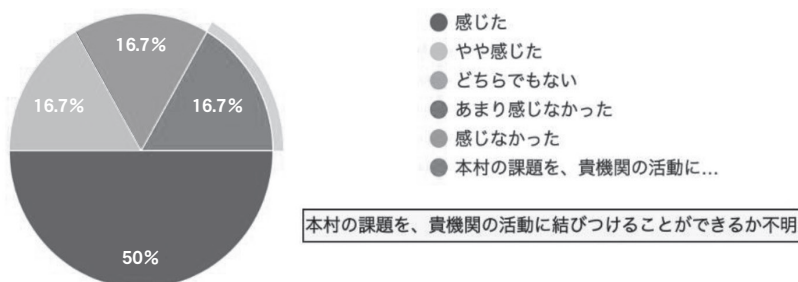
- 行政の立場としてワーキンググループに参加した
- ワーキンググループに参加していない
- 企業の立場としてワーキンググループに参加した
- NPO等の支援団体の立場としてワーキンググループに参加した
- 大学等研究者の立場としてワーキンググループに参加した

9件の回答



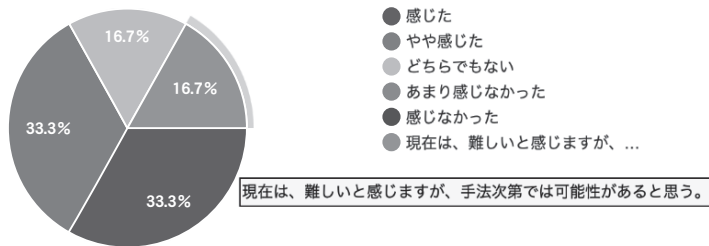
[質問 2] ワーキンググループに参加された方にお尋ねします。ワーキンググループの活動や提案内容が地域課題解決に貢献すると感じましたか？

6件の回答



[質問 3] ワーキンググループに参加された方にお尋ねします。ワーキンググループで大学等研究者の研究シーズが課題解決に貢献すると感じましたか？

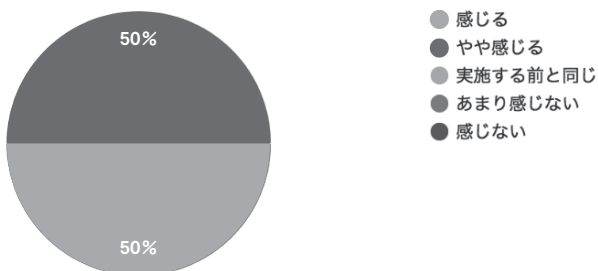
6件の回答



[質問 4] 大学等研究者に対してお尋ねします。ワーキンググループに参加して、学外連携の関心度が向上されましたか？

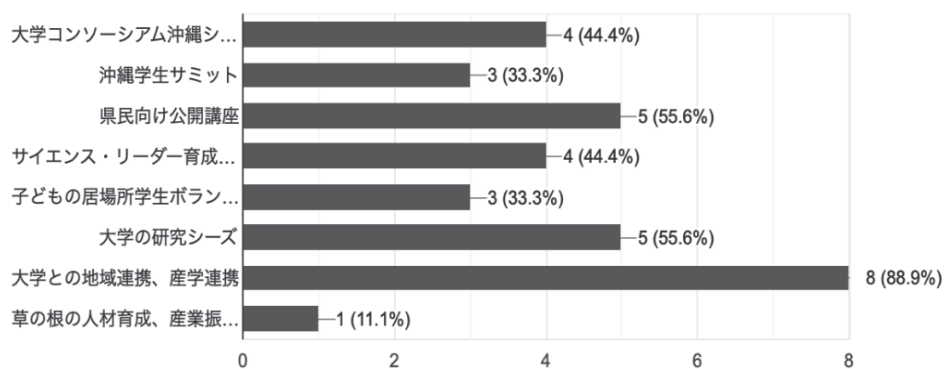


[質問 5] ワーキンググループに参加されなかった方に対してお尋ねします。大学、行政、企業、NPO等の産学官連携による本事業が地域課題解決に貢献すると感じますか？



[質問 6] 大学コンソーシアム沖縄は、大学等の沖縄県内の高等教育機関が連携して事業を実施しています。以下のどの事業に興味がありますか。

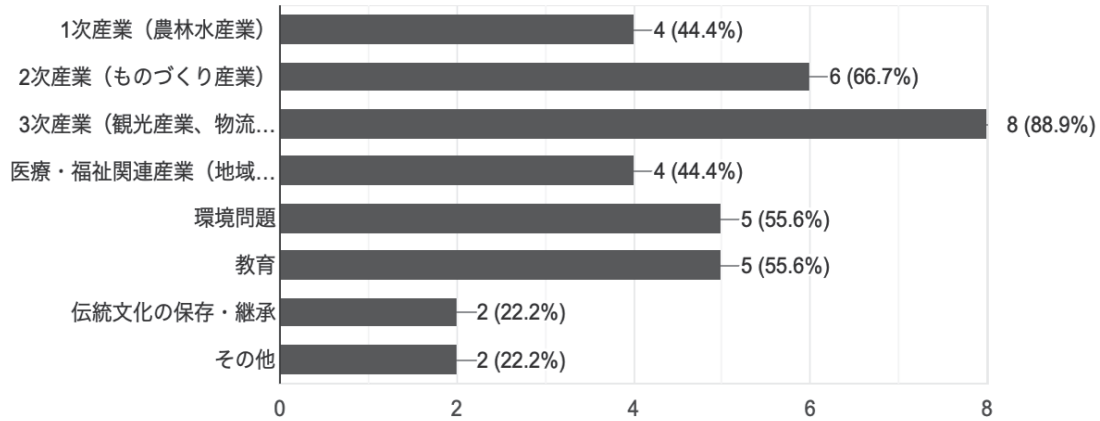
- 大学コンソーシアム沖縄シンポジウム
- 沖縄学生サミット
- 県民向け公開講座
- サイエンス・リーダー育成講座（子ども科学人材育成事業）
- 子どもの居場所学生ボランティアセンター
- 大学の研究シーズ
- 大学と地域連携、産学連携
- その他
- 草の根の人材育成、産業振興の関心喚起





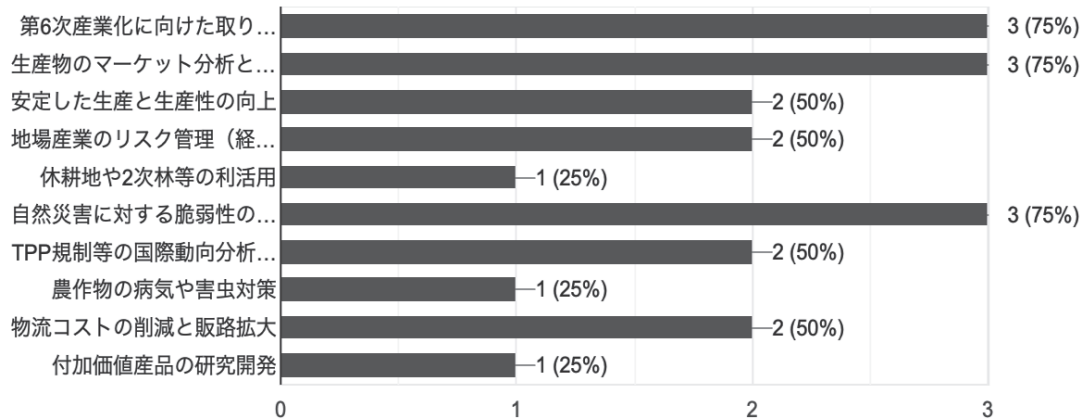
[質問7] 大学コンソーシアム沖縄と琉球大学では、地域および企業ニーズとマッチングを行い、地域連携や産学連携に取り組んでいます。皆様の関心の高いニーズをお聞かせください。

- 1次産業（農林水産業）    ○2次産業（ものづくり産業）    ○3次産業（観光産業、物流、サービス等）  
 ○医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）    ○環境問題    ○教育    ○伝統文化の保存・継承    ○その他



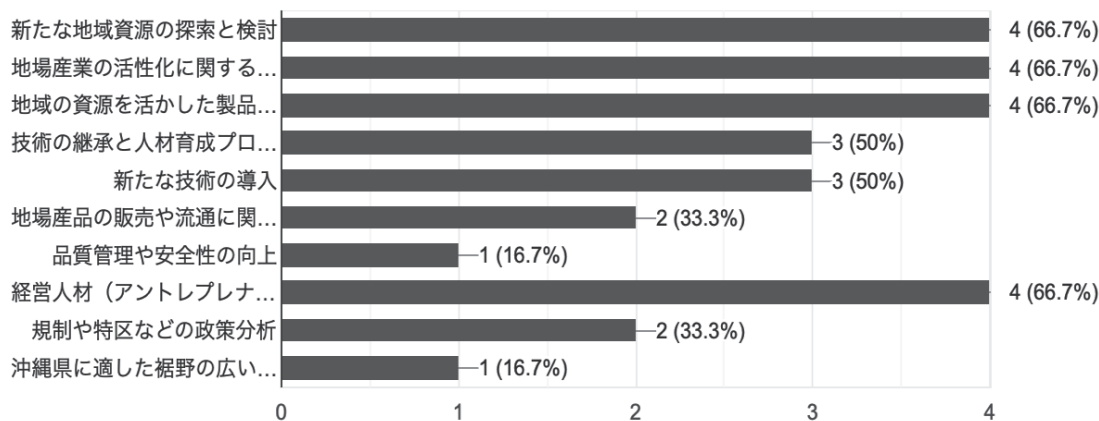
[質問8] 「1次産業（農林水産業）」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

- 第6次産業に向けた取り組みの企画・開発    ○生産物のマーケット分析とブランド化    ○安定した生産と生産性の向上  
 ○地場産業のリスク管理（経営）分析・研究    ○休耕地や2次林業等の利活用    ○自然災害に対する脆弱性の分析と対策  
 ○TPP規制等の国際動向分析と対策    ○農作物の病気や害虫対策    ○物流コストの削減と販路開拓    ○その他



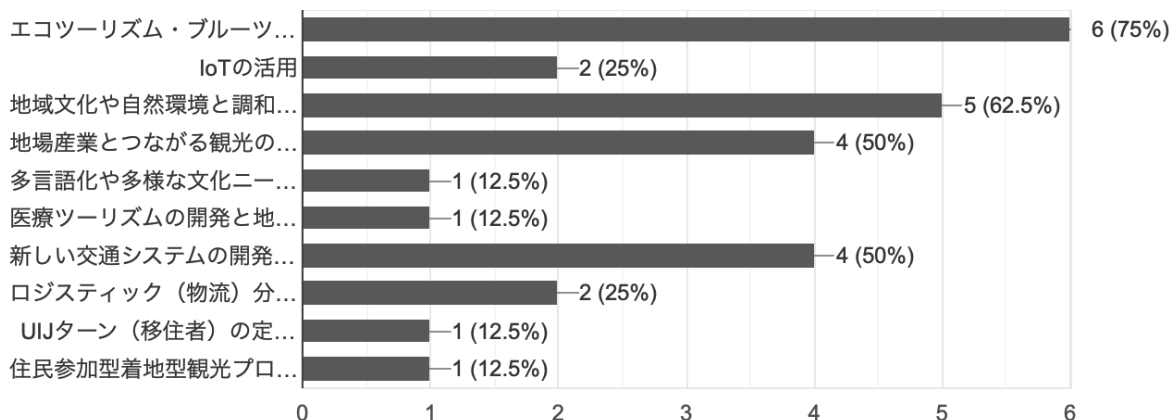
[質問9] 「第2次産業（ものづくり産業）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

- 新たな地域資源の探索と検討    ○地場産業の活性化に関する調査・研究    ○地域の資源を活かした製品の企画・開発  
 ○技術の継承と人材育成プログラムの開発    ○新たな技術の導入    ○地場製品の販売や流通に関する調査・研究  
 ○品質管理や安全性の向上    ○経営人材（アントレプレナー）の育成と分析    ○規制や特区などの政策分析    ○その他



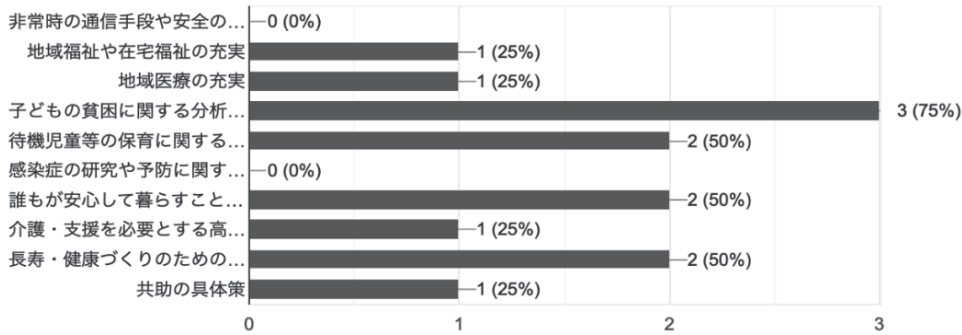
[質問 1 0] 「3次産業（観光産業、物流、サービス等）」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

- エコツーリズム・ブルーツーリズムプログラムの開発
- IoTの活用
- 地域文化や自然環境と調和した循環型観光産業の分析
- 地場産業と繋がる観光の分析・開発
- 多言語化や多様な文化ニーズへの対応可能な観光プログラム
- 医療ツーリズムの開発と地場産業の連携
- 新しい交通システムの開発（ランドシェアや相乗りタクシー等）等
- ロジスティック（物流）分析・研究
- UIターン（移住者）の定着・就職・雇用創出支援
- その他



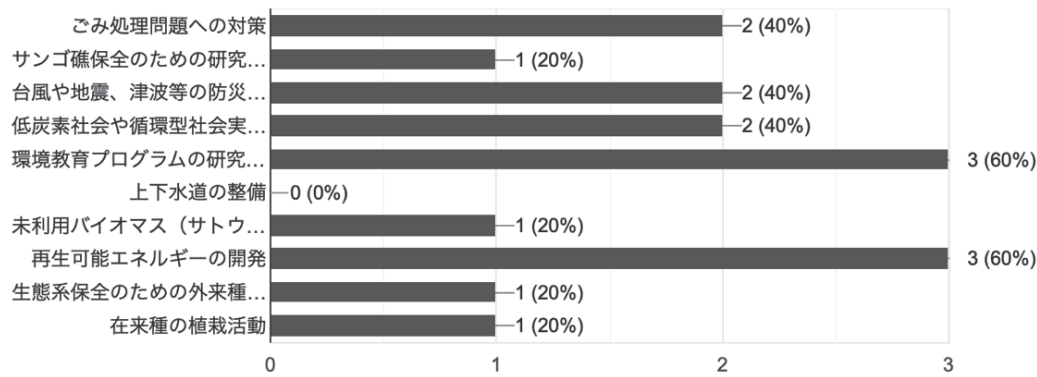
[質問 1 1] 「医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を3つ選択してください。

- 非常時の通信手段や安全の確保
- 地域福祉や住宅福祉の充実
- 地域医療の充実
- 子どもの貧困に関する分析と対策
- 待機児童等の保育に関する実態分析と対策
- 感染症の研究や予防に関する保険活動
- 誰もが安心して暮らすことができる都市計画と住宅環境の整備
- 介護・支援を必要とする高齢者や障がい者へのサービスや自立支援の分析・開発
- 長寿・健康づくりのための研究と普及
- その他



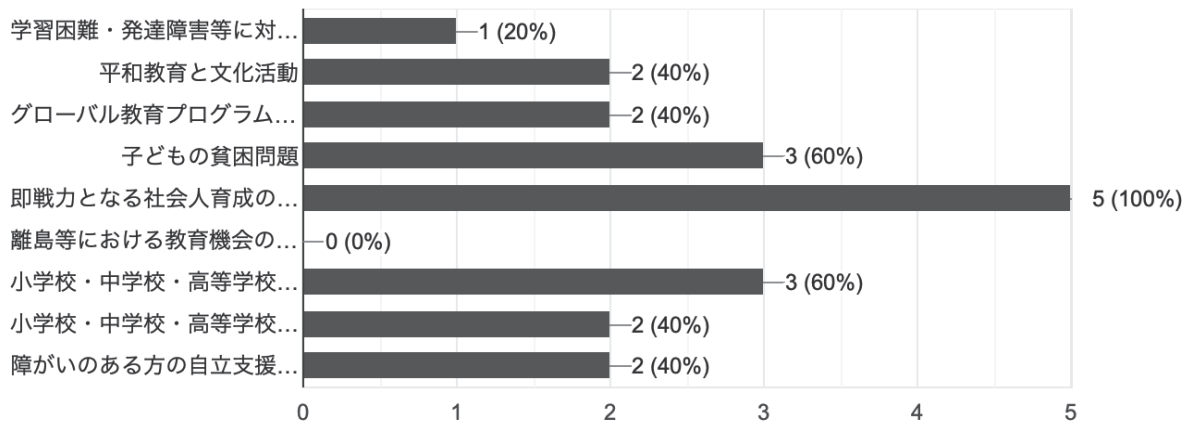
[質問 1 2] 「環境問題」と答えた方は、以下の中から特に興味がある項目を最大 3 つ選択してください。

- ごみ処理問題への対策   
 サンゴ礁保全のための研究と保全活動   
 台風や地震、津波等の防災機能の強化  
 台風や地震、津波等の防災機能の強化と環境保全   
 低炭素社会や循環型社会実現のための技術開発  
 環境教育プログラムの研究・開発   
 上下水道の整備   
 未利用バイオマス（サトウキビの搾りかす等）の利用  
 再生可能エネルギーの開発   
 生態系保全のための外来種駆除等の研究・活動   
 その他



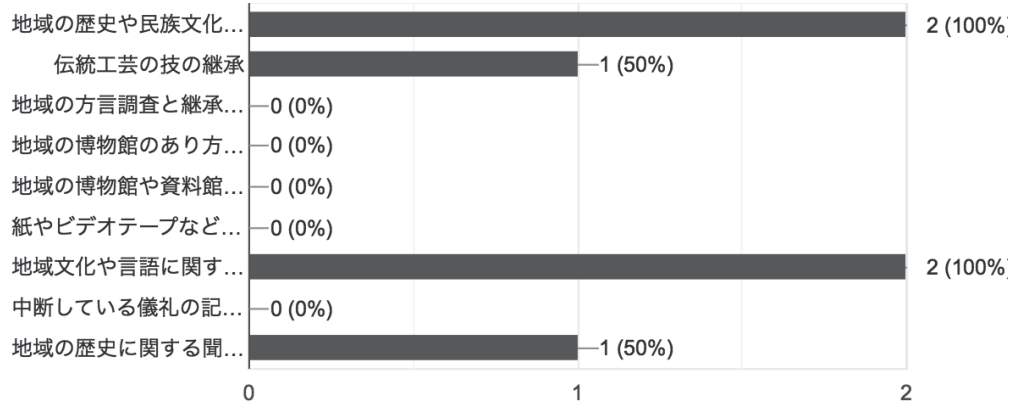
[質問 1 3] 「教育」と答えた方は、以下の中から、特に興味がある項目を最大 3 つ選択してください。

- 学習困難・発達障害等に対応したプログラムの開発と普及   
 平和教育と文化活動   
 グローバル教育プログラムの開発  
 子どもの貧困問題   
 即戦力となる社会人育成のための教育プログラムの開発   
 離島等における教育機会の均等  
 小学校・中学校・高等学校における基礎学力向上のための分析と教育プログラムの開発  
 小学校・中学校・高等学校における「教師の教育力」向上のための研修プログラムやシステム開発  
 障害のある方への自立支援プログラムと就労先確保（産業界との連携等）   
 その他



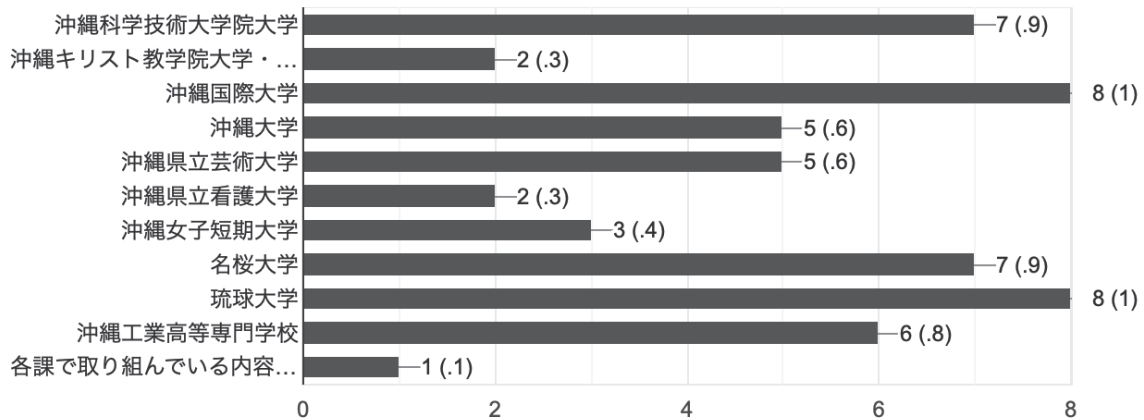
[質問 1 4] 「伝統文化の保存・継承」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

- 地域の歴史や民族文化、芸能などの記録・調査
- 伝統芸能の技の継承
- 地域の方言調査と継承のためのプログラム開発
- 地域の博物館の在り方の検討
- 地域の博物館や資料館の所蔵資料の整理・データベースの構築
- 紙やビデオテープなどの資料のデジタル化
- 地域文化や言語に関するワークショップ等の教育プログラムの開発
- 中断している儀礼の記録・継承
- 地域の歴史に関する聞き取り調査・研究
- その他



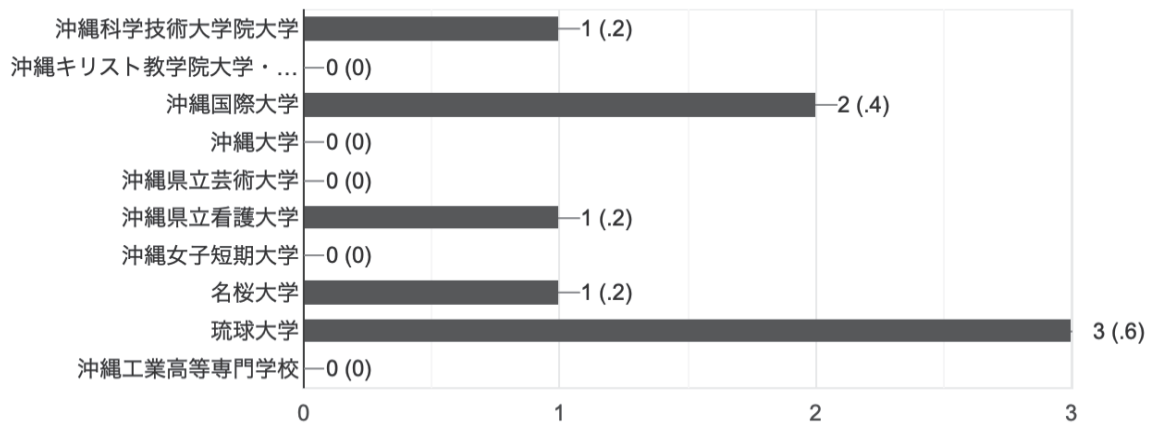
[質問 1 5] 大学コンソーシアム沖縄の加盟中で連携をしたい高等教育機関について教えてください。

- 沖縄科学技術大学院大学
- 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学
- 沖縄国際大学
- 沖縄大学
- 沖縄県立芸術大学
- 沖縄県立看護大学
- 沖縄女子短期大学
- 名桜大学
- 琉球大学
- 沖縄工業高等専門学校
- その他



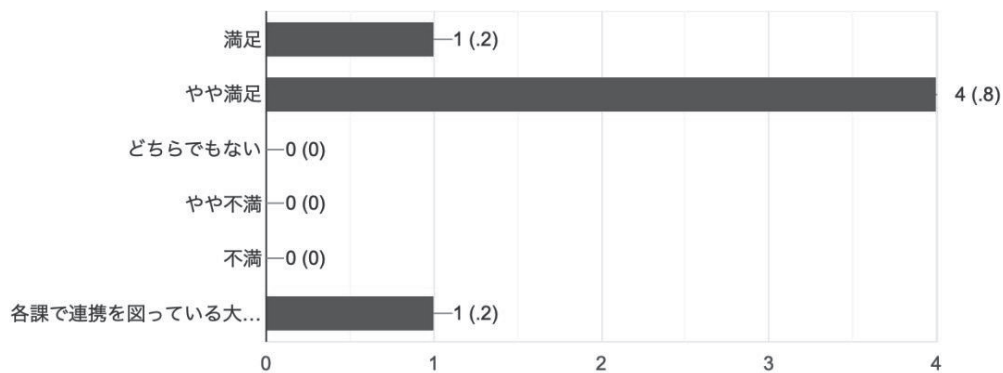
[質問 1 6] 過去に、大学コンソーシアム沖縄の加盟校の中で連携をした高等教育機関について教えてください。

- 沖縄科学技術大学院大学
- 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学
- 沖縄国際大学
- 沖縄大学
- 沖縄県立芸術大学
- 沖縄県立看護大学
- 沖縄女子短期大学
- 名桜大学
- 琉球大学
- 沖縄工業高等専門学校
- その他



[質問 1 7]

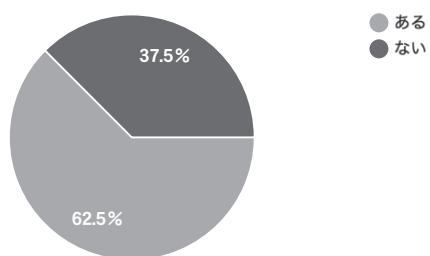
過去に連携を行った方にお聞きます。連携を行った結果、どのような満足を得られましたか。



[質問 1 8]

地域事業者間連携を促進するために実施している事業などがあるか教えてください。

(地域事業者は大学に限らず地域の企業、NPO、団体等と連携している組織)



[質問 1 9]

地域事業者間連携を促進するために実施している事業などがある場合、どのような連携をしているのか教えてください。

サイレントマジョリティ・マイノリティ向けの防災、地域福祉におけるNPO等のマッチング

各課で、それぞれの分野の機関と連携

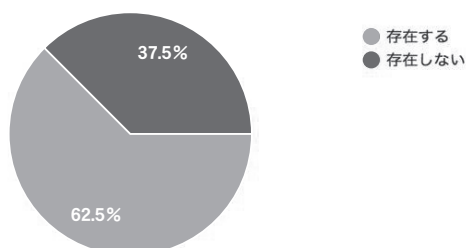
防災キャンプ

マルチステークホルダーが参画するワークショップ

沖縄の在来種を知り、増やしていく活動。

[質問 2 0]

地域連携及び産学連携等を推進するためのコーディネーター人材が存在するか教えてください。



[質問 2 1]

コーディネーターを配置・育成する際に留意している点などを教えてください。

(コーディネーターは産学連携に限らず様々なコーディネーターで可)

地域のニーズ・課題の精査、柔軟性

コーディネーター配置・育成は単年度単位では実を結ばないと思います。

デザイン力・編集力・コミュニケーション力

試行錯誤中

[質問 2 2]

「自由記述」大学コンソーシアム沖縄に期待すること、ご意見、ご要望などをご記入ください。

中間支援NPOとして大学側に大学間および外との媒介機能があるのは良いことと思います。

多くの分野が関わるかと思われます。貴機関で取り組める内容を一覧でいただき、関係課への周知しやすい方法や講演等の実施を希望

単年度単位の事業では「成功事例」は産まれないと思います。

高等教育機関においてどのような研究が成されているかがまだよく見えていない。地域コーディネーターとのマッチングの場があれば良い。

ボランティアは重要ですが、しっかりとお金が回るシステムの構築

## 2-5 国内外の先進的取り組みに関する研修会等の実施

- 外部講師を招聘し、国内外の先進的取り組みに関する研修会を全4回開催し、沖縄県内の高等教育機関及び産業界が連携し、お互いに学びあう研修会を開催した。

第1回 開催概要	
テーマ	ユーグレナ×SDGs～世界の課題を解決する挑戦～
講師	株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲充 氏
開催日時	2018年11月28日((水))14:00～17:00
概要	<p>人と地球を健康にするため、私たちに何かできることはないか。大学時代、アジア最貧国のひとつであったバングラディッシュ共和国を訪れた出雲氏は栄養失調で苦しむ子どもたちを目の当たりにしてそう思った。帰国後、栄養豊富な食材の存在を探し求め、微細藻類ミドリムシ（学名：ユーグレナ）と出会う。そして、2005年に株式会社ユーグレナを設立。同年12月には世界で初めてミドリムシの食用屋外大量培養に成功した。</p> <p>企業から10年以上経ち、健康食品・化粧品の販売に加え、バングラディッシュにおける栄養改善プロジェクト「ユーグレナGENKIプロジェクト」を実施。さらには2020年に向けた国産バイオ燃料実用化のためのプラント建設と、当初描いていた目標の達成に一歩一歩近づいている。</p> <p>出雲氏の考えるSDGsとその達成ビジョンについて、実際の活動事例をもとに聞くことにより、企業や経済活動とSDGsの融合性等について考える。</p>
参加者	41名 (大学関係9名、企業7名、行政8名、中間支援団体等7名、NPO等6名、その他 3名)

平成30年度知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業  
(大学等研究者の学外連携促進)

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

### ユーグレナ×SDGs ～世界の課題を解決する挑戦～

日時：2018年11月28日(水) 14:00～17:00  
場所：琉球大学地域国際学習センター3階301

14:00～15:30  
「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」  
講師：株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲充氏

人と地球を健康にするため、私たちに何かできることはないか。大学時代、アジア最貧国のひとつであったバングラディッシュ共和国を訪れた出雲氏は栄養失調で苦しむ子どもたちを目の当たりにしてそう思った。帰国後、栄養豊富な食材の存在を探し求め、微細藻類ミドリムシ（学名：ユーグレナ）と出会う。そして2005年に株式会社ユーグレナを設立。同年12月には世界で初めてミドリムシの食用屋外大量培養に成功した。

起業から10年以上経ち、健康食品・化粧品の販売に加え、バングラディッシュにおける栄養改善プロジェクト「ユーグレナGENKIプログラム」の実施。さらには2020年に向けた国産バイオ燃料実用化のためのプラント建設と、当初描いていた目標の達成に一歩一歩近づいてきている。

15:30～15:40 (休憩)  
15:40～16:30 「SDGsと地域振興」 出雲充×宮里大八 対談形式  
16:30～17:00 質疑応答

ユーグレナ社の事業はSDGsのゴール1と2（食料・貧困・飢餓）、7と13（新エネルギーによるジェット燃料・エネルギー・気候変動）、14（養殖魚の餌としての活用…海洋資源）に関係しています。また同社は、2010年3月には石垣島の中心地にある商店街「ユーグレナモール」、そして2018年4月には「ユーグレナ石垣港離島ターミナル」のネーミングライツをそれぞれ取得し、権限発信を行っています。

さらに、「みーるいゆープロジェクト」の一環として、スポーツ支援にも携わり、主にはB.LEAGUE (Bリーグ) に所属する「琉球ゴールデンキングス」のオフィシャルパートナーとしてプロバスケットボールを支援するとともに、小学校～シニアを対象とした石垣島でのバスケットボール大会も支援しています。

今回はこれまでのユーグレナ社の取組を中心に、世界の課題と地域の課題の解決する方法についてお話しさせていただきます。

【お問合せ・申込先】  
琉球大学地域連携推進機構 担当：翁長、宮里、日高、宮平、宮里  
E-mail: daiya@lab.u-ryukyuu.ac.jp  
申込URL: <https://goo.gl/forms/v1SMNhue4JJVxdZF3> 参加申込QRコード: 



	1. 1) 講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	1.2) 講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	2. 講演についてご感想をお聞かせください。	3. 産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	4. ご所属をお聞かせください。	5. どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	1大いに役に立つ	1とてもそう思う			その他	HP
2	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	あつという間の3時間でした。出雲社長の一つ一つの言葉を選びながらの熱い思いがとても心にしました。楽しい時間でした。		民間企業	関係者からの紹介
3	1大いに役に立つ	2思う	思いの部分からベンチャーマインドや戦略まで、大変勉強になりました。	来年より再生エネルギーのベンチャーにジョインするため、沖縄の地域でも案件を作りたいです。	民間企業	フェイスブック
4	1大いに役に立つ	1とてもそう思う			その他	大学からの案内
5	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	ミドリムシについての熱い思いがすごい心にひびきました。ありがとうございました。		民間企業	関係者からの紹介
6	2役に立つ	3あまり思わない			自治体関係者	関係者からの紹介
7	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	起業したいと考えるようになったきっかけ、情熱を思い出すことができました。ありがとうございました。	具体的に思いついていないですが、学生主体で何か連携ができるといいなと思いました。	民間企業	関係者からの紹介
8	2役に立つ	2そう思う	素晴らしい講演でした。ありがとうございます。情熱と繰り返しチャレンジする気持ちで課題に取り組むことが大切だということが本当に納得できました。		職員	フェイスブック
9	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	専門的な話をわかりやすくご説明いただき理解しやすかった。また、イノベーションに必要なものは、正しい科学技術で施行回数をこなすことという言葉に勇気づけられた。	AIに関して、AIを開発または導入して長期運用している企業と連携してほしい。	職員	大学からの案内(メール)
10	1大いに役に立つ	1とてもそう思う			その他(公益財団法人)	関係者からの紹介
11	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	SDGsについて自分が理解していたことが更に深く知ることができた。身近な課題として取り組みたい。		一般財団法人	フェイスブック
12	1大いに役に立ち	1とてもそう思う	バン格拉ディッシュでの経験が人生に大きな影響を与えた事がよくわかった。→琉大生に対しても、海外での経験をもっと増やして気づきを与えたい。	琉球大発ベンチャーをもっと増やしていくかけを地連さんと連携して進めさせていければと思います。よろしく申し上げます。	大学関係者(職員)	大学からの案内(メール)
13	2役に立つ	1とてもそう思う	ユウグレナ様の設立経緯を興味深く聞かせてもらいました！SDGsがこれまでの国際的アジェンダと何か違うのか？もっと学ぼうと感じました。このイベントのテーマが少しぼんやりしている気がします。講演やディスカッションから何に注目して何を心得るか？(最後までいられなかったので適当でないかもしれませんが。)		大学関係者(職員)	大学からの案内(メール)
14	1大いに役に立つ	2そう思う	なぜミドリムシなのか、何ができるのかを知ることができた。今日この場で知り得たことを実践しようと思いました！		大学関係者(職員)	大学からの案内(メール)
15	2役に立つ	2そう思う	お金、才能、家柄がスタートでは備わってなくても「メンター」「アンカー」を持つことで努力することを持続すればイノベーションを起こせる！いかに繰り返し努力することが一番になるかという大事なことを伺うことができた。	教員、学生、事務が協働してイノベーションを起こすことも今後必要になると考えた	大学関係者(職員)	大学からの案内(メール)



16	1大いに役に立ち	1とてもそう思う			大学関係者	大学からの案内
17	1大いに役に立つ	記載なし	あきらめない、広報、知財の重要性、新年があれば挑戦せよ！に感銘！		民間企業	その他（新聞）
18	1大いに役に立つ	3あまり思わない	新規事業開発の刺激を受けました		民間企業	その他（新聞）
19	1大いに役に立つ	2そう思う	出雲社長の出生からミドリムシを用いて苦勞もありませんが今の立場になった経緯がとてもおもしろかったです。知財と広報、とても参考になりました。黒いお話も聞きたかったのですが、地域貢献の話が聞けたのでよかったです。		大学関係者（職員）	大学からの案内（メール）
20	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	501社目の出会いに感動しました。科学的なイノベーションをもとに、信念を持ち続けることが大事だと教えていただきました。持続可能性とは、そのイノベーションに向かう思いですね。		民間企業	フェイスブック
21	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	今後の人生、ビジネスに役立つことができます、ありがとうございます。	AI,ブロックチェーン	民間企業	その他（チラシ）
22	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	メンターとアンカーの重要性が今後の人材育成に大いに役立つと思いました。		その他（専修学校）	関係者からの紹介
23	2役に立つ	1とてもそう思う	出雲先生が学生時代に栄養失調を救う素材として、ミドリムシに注目し、大量培養や営業などで様々な課題があるなかでも、成功させたお話がとても感動しました。小さいながらもわたしも何か一番になることを見つけようと思います。本日はありがとうございます。		民間企業	その他（産業まつりでチラシをいただいた）
24	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	今をときめく講師の先生お招きいただきありがとうございました。	2020年には女性の2人に1人は50代に入るという時代、その時代に女性の問題に特化したイノベーションをベンチャーという形でおこしたい。	大学関係者（職員）	大学からの案内（メール）
25	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	大変勉強になりました。現在子育てをしているので、子どもたちに聞かせたいと思いました。ありがとうございました。		主婦	その他（新聞）
26	1大いに役に立つ	1とてもそう思う			地域づくり系団体	関係者からの紹介

第2回 開催概要

テーマ	北海道×SDGs ～北の大地から2030年に向けた取り組み～
講師	北海道下川町役場政策推進課SDGs推進戦略室 和田健太郎 氏 石屋製菓株式会社 代表取締役社長 石水創 氏
開催日時	2018年12月3日(月)14:00-17:00
概要	<p>下川町はSDGs達成に向けて、優れた取り組みを行う企業・団体等を表彰するため創設された「ジャパンSDGsアワード」にて、282の応募数の中、内閣府総理大臣賞を受賞。森林経営を中心に木製品の生産と供給、森林の健康や教育への活用、再エネ熱供給システムを核としたコンパクトタウン等を推進し、「誰もが活躍の場を持ちながら良質な生活を送ることのできる持続可能な地域社会」の実現を目指している。</p> <p>石屋製菓は、日本の土産菓子としてより質の高いグローバルな品質管理を行っており、2017年1月に世界標準といわれるFSSC22000の認証を取得し、国内外のお客様をはじめとするお取引先様へ、より安全で安心な製品の提供を行っている。</p> <p>研修では、北海道でSDGsや地域連携に取り組む日本でも先進的事例と、北海道の土産菓子のみならず日本の土産菓子として国内外でも愛される商品開発を地域連携でどのように取り組んだのか等について話を聞いた。</p>
参加者	24名 (大学関係 7名、企業 6名、行政3名、中間支援団体等 5名、その他 3名)

平成30年度R10「産業クラスター支援ネットワーク強化事業  
(大学等研究者の学外連携促進)」

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

## 北海道×SDGs ～北の大地から2030年に向けた取組～

日時：2018年12月3日(月) 14:00～17:00  
場所：琉球大学地域国際学習センター3階301

14:00～15:00  
「人と自然を未来へ繋ぐしもかわチャレンジ2030  
～下川版SDGsの取組～」  
講師：北海道下川町役場 政策推進課SDGs推進戦略室  
和田健太郎 氏

下川町は、2017年2月の第1回「ジャパンSDGsアワード」総理大臣賞受賞に続き、SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業の選定を受けた。2030年における下川町のありたい姿(下川版SDGs)は、町民の意見を広く取り入れて策定をし、この実現に向け、町内外の多様な人・企業・団体などと連携をして、積極的に取組みを進めており、その事例について報告する。

15:00～16:00  
「石屋製菓が目指す2030年の企業の在り方  
～SDGsや地域と連携した取組事例～」  
講師：石屋製菓株式会社 代表取締役社長 石水創 氏

1947年に創業した石屋製菓は、昨年70周年を迎え、2017年4月に東京・銀座の「GINZA SIX」に北海道外初の直営店舗となる「ISHIYA GINZA」をオープンし、7月には北海道・北広島市に主力商品である「白い恋人」「美冬」の新工場を完成させた。また、北海道の良質な原材料を使い、おいしい菓子を低温・低湿な環境である北海道の地で創ることにより、地域と共に歩んできた70年について語っていただく。さらに、社員1人1人の行動指針になるよう企業理念(しあわせをつくるお菓子)を掲げ、2030年までどのようなビジョンで活動するかを報告する。

16:00～16:10 (休憩)

16:10～17:00 「SDGsと地域振興」和田健太郎×石水創×宮里大八 鼎談形式

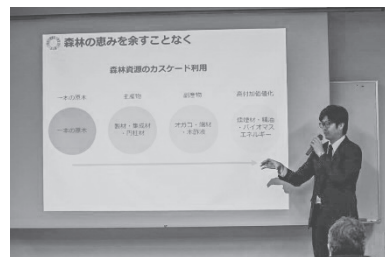
下川町はSDGsの達成に向けて、優れた取組を行う企業・団体等を表彰するための創設された「ジャパンSDGsアワード」にて、282の企業・団体が応募する中、内閣総理大臣賞を受賞しました。森林経営を中心に木製品の生産と供給、森林の健康や教育への活用、再エネ熱供給システムを核としたコンパクトタウン等を推進し、「誰もが活躍の場を持ちながら良質な生活を送ることのできる持続可能な地域社会」の実現を目指しています。

石屋製菓は、日本の土産菓子として、より質の高いグローバルな品質管理を行っており、2017年1月に世界標準といわれるFSSC22000の認証を取得し、国内外のお客様をはじめとするお取引先様へ、より安全で安心な製品として提供しています。

今回は、北海道でSDGsや地域連携に取り組む日本でも先進的事例と、北海道の土産菓子のみならず、日本の土産菓子として国内外でも愛される商品開発を地域連携でどのように取り組んだのかをお話していただきます。

【お問合せ・申込先】  
琉球大学地域連携推進機構 担当：翁銘、富銘、日高、宮平、宮里  
E-mail：daiya@lab.u-ryukyuu.ac.jp  
申込URL：http://qq4q.biz/N5j3

参加申込QRコード



1. 1) 講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	1.2)講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	2. 講演についてご感想をお聞かせください。	3. 産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	4. ご所属をお聞かせください。	5. どのように今回の研修の告知を知りましたか。	
1	1大いに役に立つ	2そう思う	今後の行政の基本計画策定において、SDGsは必須になってくると思います。		facebook	
2	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	下川町の取り組みが非常に参考になりました！！	民間企業	facebook	
3	2役に立つ	2そう思う	北海道の下川町の町民主体の取り組み、お土産で有名な白い恋人など、様々な取り組みが聞けてよかったです。	大学関係者・職員	大学からの案内	
4	1大いに役に立つ	2そう思う		自治体関係者	関係者からの紹介	
5	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	SDGsをツールとした具体的かつ身近な取り組み事例が聞けてよかった	大学院生	facebook	
6	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	SDGsを市民へ広げる手法として、バックキャストによる共有ビジョンなどとても参考になりました。	大学関係者・職員	大学からの案内・メール	
7	2役に立つ	2そう思う	下川町の規模であんなにいろいろな取組ができていますすごいと思います。	行政書士	ホームページ	
8	1大いに役に立つ	2そう思う	大変良かった、タッチポイントや会社の基本的考え方	北南の結風を期待、実行したい。	民間企業	
9	2役に立つ	2そう思う	和田さんの話が現場で活躍していることが伝わるとても良い講演でした	自治体関係者	新聞コラム	
10	1大いに役に立つ	2そう思う		自治体関係者	新聞コラム	
11	2役に立つ	2そう思う	SDGsという言葉を知ったのは最近なのですが、自分たちの活動が石水社長の活動と同じような活動のものが、自然にできている部分と、学ぶべき事例が多々ありましたので、とても有意義な時間でした。	自治体関係者	新聞コラム	
12	1大いに役に立つ	1とても思う		民間企業	facebook	
13	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	琉大の修士課程卒の一般参加のものです。論文のテーマは「沖縄型持続可能なまちづくりに向けて」マーケティングからのアプローチを行いました。卒業後、那覇市のゼロ・エミッション推進室でお仕事をさせていただきました。あれから15年ほどが経ち、わたしは随分いろいろ忘れてしまっておりましたが、また勉強したい、まちに関わりたいと強く思いました。	これから勉強していきたいと思えます。今後ご縁がありますように。	一般（主婦）	沖縄タイムス
14	2役に立つ	2そう思う	まちづくりに住民が積極的に関わっていること、まちがそのような仕組みをつくっていることも素晴らしいと思った。沖縄より厳しい条件のなかで、沖縄の離島市町村にとっても参考になるのでは。	自治体関係者	facebook	
15	2役に立つ	2そう思う		大学関係者・職員	大学からの案内	

第3回 開催概要

テーマ	吉本興業×SDGs ～2030年を笑顔であふれる世界に！～
講師	吉本興業（株）執行役員 コーポレートコミュニケーション本部 羽根田みやび氏 他7名
開催日時	2019年2月6日(水)14:00-17:00
概要	2018年4月19～22日に開催された「島ぜんぶでお～きな祭 第10回沖縄国際映画祭」では、2017年度に引き続きSDGsを沖縄から発信するために、PRムービー「SDGsについて考え始めた人々」の上映や、「そくだ！どんどんがんばろう！スタンプラリー」を実施した。さらに、那覇国際通りのレッドカーペットでは、雨天にも関わらず多くのギャラリーに見守られる中、17の目標のプラカードを持ちSDGsをPRした。吉本興業は、見て、楽しんで、体験してSDGsを少しでも多くの人に知ってもらい、沖縄からSDGsの取り組みを発信して、2030年を笑顔あふれるLaugh & Peaceな世界になることを目指して取り組んでおり、その内容について報告していただく。
参加者	32名 (大学関係 3名、企業 5名、行政 6名、中間支援団体等 7名、学生 6名、その他5名)

平成30年度知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業  
(大学等研究者の学外連携促進)

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

## 吉本興業×SDGs

### ～2030年を笑顔であふれる世界に！～

日時：2019年2月6日(水) 14:00～17:00  
場所：琉球大学地域国際学習センター3階301

吉本興業グループは、2017年12月「第10回ジャパンSDGsアワード」で、特別賞(SDGsパートナー賞)を受賞。全社員・タレントのSDGs理解を深める活動や、実地イベント制作コンテンツ、メディアと連動し、多数の所属タレントを起用したSDGsの広範多様な発信啓発、さらには地域と連携した地元振興PRや、被災地への訪問活動など「誰も取り残さない」ための実践を行っており、SDGsが掲げる17の目標すべてを網羅するオールラウンドな活動が評価された。

第1部では、吉本グループが沖縄や全国で取り組むSDGs関連の活動や、地域振興の活動について報告や、吉本興業が目指す、持続可能な沖縄でのエンターテインメントの未来についてのお話し、第2部では吉本芸人の方にSDGsのことに楽しく触れることができる企画を行います。

**【第1部】「吉本興業×SDGs 沖縄と共に目指すあかるい未来！」**  
**14:00-14:20 <吉本興業が取り組むSDGs紹介>**  
 講師：羽根田みやび 吉本興業(株)執行役員 コーポレートコミュニケーション本部 中島毅 吉本興業(株)コーポレートコミュニケーション本部 副本部長  
**14:20-14:40 <沖縄アジアエンタメプラットフォーム>**  
 講師：志村一隆 株式会社クリエイティブ・エージェンシー 取締役 山地克明 吉本興業(株)コーポレートコミュニケーション本部  
**14:40-15:00 <島ぜんぶでお～きな祭>**  
 講師：和泉かな 株式会社ラフ&ピース 代表取締役社長 永井康雄 吉本興業(株)コーポレートコミュニケーション本部  
**15:00-15:20 <沖縄ラフ&ピース専門学校>**  
 講師：竹田和夫 沖縄ラフ&ピース専門学校 校長 生沼教行 吉本興業(株)コーポレートコミュニケーション本部  
 <15:20～15:30 (休憩)>

**【第2部】「SDGsを楽しく学ぼう！」**  
**15:30-16:30 <SDGs×エンターテインメント>**  
 出演：タレント：初恋クロマニヨシ ありんくりん  
**16:30-17:00 <質疑応答>**

2018年4月19～22日に開催された「島ぜんぶでお～きな祭 第10回沖縄国際映画祭」では、2017年度に引き続き、SDGsを沖縄から発信するために、PRムービー「SDGsについて考え始めた人々」の上映や、「そくだ！どんどんがんばろう！スタンプラリー」を実施した。さらに那覇国際通りのレッドカーペットでは、雨天にも関わらず多くのギャラリーに見守られる中、17の目標のプラカードを持ちSDGsをPRしました。  
 見て、楽しんで、体験してSDGsを少しでも多くの人に知ってもらい、沖縄からSDGsの取り組みを発信して、2030年を笑顔あふれる「Laugh & Peace」な世界になるようことを目指して取り組んでおり、その内容について報告していただきます。

**【お問合せ・申込先】**  
 琉球大学地域連携推進機構 担当：翁長、當銘、日高、宮平 宮里  
 E-mail：daiya@lab.u-ryukyuu.ac.jp  
 申込URL：http://uOu0.net/PfLt

参加申込QRコード：



	1. 1) 講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	1.2) 講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	2. 講演についてご感想をお聞かせください。	3. 産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	4. ご所属をお聞かせください。	5. どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	2役に立つ	1とてもそう思う	高校とかもっと年齢を下げた学校でやってもらって来てくれるのでは？と思ったので、もっと活発に行ってほしいです、	大学生のアイデアでポイ捨てがなくなったLEDゴミ箱みたいに学生の「これは将来の役に立つかも！」というアイデアをもっと気軽に発表できる場を作ってほしい		関係者からの紹介
2	3あまり役に立たない	4まったく思わない	吉本興業が様々な場所でいろいろなイベントを行っているのは素晴らしいと思います。ただ県内の産学官連携を促進するとは思いません。吉本のPRには良いかなと思います。		大学関係者	大学からの案内
3	2役に立つ	1とてもそう思う	SDGs×エンタメというテーマに魅力を感じて参加したのですが、具体的な取り組みの内容を知ることができて有意義な時間になりました。また2部の内容も楽しく参加できて、もっとこの活動が広がってほしいし、個人でも取り組んでいきたいと感じました。		学生	大学からの案内
4	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	勉強するところも楽しめる場所もあってよかった		学生	大学からの案内
5	1大いに役に立つ	2とてもそう思う	正直SDGsについて今回の講演会で知りました。話を聞いてみると、とても魅力的な話がたくさんで、今後も情報収集や実際にやっている所なども行けたらなと思いました。	このような講演の機会を増やす	学生	大学からの案内
6	1大いに役に立つ	2とてもそう思う	認知度100%の勉強会はJCとしても必要と思います。	もっと身近により多くの人たちに学びの機会を	地域づくり団体	関係者からの紹介
7	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	以前、経済の授業で学んだSDGsのイメージとはまったくかけ離れたものだった。どんな部署でも一斉にとりこんでいるこの企業に大きな魅力を感じた。学生だからこそ関わっているテーマがあるとも感じたし、それを基盤にも将来に生かせるようにできたらいいと思った。このような貴重な授業が他の学生にも見てほしいと思った。		学生	関係者からの紹介
8	1大いに役に立つ	2思う	吉本興業さんが2年前からSDGsに取り組んでいて「沖縄ラフ&ピース専門学校」がお笑いタレントの養成所だと思っていたが、子どもの居場所にもなっていると初めて知り、素敵だと思いました。		小学校教諭	フェイスブック
9	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	楽しく学習できました。自分にできるところから取り組みを始めます。	大学生が地域の発展について考えることはとても大事だと思います。授業としてSDGsの取り組みがあると素晴らしい。	民間企業	フェイスブック
10	2役に立つ	2思う	「認知度100%からスタートするためのキックオフ勉強会」からスタートし、知る→考える→実行する→伝えるプロセスがうまく回っているのを感じた。大学でそれをやるにはどうすれば良いか、いろいろ考えるヒントをいただきました。		大学関係者	フェイスブック
11	2役に立つ	2思う	SDGsと最近よく耳にしますが、活動内容を教えてもらうと多岐にわたるようでわかりづらかったが、今日の講演会で整理がつかえました。		その他	フェイスブック
12	2役に立つ	2思う	芸人さんが面白くてたくさん学べました		その他	その他
13	2役に立つ	2思う	楽しく勉強することができました。ありがとうございました		フリーランス	関係者からの紹介
14	2役に立つ	2思う	民間企業である吉本のSDGsの取り組みを始めて知った。とても素晴らしい取り組みだと思う。吉本の地域貢献活動も素晴らしいです。	もう少し具体的な産学官連携による成功事例を作ってほしい！	地域づくり団体	フェイスブック
15	1大いに役に立つ	2思う	企業の取り組みが少なからず見えてきた	高校とのつながりを強くして、あまりハイレベルではない内容で地域の活性化に取り組めるようなことがないか模索したい	高校教員	関係者からの紹介
16	2大いに役に立つ	2思う		吉本興業×コミュニティバスとのコラボしたSDGsを進めていきたい	自治体関係者	フェイスブック

第4回 開催概要

テーマ	金沢工業大学×SDGs ～「誰一人取り残さない」教育・研究の実現～
講師	金沢工業大学 SDGs推進センター センター長 平本督太郎 氏
開催日時	2019年3月6日（水）14:00-17:00
概要	金沢工業大学は、SDGs推進本部から大学として唯一第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副部長（内閣官房長官）賞を受賞しました。そのような中、金沢工業大学SDGs推進センターでは、全学的なSDGs関連の取り組みや、第1回ジャパンSDGsアワード受賞団体・SDGsビジネスアワード2017受賞団体を核とし、SDGsにおける日本中の知見を地方に集め、最前線の取り組みや状況を共有するとともに、関係性を強化することを目的として第1回ジャパンSDGsサミットを開催しています。また、（株）リバースプロジェクトと、金沢工業大学学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」がSDGsカードゲーム「THE SDGs Action cardgame "X"」を協働で開発しており、今回の研修会ではSDGsカードゲームを参加者のみなさんに体験していただきます。
参加者	22名（大学関係者8名、企業6名、行政4名、支援団体等2名、その他2名）

平成30年度知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業  
(大学等研究者の学外連携促進)

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

## 金沢工業大学×SDGs

### ～「誰一人取り残さない」教育・研究の実現～

日時：2019年3月6日（水）14:00～17:00  
場所：琉球大学地域国際学習センター3階301

14:00～15:30  
「SDGs時代において大学に求められる役割」  
講師：金沢工業大学 SDGs推進センター センター長 平本 督太郎 氏

15:30～15:40 (休憩)  
15:40～17:00 「THE SDGs Action cardgame "X"」体験会  
ファシリテーター：SDGs Global Youth Innovators

金沢工業大学は、国連全加盟国が合意するSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、特定の教員や学生による研究・活動に留まらず、学部・学科を超えた全学体制で取り組んでいます。大学は社会の役に立つ研究を研究室の中でのみ行うのではなく、生み出した研究成果を実社会の中に組み込み、その中で新たな発見を得て研究を深めていくといった社会実装型の研究を推進していく必要があります。金沢工業大学では、こうした時代の変化が起こることを早い段階から予測し、実践できる体制を整えてきており、既に実社会における様々な課題を解決し、SDGsの達成に向けた貢献を行っています。

金沢工業大学SDGs推進センター学生プロジェクトは（株）リバースプロジェクトと共にSDGsに関するカードゲーム「THE SDGs Action cardgame "X"（クロス）」（以下、X）を共同開発しました。Xは、トレードオフカードとリソースカードの二種類のカードにより構成されたカードゲームです。トレードオフカードはSDGsの17個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、リソースカードには問題解決のために活用可能なAIやロボットなどの技術や製品、サービス等のリソースが描かれています。共同開発においては、SDGs時代を担う学生の視点を重視するため、金沢工業大学独自のSDGsに特化した教育カリキュラムを受講した学生で構成された学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」が企画・制作・運営を担当しています。そして金沢工業大学SDGs推進センターが専門的な観点から、また（株）リバースプロジェクトがデザインの観点から企画・制作に参画しています。

金沢工業大学は、SDGs推進本部から大学として唯一、第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副部長（内閣官房長官）賞を受賞しました。そのような中、金沢工業大学SDGs推進センターでは、全学的なSDGs関連の取り組みや、第1回ジャパンSDGsアワード受賞団体・SDGsビジネスアワード2017受賞団体を核とし、SDGsにおける日本中の知見を地方に集め、最前線の取り組みや状況を共有するとともに、関係性を強化することを目的として第1回ジャパンSDGsサミットを開催しています。また、（株）リバースプロジェクトと、金沢工業大学学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」がSDGsカードゲーム「THE SDGs Action cardgame "X"」を共同で開発しており、今回の研修会ではSDGsカードゲームを参加者のみなさんに体験していただきます。

【お問合せ・申込先】  
琉球大学地域連携推進機構 担当：谷長、當銘、日高、宮平、宮里  
E-mail：danya@lab.u-ryukyuu.ac.jp 参加申込QRコード：  
申込URL：http://urx3.nu/PTP2



	1. 1) 講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	1.2) 講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	2. 講演についてご感想をお聞かせください。	3. 産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	4. ご所属をお聞かせください。	5. どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	2役に立つ	2思う	実践の事例が知れてよかった。SDGsを幅広く理解する機会になった。		大学関係者	大学からの案内
2	1大いに役に立つ	2思う	産学官の中では「産」が一步リードしている印象があったので、「学」の分野は何ができるのか考える機会になった		大学関係者	フェイスブック
3	1大いに役に立つ	1とても思う	金沢工業大学だけでなく、諸外国でのSDGsの具体的な取り組み事例が分かってとても勉強になった。教育(小中高)でもSDGsの取り組みが必要だと初めて知ることが分かり良かった。		小学校教諭	フェイスブック
4	1大いに役に立つ	1とても思う		企画団体ですが当組織で金沢工業大学さんとフォーラムを行いたいです。	地域づくり系団体	大学からの案内
5	1大いに役に立つ	1とても思う	実際にワークショップをすることで動いて学べ、かつSDGsに関する知識と力が身につくのですごかったです。	もっと学生を巻き込んでやってほしい	学生	フェイスブック
6	1大いに役に立つ	1とても思う	琉大でもSDGsの活動を活性化したいと思いました。ありがとうございます。		大学関係者	フェイスブック
7	1大いに役に立つ	1とても思う	SDGsの重要性、意義をすることができて良かったです。将来世代に限りある資源を残す行動をしていきたいと思います。		大学関係者	フェイスブック
8	1大いに役に立つ	2思う	SDGs、人材育成も含めて、とても良い内容でした。	当団体でもカードゲームを使ってSDGsを推進していきたいです。	地域づくり系団体	大学からの案内
9	1大いに役に立つ	1とても思う	実際に体験できて良かった!	本日のカードゲームを様々な場所や企業・団体で実施してみたい	民間企業	関係者からの紹介
10	1大いに役に立つ	1とても思う	これまでの固定概念(トレードオフ)が払しょくされ、未来に希望を持てる内容でした。バックキャストについても、これまでフワッと捉えていましたが、事例を教えていただいたことで理解できました。カードゲームはこれまで体験したSDGsゲームの中で一番楽しかったです! 自由な発想で無限にアイデアが出せるところが面白い。		大学関係者	大学からの案内
11	1大いに役に立つ	1とても思う	SDGsの全体像について勉強になりました。		民間企業	関係者からの紹介
12	1大いに役に立つ	1とても思う	大変面白かった		民間企業	関係者からの紹介





## 第3章 [取組 2] 大学と地域・産業との結び付きを強化する為の取り組み

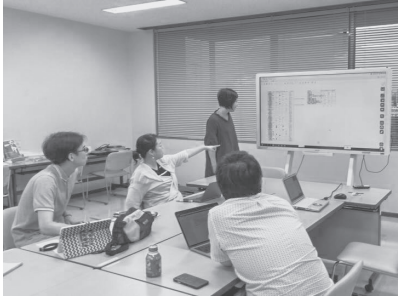
### 3-1 若手コーディネーターの配置と育成

- 若手コーディネーターとして必要な能力を高めるために、3名の若手コーディネーターを配置し、座学研修（OffJT）と、メンターとなる統括コーディネーターと共に現場の業務に携わる実践研修（OJT）の両輪で実施した。また、フィールドワークとして先進地視察等も実施した。

#### 【研修概要】

項目	目的	内容	講師	実施時期
OffJT	国内外の産学官連携の先進事例を講師を招聘して学ぶ。	先進事例研修 コーディネート活動に必要な基礎的知識を先進事例の中から習得する。 ※仕様書項目「国内外の先進的取り組みに関する研修等実施」と連動	招聘	11月～2月（全4回）
	コーディネートに関する知識やスキルをOJTのフィードバックを行いながら習得する	定例ミーティング 毎週1時間の研修時間を設け、OJTにおけるコーディネート活動のフィードバックを基に、随時必要となるコーディネートスキル・プロジェクトマネジメント力の向上や知識習得のための研修を行った。	プロジェクトマネージャー・統括コーディネーター	通年 毎週火曜日9:00-10:00
		関係機関ヒアリング コーディネーターとして活動する上で、研究シーズの収集やワーキンググループの運営をする際に連携が必要となる可能性のある関係機関にヒアリングを行い、資金調達や類似事業等について知識を得た。 7/31公益社団法人沖縄県地域振興協会8/7琉球大学キャリア教育センター 8/28琉球大学研究推進機構（URA） 9/11琉球大学研究推進機構（URA） 10/9沖縄総合事務局 など	統括コーディネーター・招聘講師	7月～10月
		PBL・CBL研修 宮里プロジェクトマネージャーが米国ポートランド州にて学修したCBL（Community-based Learning）について、研修報告も兼ね共有し、統括コーディネーターと若手コーディネーターは地域課題を教育資源として地域協働のもと学生が学ぶプログラムの概要や成果について学んだ	プロジェクトマネージャー	9/2
		中間振り返り 事業の中間振り返り研修を行い、事業の目的・目標の共有、コーディネーター活動における成果と課題の共有、今後の活動における改善計画の共有などを行った。	統括コーディネーター	11/13
OJT	産学官連携コーディネーターに必	ヒアリング 自治体・大学シーズ・企業等のヒアリングを行った。	プロジェクトマネージャー・統括	通年

	要なスキルを実践をものに習得する	マッチング	自治体の抱える課題を分析し、大学シーズ等を情報収集・ヒアリングの上、適切なマッチングを行った。	コーディネーター	
		ワーキンググループ運営	担当するワーキンググループの立ち上げ、フォロー、運営を行う。開設される講義「企業(地域・企業等)のお題解決プログラム」と連動するため、学生コーディネートを行った。		
先進事例収集	県内外の産学官連携・地域連携の先進事例について知る	県内	・ 県内で行われるフォーラムや研修会等に参加し、産学官連携のコーディネート方法や先進事例について情報収集を行う。	-	通年
		県外	北海道にて全国大学コンソーシアム協議会が主催する「第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に、統括コーディネーターと若手コーディネーター3名で参加し、産学連携や大学における地域協働教育の在り方などについて学修した。	フォーラム	8/1～8/2
			「2030SDGsファシリテーター養成講座」に若手コーディネーター1名が参加し、2030SDGsファシリテーター資格を取得。SDGsについて自治体等に周知するため体感ゲームファシリテートスキルを習得した。	主催：一般社団法人イマココラボ	11/6～11/7
		大学コンソーシアム京都が主催する「第24回FDフォーラム」にプロジェクトマネージャー・統括コーディネーター・若手コーディネーター5名で参加し、今後大学が社会に担う役割や、地域連携の先進事例などについて学修する。	フォーラム	3/2～3/3	



▲ 定例ミーティング



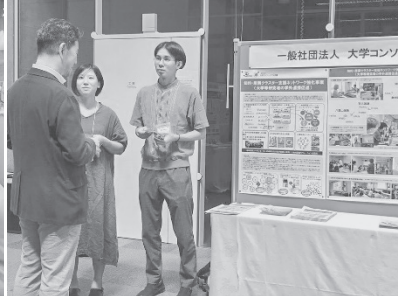
▲ インターンコーディネート



▲ インターンコーディネート



▲ ヒアリング



▲ 先進事例収集・ポスターでの発信



▲ 先進事例収集・情報交換会



▲ 関係機関情報交換



▲ 関係機関情報交換



▲ 関係機関情報交換

### 3-2 大学・企業交流会の開催

- ・平成30年度は、「沖縄産業まつり」「オキナワベンチャーマーケット」の3イベントに出展をし、本事業の周知を行うと同時に、企業や地域連携に関係する人材との交流を図った。
- ・イベントの概要は、以下に記載する。

#### 『第42回 沖縄産業まつり』



日時：平成30年10月19日(金)~21日(日) 10:00-19:00

場所：奥武山公園・県立武道館

内容：

- ・本事業概要の展示
- ・本事業周知リーフレットの配布、開催する研修会のチラシ配布
- ・大学コンソーシアム沖縄の周知（加盟校のパンフレット等設置）

参加者：約230名

（大学関係34名、行政28名、地域団体・コーディネーター等18名、その他一般約150名）

成果：

- ・研究機関が多く出展するエリアでの出展であったため、多くの大学関係者への事業周知ができ、情報交換が図れた。
- ・特に金曜日には多くの地域団体や産学官連携に携わるコーディネーター関係者がブースに訪れ、事業周知・情報交換が図れた。（土日は一般参加者が多かった）

#### 『オキナワベンチャーマーケット』



日時：平成30年12月11日(火)~12日(水) 10:00-19:00

場所：沖縄セルラーパーク那覇

内容：

- ・本事業概要の展示
- ・本事業周知リーフレットの配布、開催する研修会のチラシ配布
- ・大学コンソーシアム沖縄の周知（加盟校のパンフレット等設置）

参加者：約140名

（大学関係10名、行政23名、地域団体・コーディネーター等36名、その他一般約70名）

成果：

- ・イベント柄、ブースへの訪問も一般企業が多く、中でも産学官連携をすでに行っている企業や、市町村や高等教育機関との連携の可能性を模索している企業との情報交換ができた。
- ・市町村の抱える課題の解決に繋がりそうな商品やサービスを提供している企業等も多く、市町村の課題とのマッチングを行える事業やサービスの可能性を感じた。

### 3-3 実践的インターン送出

- 立ち上がったそれぞれの地域課題ソリューションワーキンググループでは、PBL(Problem Based Learning型)及びCBL (Community Based Learning) 型のアクティブ・ラーニングに取り組むため、学生も主体的に参加できる実践的なインターンシッププログラムを提供した。
- 今年度は、琉球大学の共通教育等科目に「地域企業（自治体）お題解決プログラム」として講義を開講し、大学コンソーシアム加盟大学の学生も受講可とした。
- 学生が提示した地域課題から5つのテーマを選択し、それぞれの課題に取り組み各自治体の課題の抽出・フィールドワーク・調査を経て、企画提案を行った。

#### 【講義シラバス】

* 科目番号	総40		
* 開講年度	* 期間	* 曜日時限	* 開講学部等
2018	後学期	火曜日5限	共通教育等科目総合科目
* 講義コード	* 科目名(英文名)		* 単位数
	地域企業(自治体) お題解決プログラム 2 (Community Based Learning)		2
* 担当教員	松本剛、宮里大八、翁長有希		

* 授業内容と方法
<p>本講義は、県内市町村(自治体)及び団体、企業等で行われる課題解決プロジェクトのメンバーとして参加し、実際に課題解決に向けて活動することで、これからの社会に求められる社会人基礎力やキャリア観の醸成を図るものである。人口減少や少子高齢化等に伴いこれからの社会は大きく変化する。その社会変化は「未だかつて日本が経験をしたことがない未曾有の時代」とも表現され、これからは企業や自治体もその未曾有の様々な課題に対応しながら存続や生き残りをかけていかなければいけない。企業においても、今後は益々地域社会との結びつきが求められるようになってくると予想される。そのような中では当然のことながら、人材に求められる能力や資質も変わり、いかに変化の中で課題を見つけ、多様な人材を結びつけながら解決に向けた行動ができるかということがこれまで以上に求められてくる。</p> <p>本講義では、県内市町村が実際に取り組む課題解決のためのプロジェクトから1テーマを選び、ワーキンググループメンバー（インターン）として活動することで、これからの社会に求められる次世代を担うリーダーとして意識や課題発見力・課題解決力を育むことを狙いとする。</p> <p>講義は、選択したプロジェクト(テーマ)に関わる自治体・企業・学校・コーディネーターなどと共に活動し、課題解決を行う実践と、課題解決等についての知識や情報を得るための座学を組み合わせで行う。本学のみならず、大学コンソーシアム沖縄との連携を図り、県内の他大学とも連携をしながら実施する講義である。</p> <p>【想定する課題及び自治体名称】(9月現在調整中)</p> <p>①【恩納村】移住定住プロジェクト</p> <p>観光業のための移住者やOIST関係者の転入が多く人口微増であるが、子育て世代が少ない状況である。このままでは、人口の減少傾向になることと、地域のコミュニティへの影響や伝統行事や伝統芸能の継承が困難</p>

になることが予想されており、定住に必要な施策を調査・検討する。

#### ②【北大東村/宮古市】住環境の問題の解決に向けたプロジェクト

・北大東村をはじめとした離島の住宅問題(離れる島から戻れる島へ、帰れる島へ)

離島の住宅問題の解決に向けたプロジェクトへの参加。北大東村、宮古島市をはじめとした離島での生活や環境を理解し、その上で今起こっている住宅問題解決に向けたワークショップや意見交換会等を産学官連携のもと企画・運営する。そこで得られた成果や知見をまとめ、各連携先へ還元する。

#### ③【南風原町/北中城村】花いっぱい、沖縄の在来種の保護プロジェクト

・県内で生産が減少傾向にある在来種について、苗木の盆栽の生産・盆栽づくりワークショップなどを通じて在来種の増加を実現する。プロジェクトを通し、企画(イベント等)立案し、行政や各団体、企業などと連携しながら実践的にプロジェクトマネジメントについて学ぶ。

#### ④【宜野湾/うるま市】公民館で体験学習プログラムを実施(学習支援)

・地域と学生の間で連携をはかり、その地域で抱えている潜在的な課題にアプローチする。手法として、公民館における少人数規模の教室やイベントのプロデュースを行い、企画・運営を通してコーディネート力をつける。

例) 性教育や、科学実験プログラム、自然体験教室、IT教室など。

#### ⑤【那覇市/北谷町】防災拠点を使った宿泊型の体験プログラムづくり、観光客向けの防災対策

・那覇など都市部を中心に親しみやすいアプローチで防災意識向上を目指すプロジェクトへの参加。既存の防災への取り組みへの参加や調査等を通して、各所との連携を図り、今回のプロジェクトである「防災を学べるキャンプ」プログラムの開発・運営を行う。

・北谷町では、現在町民向けの防災対策は徐々に進んでいるが、観光客向けの防災対策や計画が無い状況にある。今回のプロジェクトでは、観光客向けの防災対策でどのようなことができるか、またどのように導入するかを模索する。

#### ⑥【豊見城市/糸満市】自治会加入率が低い、青年会活動の活性化

・他地域でも同様だが、市民の自治会加入率が低い状況にある。豊見城市では豊崎を中心に人口が増加しているが、自治会加入率の増加はない。このような背景がある中でどのような取り組みをすることで自治会加入率を高めることができるかを探っていくプロジェクト。

・糸満は糸満ハーレーや綱引きなど伝統行事が多くある。それら行事に青年会が関わる活動が多くあるが、青年会の加入率に伸び悩んでいる。そのような背景がある中で青年会活動をどのように活性化することができるかを検討するプロジェクト。

#### ⑦【与那国町】与那国島を資源とした新しい観光事業を立ち上げよう

・与那国島では、ソフト面・ハード面共に不足している。一方で未開発の資源も多く残っており、沖縄本島の観光とは違うジャンルの観光事業を目指している(富裕層向けの観光など)。このプロジェクトでは、与那国島の観光資源の発掘から事業化(観光サービス開発)まで取り組んでいく。

#### ⑧【那覇市/浦添市/宜野湾市】バスの利用環境改善(大学生がバスを利用して通学するには)

現在、沖縄の公共交通である路線バスの利用状況が減少傾向にあります。要因としては使いづらさや運賃が高いなどの理由が挙げられる。運賃の値下げは現実的に厳しく、そのほかの方法で利用増加を検討している。主に利用環境の改善を検討しており、どのような利用環境であれば大学生が通学でバスを利用するかについて話し合い、アイデアを具現化していく。

#### \*達成目標

1. 地域の課題を発見し、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、社会性、地域・国際性】

<p>2. 課題の原因が何かを分析することができ、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力】</p> <p>3. 分析結果をもとに、課題を解決するための、実現性が高く効果的な行動計画をたて、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力】</p> <p>4. 地域の課題解決に関わる他者と積極的にコミュニケーションを取り、課題解決における自分の役割を認識し、取り組むことができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、問題解決力】</p> <p>5. 行動計画を実行し、改善を繰り返しながら問題解決に向けて取り組み、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【問題解決力】</p>
<p><b>* 評価基準と評価方法</b></p>
<p>1. 授業中のディスカッションへの参加度、毎回の授業の最後の振り返りシート（相手の意見に耳を傾けているか、自分の意見を言えるか）（70%）</p> <p>2. プレゼンテーションとレポート（授業で経験したことや成果をまとめ、発信できるか）（30%）</p>
<p><b>* 履修条件</b></p>
<p>1. 学外の活動に積極的に参加し、課題発見力・課題解決力を身につけようという意欲があること。学部・学科は問わない。</p>
<p><b>* 授業計画</b></p>
<p>①10/2 オリエンテーション</p> <p>②10/9 地域による「テーマ」のプレゼン・チーム編成（課題毎の3チーム編成）</p> <p>(ア) 10/16 地域における実践活動（課題抽出と分析）</p> <p>(イ) 10/23 地域における実践活動（課題抽出と分析）</p> <p>(ウ) 10/30 地域における実践活動（課題抽出と分析）</p> <p>(エ) 11/6 中間プレゼンテーション①・課題解決策の検討と各自の役割について確認</p> <p>(オ) 11/13 地域における実践活動（課題解決に向けた活動）</p> <p>(カ) 11/20 地域における実践活動（課題解決に向けた活動）</p> <p>(キ) 11/27 地域における実践活動（課題解決に向けた活動）</p> <p>(ク) 12/11 中間プレゼンテーション②・課題解決に向けた活動の進捗と成果</p> <p>(ケ) 12/18 地域における実践活動（課題解決に対する新規提案作成）</p> <p>(コ) 1/8 地域における実践活動（課題解決に対する新規提案作成）</p> <p>(サ) 1/15 各テーマにおける活動の振り返り・最終プレゼンテーション準備</p> <p>(シ) 1/22 最終プレゼンテーション</p> <p>⑤1/29 まとめ</p> <p>※各自が取り組みテーマによって指定日時以外にも活動に取り組む可能性があります。</p>

<p><b>* 事前学習</b></p>
<p>該当する地域について、その事業内容等を予め調べるとともに、問題の背景についても資料やWebなどで事前に把握しておくこと。</p>
<p><b>* 事後学習</b></p>
<p>講義日以外についても、チーム内で学習、情報交換等を積極的に行い、特に授業時に未解決の問題については翌週までに解決させておく。</p>

\* メッセージ

授業を欠席する場合は、必ず事前に（やむを得ない場合は事後速やかに）欠席届を提出すること。この授業については、メールによる欠席届も受付ける。

無届欠席が5コマ相当以上の者には単位を認定しない。届出欠席については、相応の理由がある場合は出席扱いとするが、出席点はゼロとする。

\* オフィスアワー

在室中は常時面談可。場所は地域国際学習センター3階305。授業時間など不在時間帯については、下記メールアドレス宛問合せ可。

\* メールアドレス

daiya@lab.u-ryukyu.ac.jp

【講義の様子】



▲オリエンテーション

▲課題分析

▲課題分析



▲自治体ヒアリング

▲中間発表

▲企画作成

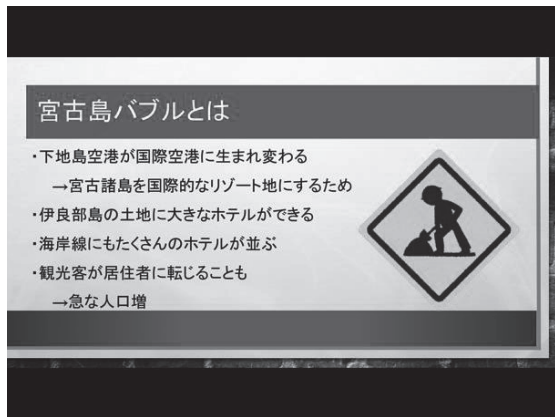
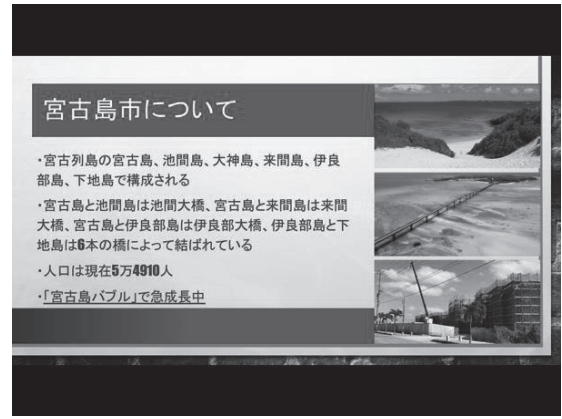
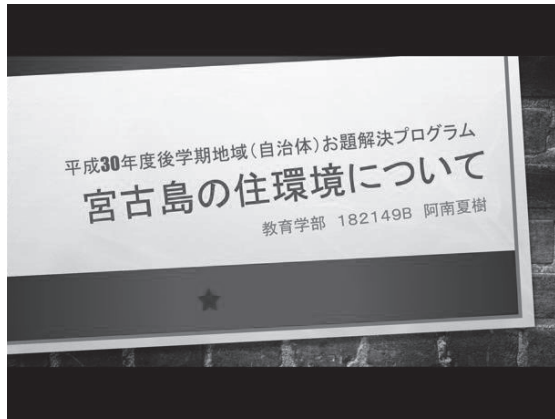


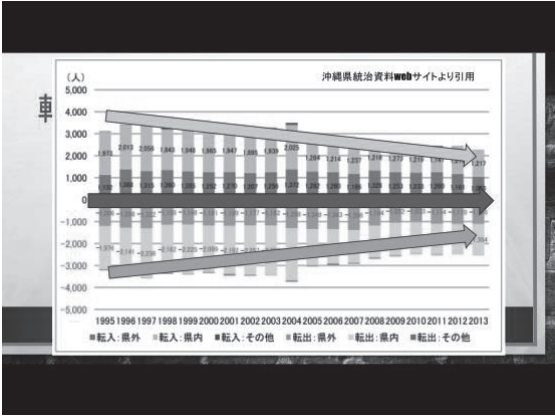
▲フィールドワーク

▲フィールドワーク

▲企画提案



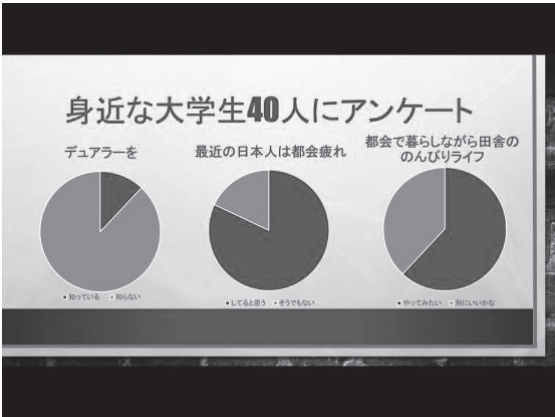




ところでみなさん

# デュアラー

をご存知ですか？



デュアルライフ(デュアラー)って何

都会暮らし + 田舎暮らし = 豊かな生活

現代の日本では

忙しいよう

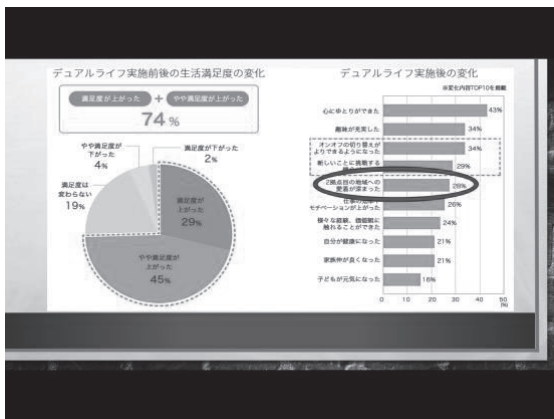
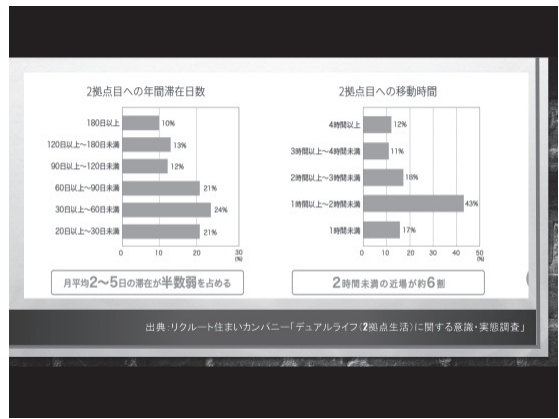
疲れたよう

心にゆとりが欲しいよう



## 増えるデュアラ―

- \* 趣味満喫デュアラ―
- \* 自然盡されデュアラ―
- \* ふるさとデュアラ―
- \* プレ移住デュアラ―
- \* のびのび子育てデュアラ―
- \* 地域貢献デュアラ―



## 解決策 デュアルライフを推進しよう

## ステップ

中心部に住んでいる人に田舎の魅力を伝える

デュアルライフの推進 → 過疎地の活性化

中心部から田舎に移り住む人の増加を狙う

## そのために

- 宮古島の人にデュアラ―について知ってもらう
- デュアルライフの魅力のアピールする
- 毎月定期的に住める生活環境や、生活をサポートしてくれる地域の体制などを整備→民泊などの活用

## 平成30年度後学期 地域企業(自治体) お題解決プログラム

テーマ 自治会加入率の増加と青年会の活性化  
自治体 糸満市  
学籍番号 175436A  
氏名 金城 充

## 持続可能な開発目標(SDGs)とのリンク



### 課題抽出

#### 【現状】

青年会や自治会に入る人が少ない

#### 【問題】

青年会や自治会の維持が大変

#### 【目標】

青年会や自治会に入る人が増えている

### 課題抽出

#### 【課題】

青年会や自治会の活動に必要な人数としては足りない

- ①自治会、青年会の活動は面倒なイメージ
- ②青年会は身近な存在ではない
- ③自治会に入るメリット、デメリットがイマイチよく分からない

### 青年会に関する課題解決案

- ①糸満市内にある全青年会参加で多目的な祭りなどをやる

→イベントだけの青年会なども参加できる上、他の青年会にとってもいい刺激になる

→それぞれの青年会の良さが出てくる上、イベントを見に来る方々にとっては一度にいろんな青年会を見られるチャンス



- ②保育園や小学校などで青年会によるエイサー披露など青年会が子供達の集まる学校などでイベントを行うことで子供達にとって青年会がより近い存在になるようにする

→子供達にとっての「カッコいい」存在

→憧れの存在になりたいと青年会に入るのでは？

③青年会に加入した方には市内体育館のトレーニングジムの使用料を1ヶ月間半額にする

- 体を動かしたい方=青年会に入る人では？
- 健康にも良い



### 自治会に関する課題解決案

- ①公民館などに農場を作り、自治会加入した方には農場の一部を農地として貸し出す
- 本土から来た人でも植物を育てることでのんびり過ごしたいという要望とマッチしていいのではないか
  - 子供達と年配の方々との交流の場になるのでは？



②マンションやアパートに住んでる方には自治会費などをあらかじめ減らしておき、自治会に加入するのであれば、糸満市内の工房などで1日体験できるような機会を設けるなど

- 地域に愛着をもってもらえる機会になるかもしれない
- 子供連れに人気があるのではないかな？

- ③自治会に加入した方には、1年間のいとちゃんバスの運賃割引券をプレゼント
- 子供達がいる家庭が加入する可能性があるのでは・・・
  - いとちゃんバスの利用促進にも繋がるのでは？



### 課題解決に向けた実践

- 大学生の青年会に関する意識調査
- 市民の自治会への意識調査



ご静聴ありがとうございました！



# 平成30年度後学期 地域企業（自治体） お題解決プログラム

テーマ 防災拠点を使った宿泊型の体験プログラムづくり  
自治体 那覇市  
学籍番号 161855F  
氏名 佐久川流星

## 那覇市地域防災計画

### 第6節 防災ビジョン

〈目的〉市民の生命・財産の確保

〈計画の理念〉 災害に強い人をつくる

〈基本目標〉市民・職員の災害時行動力の強化  
地域・事業所における助け合い防災対策  
実践的な防災訓練の実施等

## 持続可能な開発目標(SDGs)とのリンク



## 課題抽出

〈現状〉 災害に対する備えが足りていないのでは？

今後30年間震度5強の地震 沖縄ほぼ全域で26%以上  
那覇市 震度6弱 20% (埋め立てが多い沿岸部は40%越えも)

日本本土から離れているため支援を受けづらい  
沖縄本島の人口密集地の大部分は海拔5m以下  
多くの観光客や米軍関係者向けの対応  
自主防災組織カバー率 全国 82.7% 沖縄 24.3% 那覇市 約10%

個人レベルでは？

全国地震動予測地図2018年版、平成29年版 消防白書、沖縄県地域防災計画より

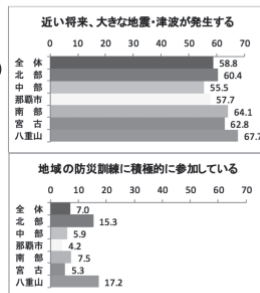
## 第9回県民意識調査

(H28 6月)

調査対象  
県内に居住する満15歳以上75歳未満の男女 2,000人

調査期間  
平成27年8月14日~9月23日

回収結果  
有効回収数 1,394人  
有効回収率 69.7%



## 課題抽出

〈現状〉 災害に対する十分な備えができていない

〈問題〉 災害発生時に住民や観光客がパニックに...

〈理想/目標〉 災害に対する出来る限りの備えができています

→ 問題を引き起こす要因=解決すべき「課題」とは...

## 課題抽出

(課題) 住民に防災への関心をもちせていない

大きな災害の経験・情報不足

防災って堅苦しそう、難しそうと言うイメージ

自分ごととして考えるきっかけがない

## 課題解決案「防災を学べるキャンプ」

防災に関心がある人達が繋がる  
関心がない人達も楽しく学べる  
考えるきっかけの場

- ・非日常をキャンプで疑似体験→災害時の焦り、ストレス軽減
- ・災害時にも役立つスキルを楽しく学ぶアクティビティ
- ・無関心層、若い世代10~20代も参加してくれるかも?
- ・地域・学校単位→地域コミュニティ活性化、定期開催(毎シーズン)
- ・情報共有の場

## ヒアリング・フィールドワーク

- ・東日本大震災 公民館での避難所運営  
(講演会、パネルディスカッション@ほしぞら公民館)

- ・災害ボランティア経験者へのヒアリング

- ・トライアル企画防災キャンプ  
1) 12/16~17@恩納村 多幸の山学校  
2) 1/5~6, 振り返り会1/21@若狭公民館

参加者  
防災に関心がある人、キャンパー、災害ボランティア経験者、  
防災士、社会福祉士、公民館職員、那覇市職員、県外NPO

## トライアル企画 防災キャンプ1/5~6 @那覇市若狭公民館



若狭公民館ブログ  
「公民館つづれ日記」  
2019/1/10  
トライアル企画防災キャンプ!  
[http://wakasakouminkan.blogspot.com/2019/01/blog-post\\_10.html](http://wakasakouminkan.blogspot.com/2019/01/blog-post_10.html)



1月17日で東沖・読海大震災の発生から24年がたった。その後も全国各地で自然災害が相次いでいる。もし沖縄が災害に見舞われた時、私たちはどうすればいいのか。「他人事ではない情があるかもしれない」と、記者は那覇市の若狭公民館でも、6日に開かれた防災キャンプに参加した。参加はインテグの記者にとって、最初は「防災」と「キャンプ」、この2つのつながりがありイメージできなかったが、参加してみても多くの発見があった。

琉球新報Style 2019/1/18  
<https://rukushimpo.jp/style/article/entry-862458.html>

## 寝床見学会



## 夕食



## 防災グッズお試し会



みんなが感じたこと考えたことは...

## やっぱり防災キャンプは有効！

- 那覇の地域性→人口に対して避難所が不足→テント・車中泊
- 経験→気づき 情報共有→学び 『体験的な楽しい学び』
- 地域コミュニティの活性化 『共働力』
- 避難所運営側のシュミレーション
- 野外→これまで情報が届かなかった層へのアプローチ

## 提案: 防災キャンプ×異文化交流

- 避難する時は地域の外国人も一緒
- キャンプを通して異文化に触れながら防災につながる
- 避難所での異文化接触をシュミレーション
- 外国語、異文化に興味のある人(琉大生)も巻き込める！？

## 課題解決に向けた実践

- 琉大生、留学生の意識調査
- 那覇にいる外国人のコミュニティ調査
- プログラム内容の検討



# 平成30年度後学期 地域企業(自治体) お題解決プログラム

テーマ：与那国島を資源とした  
新しい観光事業を立ち上げよう  
自治体：与那国町  
氏名：比嘉麻里萌

## アジェンダ

1. 与那国島について
2. SDGsとの繋がり
3. 課題設定(仮説)
4. 解決策
5. フィールドワーク(ヒアリング1)
6. フィールドワーク(ヒアリング2)
7. フィールドワーク(ヒアリング2)
8. 所感
9. 展望

## 1. 与那国島について

- ・人口1534名
- ・主要産業 農業、畜産業、漁業
- ・名産 泡盛、織物、長命草、塩、与那国織り



## 2. SDGsとの繋がり

### 持続可能な開発目標



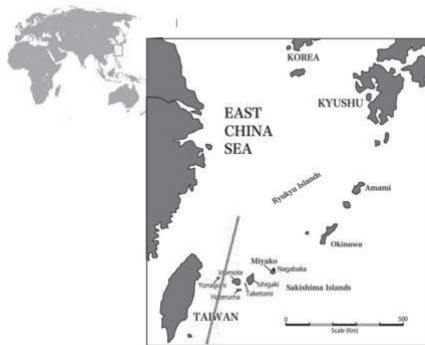
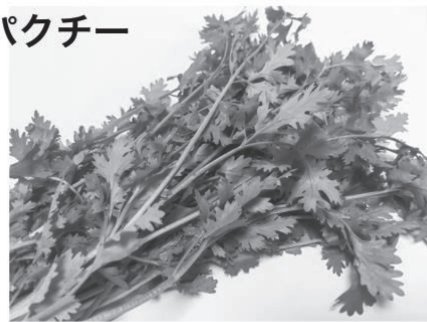
### 3. 課題設定（仮説）

名産品が沖縄本島とかぶっていて差別化が出来ていない。

・名産 泡盛、織物、長命草、塩、与那国 織り

### 4. 解決策

## パクチー



## パクチーフェス開催

「パクチーフェス」  
主役はパクチー。  
とくにこだわりの料理は、  
「パクチーマンマシ」。

「パクチー」はじまり、  
「パクチー」に終わる。

2017 5/31-6/4 会場：歌舞伎町  
シネシティ広場  
11:00-21:00 入場料無料 / COD  
お問い合わせ先  
contact@pakuchies.jp



## 5. フィールドワーク (ヒアリング1)

### 離島フェアの与那国島ブースにて



クシティーの種



海産

泡盛

塩

織物

## 6. フィールドワーク (ヒアリング2)

### 与那国島パクチー農家

安慶名さん

- ・パクチーは時期があるため専業農家はいない
- ・栽培に手間がかからないので比較的楽
- ・塩害もあるが、海水のおかげでパクチーの味が他と違う
- ・12月9日がクシティーの日でイベントを行っている
- ・石垣までは輸送している



## 7. フィールドワーク (ヒアリング3)

### 与那国島観光協会

米城さん（事務局長）

- ・ダイビングのピークは冬
- ・島民もクシティーが好きなので島内で消費されている
- ・カジキ国際大会、マラソンのアフターパーティーが名物
- ・最大の魅力は人



## 8. 所感

- ・パクチー以外にも面白いところが多々  
防災訓練、カジキ国際大会、マラソンや後夜祭
- ・パクチーの成分分析と発表の方法は要工夫
- ・泡盛は60度以上なのでその時点で本島とは差別化できている
- ・島の発展が補助金頼りになっている
- ・不便な場所だからこそ皆で協力するため、文化がなくなっていくにくいのでは。

## 9. 展望

うどん県、香川。  
ならぬ、パクチー島、与那国。

### 草の根活動の案

#### パクチーシーズン

- ・空港周辺のプランターにパクチーを植える
- ・パクチー料理大会の実施（応募規模を全国に）
- ・パクチー収穫体験ツアーの続行
- ・飲食店にパクチーメニューを提供してもらう

#### パクチーオフシーズン

- ・飲食店の卓上調味料にパクチーパウダーを追加
- ・パクチーフェスへの参加（告知、出店）
- ・島内の大きなイベントの際にはパクチーパウダーの販売

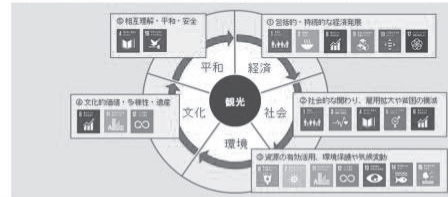
## 平成30年度後学期 地域企業(自治体) お題解決プログラム

テーマ 与那国島を資源とした新しい観光事業を立ち上げよう  
自治体 与那国島  
学籍番号 186418B  
氏名 藤野朱凜

## SDGsとの関連

### 「持続可能な観光」で取り組むべき5分野

ひとつの分野の目標達成が、次の分野へ派生していく「持続可能な観光」の5分野  
SDGsの達成した「持続可能な観光」で取り組むべき5分野は、それぞれがSDGsの目標のいずれかの要素を盛り込んでおり、それぞれの分野で目標達成する  
と、その効果の他の分野へ派生し続け、結果、持続可能な観光を継続的に実現していくという大きな特徴を有します。



# 与那国島を 海外へ広めたい！！

## 与那国島ってどんなところ？

- 沖縄県にある日本最西端の島
- 石垣島や西表島と同じ八重山諸島の島のひとつ
- 自然豊かな島でダイビングなども楽しめる
- 有名なドラマの撮影地になった



与那国島は魅力的な観光場所

しかし・・・

# 観光客が少ない！！

沖縄県の入域観光客数(平成30年8月)

- 沖縄全土 **1,037,900人**  
(国内737,900人 国外300,000人)
- 与那国島 **2,734人**
- 石垣島 143,208人

「沖縄県ホームページ h30-8月入域観光客統計概況」より引用  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/somu/yaeyama/shinko/documents/documents/kankoutantou.html>

もし課題が解決されなかったら  
どんな未来に？

- 観光収入が少ない為、他の地域に比べ経済力が低くなる  
→環境保全や教育活動、医療の充実など地域の発展に使えるお金が確保できない  
→過疎化につながる可能性も！！



与那国島に観光客が少ない原因

- 移動の不便さ(金銭面、時間の制限)
- 観光名所の認知度の低さ

## 観光客のターゲットを 海外の富裕層にする

### フィールドワーク

- 日程  
12月26日(水)~12月27日(木)
- 内容  
島あっちい(与那国島観光モニターツアー)
- ヒアリング  
与那国島観光協会



### インタビュー



中国在住の50代のご夫婦にインタビュー

- SNS(Weibo)で与那国島を知った
- 外国語の看板がありすぎると海外旅行の充実度が減る気がする
- 与那国島で言葉の問題などで困ったことは無かった
- 与那国島への旅行はとても楽しかった！！

### 外国へのPRの方法

•PRの内容

•PRの方法

マラソン大会  
カジキ祭り  
冬のダイビング

SNSの利用  
(留学生との協力)  
HPの有効活用







## 第4章 その他の取り組み

### 4-1 高等教育機関への活動報告

- 7/3に行われた大学コンソーシアム沖縄の総会にて、2年目の事業内容についての共有を行い、加盟する11高等教育機関への周知を行った。
- また、今年度は、全高等教育機関との連携を更に強化するために、大学コンソーシアム沖縄の事務局である各大学窓口で個別で訪問をし、事業内容の共有、連携内容の調整を行った。実施状況は、以下。
  - ・8/14(火)沖縄国際大学（於：沖縄国際大）
  - ・8/14(火)沖縄女子短期大学（於：沖縄女子短大）
  - ・8/16(木)沖縄県立芸術大学（於：沖縄芸大）
  - ・8/17(金)沖縄工業高等専門学校（於：沖縄工専）
  - ・8/29(水)沖縄キリスト教学院大学（於：沖縄キリスト教学院大学）
  - ・9/ 5(水)名城大学（於：名城大学）
  - ・9/11(火)沖縄科学技術大学院大学（於：沖縄科学技術大学院大学）
  - ・9/18(火)沖縄大学（於：沖縄大学）
  - ・12/19(水)沖縄県立看護大学（於：看護大学）
- 2月19日大学コンソーシアム沖縄の総会において、平成30年度の事業報告(2月時点)を行った。

### 4-2 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整

- 大学コンソーシアム沖縄の各高等教育機関の窓口を通して、プロジェクトの実施及び研究シーズのヒアリングなどの連絡調整を行っている。
- Webページについては、昨年度に立ち上げたWebページ（大学コンソーシアム沖縄HP内）、Facebookページ、また昨年度作成したリーフレットを活用し、広報活動に取り組み、情報発信を随時行っている。

【ホームページ】 <http://consortium-okinawa.or.jp/iicsn/>

【フェイスブック】 [CONSORTIUM-OKINAWA] で検索



【リーフレット】 中面



## 第5章 総括

### 5-1 本事業における成果

本事業は、知的・産業クラスターの発展に向け、地域課題を解決するワーキンググループを立ち上げ、地域連携コーディネーターによる県内大学研究者等と地域の連携(産学連携)を促進することを目的としている。

本事業では、大学コンソーシアム沖縄と琉球大学が連携したコーディネート機能強化に取り組み、地域連携コーディネーターを中心に、県内大学が有する「知」を活用した地域課題解決に向けて取り組みを行った。県内大学研究者及び学生等と地域(市町村・企業等)の連携による地域課題解決を検討するワーキンググループを立ち上げ、県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進することで、地域振興への貢献を目指した。また、事業の実施にあたっては、複数の大学間・異分野研究者間の連携を促進し、複雑な地域課題に対する総合的な解決に向けた取り組みを実施した。

平成29年度のアンケート回答にて地域連携に積極的に取り組みたい21市町村を優先にヒアリングを行い、その中から出た課題を各地域のニーズや時期に合わせワーキンググループの立ち上げ支援や、学生との協働における課題解決授業につなげた。特に、平成30年度は島嶼地域の課題にもフォーカスし、改めて地域連携に興味関心がある離島へのヒアリングを行い、その中で宮古島市、北大東村、与那国町についてはワーキンググループを立ち上げ課題解決に取り組んだ。

平成30年度は、地域課題に具体的に取るため、主にワーキンググループ立ち上げを行う地域課題テーマに関する情報収集を行うため、個別企業・NPO等地域団体・社会教育施設等計36件程度へ訪問し、ヒアリングを行った。

平成30年度も引き続き、研究者のシーズ調査の強化を図るため、大学コンソーシアム沖縄の加盟校すべてに個別に訪問し、窓口担当者との連携体制の構築を図った。平成29年度にヒアリングやアンケートにて収集した地域課題テーマに関連する研究者を、上記大学コンソーシアム窓口担当者を通じて情報を得た。また、インターネット等の研究者情報等で情報収集に取り組みながら、研究シーズに関しては、SDGsの17のテーマに合わせて分類し、シーズ集として取りまとめた。

地域行政や企業・団体など主体となる関係者等へのヒアリングやワーキンググループ立ち上げの調整を行い、そのニーズに応じて随時研究者とのマッチングを行った。その結果、平成30年度は、観光・教育・貧困・移住定住・防災・離島の住環境問題等の地域課題ソリューションワーキンググループを開催した。

上記に加え、平成31年度以降にワーキンググループとして課題解決に取り組みたいとして、西原町・竹富町・南風原町などから要望があがっており、立ち上げに向けてのフォローを行っている。

平成30年度に立ち上げたワーキンググループ（ワーキンググループ立ち上げの準備会議等の過程も含む）においては、構成する自治体・企業・NPO等のメンバーにおいて、課題解決策の検討を行い、一部モニター実施・検証を行うなどの活動を行った。

平成30年度は、沖縄県内の高等教育機関や地域・産業界等の連携推進のためのSDGsをテーマにした研修会を全4回開催した。SDGsをテーマにした基調講演・事例報告などを行うことで、グローバルな課題とローカルな共通課題を見出し、ワーキンググループの強化や各自治体における持続可能な課題解決に対する意識醸成を図ることに努めた。

9月1日～9月2日に北海道にて全国大学コンソーシアム協議会が主催する「第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に、統括コーディネーターと若手コーディネーター3名で参加し、産学連携や大学における地域協働教育の在り方などについて調査を行い、ポスターセッションでは本事業についてのPRを行った。また、3月2日～3日に京都にて大学コンソーシアム京都が主催する「FDフォーラム」に、プロジェクトディレクターと若手コーディネーター3名で参加し、全国の大学コンソーシアムの関係者と連携を行った。

大学と地域・産業の結びつきを強化するための取組（大学起業交流会の開催）では、次のイベントにて本事業の活動内容の周知及び地域関係者等との情報交換を行った。①10月19日～21日「沖縄の産業まつり」ブース出展、②11月23日～25日「離島フェア」ブース出展、③12月11日～12日「ベンチャーマーケット」ブース出展（12日あいのり企画として『大学地域連携フォーラム』を会場内にて開催）

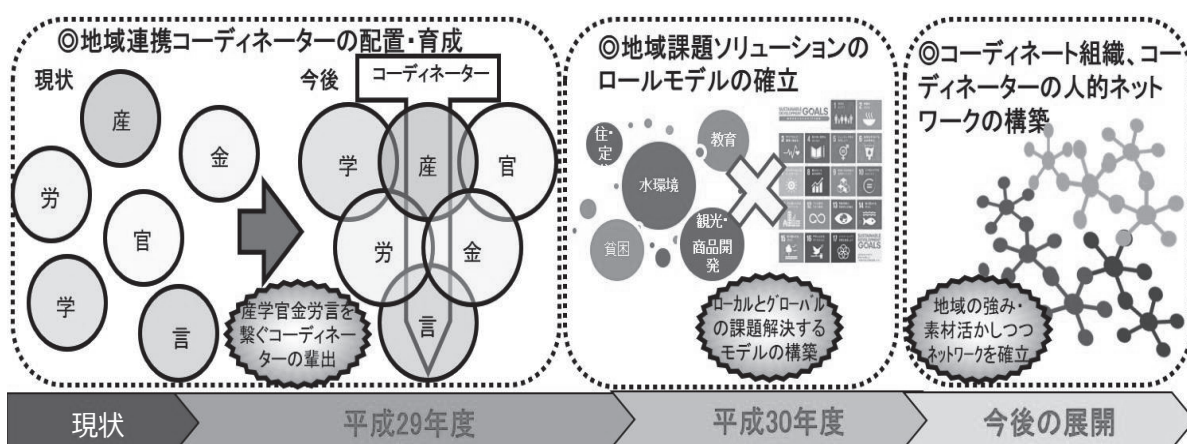
実践的インターン送出は、前期・後期に琉球大学共通教育科目において実践インターンを送出する科目を設け、大学生との連携について要望のあった自治体において立ち上げた地域課題ソリューションワーキンググループに実践型インターンとして学生を参画させることによりPBL・CBLの学びの場を構築した。また、本講座をどの学部からも受講できる共通教育科目、また、琉球大学学生だけでなくすべての大学や一般の方も受講できる公開講座として提供することにより、分離融合型の学びができるプログラムとして工夫した。講義では、糸満市、那覇市、離島では宮古島市、与那国町から出されたテーマを選択し、地域課題の調査分析・フィールドワークを実施、解決プランの企画提案を行った。特に、那覇市では「防災拠点を使った宿泊型の体験プログラム開発」を立ち上げ、宮古島市では、「離島の住環境の解決に向けたプロジェクト」の提案、与那国町では「パクチャーを活用した新しいツアー」や「外国人観光客向けの観光魅力発信」などのプロジェクトの構築を行い、各自治体への提案を行った。

## 5-2 本事業における課題と展望

平成29年度は、地域課題解決のための研究シーズ調査と地域（市町村）・企業等のニーズ調査を実施し、シーズとニーズを組み合わせた共通課題から10のテーマについての地域課題ソリューションワーキンググループを立ち上げた。また、統括コーディネーターを1人配置、若手コーディネーター3人を育成しつつ課題解決に向けた取り組み、課題解決手法の先進事例調査・研修会を開催した。さらに、大規模イベントとタイアップした大学企業交流会の開催、地域課題に即した実践的なインターンシッププログラムを開発した。

平成30年度は、地域課題ソリューションワーキンググループから得られた知見ノウハウを基に、商品・サービスの開発を行い、地域内での展開に取り組む。特に、島嶼・離島地域の共通する課題、防災・減災、沖縄の在来種など沖縄が持つ特有の地域課題について取り組んできた。また、地域課題だけでなくSDGsとの共通課題を見出しながら、地域課題とグローバルな課題を取り組めるように研修会などを実施した。

今後は、大学コンソーシアム沖縄を中心に県内の高等教育機関やコーディネート組織と連携した、課題発見、課題抽出、課題研究、課題検証等の課題解決のプロセスを明確化し、地域の課題解決をマルチステークホルダーと連携した人的ネットワークを構築する必要がある。



沖縄21世紀ビジョンと持続可能な開発目標（SDGs）は、共に2030年のあるべき姿を描きつつ、現在の課題解決に向けて各種施策を行っている。本事業で今年度取り組んだプロジェクトも、ローカルな課題とグローバルな課題の世界の共通する課題解決に向けて地域課題ソリューションワーキンググループを立ち上げて、沖縄地域における固有の課題、島嶼・離島地域における課題解決にむけて取り組んできた。

本年度は、SDGsの17の課題の中から、10個の共通する課題を抽出し、マルチステークホルダーによる課題解決策に向けた提案モデルを各ワーキンググループで検討して実施してきた。今回の事業によって、大学等研究者の学外と連携をする機会を提供し、大学のシーズと自治体・企業等のニーズのマッチングを促進することができた。

大学のシーズとして、研究者のみならず、技術職員や大学職員、そして施設や学生という多く資源が存在しており、地域が持つ課題やニーズと融合することで科学技術の発展や産業振興への貢献が期待できるものである。

また、本事業で育成されたコーディネーターが大学と地域の橋渡し役となり、大学等に属するコーディネート組織や外部のコーディネート機関と連携することによって、沖縄固有の課題解決手法のロールモデルが蓄積されていた。

さらに、本事業で取り組んできた内容は、玉城デニー知事が掲げた3つの視点「新時代沖縄の到来」「誇りある豊かさ」「沖縄らしい優しい社会の構築」に波及できるものと考えている。

特に、3つ目の「沖縄らしい優しい社会の構築」では、「誰一人取り残すことなく、全ての人の尊厳を守り、多様性や寛容性を大切に共生の社会づくりを目指します」と述べられており、SDGsが掲げている理念と共通している。

玉城知事は「産学官による万国津梁会議（仮称）を新設し、世界各国との経済、文化、教育、人材などの交流を促進して、経済発展資源の創出に取り組みます。」と所信表明されており、今回の地域課題ソリューションで得られた知見・ノウハウは地域振興に波及する効果が得られると期待できるものである。

最後に、2年間の「知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）」の事業の成果が、今後の沖縄県の科学技術及び産業振興に貢献できることを期待している。

## 知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業

---

巻末 研究シーズ事例集

## 古きよき伝統や文化を継承しつつ、 新しいものを生み出し進化する沖縄を目指して

### SDGS との関連



### 研究シーズの内容

#### 1. 都市における商業・流通のありかたに関する研究

経営の戦略と成長を考える「戦略論」の研究

#### 2. 地域ブランドと地域振興に関する研究

地域で特産品の開発をすることでその地域を盛り上げていこうと取り組むと、その動きは別の地域にも影響を与え、お互いが競争をしながらも結果的には全体としてよい効果をもたらすということの研究

### 研究者氏名

林 優子 (はやし ゆうこ)

名城大学 国際学群国際学類  
経営情報教育研究学系経営専  
攻 教授

### 地域連携の実績 (または連携イメージ)

現在、企業や地域を取り巻く環境は、とても複雑で予測不可能なことが多くなっている。人口減少、少子化、高齢社会、高度に技術革新等が発達した社会経済の中で、企業は活動していかなければならない。どのような戦略が企業にとって、地域にとって、あるいは社会にとって有意義なものとなるのか常に検討しながら企業活動や地域の動きを研究している。

### 関連する特許や論文等

- ・「ソーシャル・メディアと SNS の発展過程」『インターネットは流通と社会をどう変えたか』(共著) 中央経済社、2016 年
- ・「地方都市における格差社会の現状－沖縄を事例として－」『格差社会と流通』(共著) 同文館出版、2015 年
- ・「地域活性化とは」名城大学叢書第 2 集『やんばるに根ざす』(共著) 名城大学、2015 年
- ・「観光と地域の再生」『地域の再生と流通・まちづくり』(共著) 白桃書房、2013 年



# 沖縄における人材育成モデルの構築

## SDGS との関連



## 研究者氏名

宮里 大八 (みやざと だいや)

国立大学法人琉球大学  
地域連携推進機構  
特命准教授

## 研究シーズの内容

### 1. リカレント教育に関する研究

琉球大学にて実施する社会人の学び直しの効果的な教育や評価手法についての研究を実施する。

### 2. STEM 教育に関する研究

Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Mathematics (数学) 分野における小学校及び中学校での教育法についての研究を実施する。

### 3. アクティブラーニングに関する研究

Community-based Learning (CBL) の導入、地域活性化に向けたアクティブラーニングについての教育及び研究を実施する。

## 地域連携の実績 (または連携イメージ)

地域ニーズに対応した人材養成のため、「地域・政策人材育成分野」のWGにおいて9つの目的別人材育成プログラムを開発・実施した。また、県内の医療機器開発企業及び医療機関と連携し医工連携プログラムを開発・実施した。「地域の子どもを支援するインクルーシブ教育推進人材の育成分野」は、子どもの貧困対策や作業療法士関連の3つのプログラムを開発・実施した。地域認証システムを構築するため、「社会的認証」に係る6つのプログラムを地域公共人材開発機構へ申請し、承認を得た。

大学コンソーシアム沖縄と連携により、地域ニーズを発掘し、地域課題解決に向けたワーキンググループの立ち上げ、マルチステークホルダーによるプロジェクト構築、学生による実践的インターン送出を実施した。

## 関連する特許や論文等

「学校に作業療法を「届けたい教育」でつなぐ・家庭・地域」2019年／仲間知穂 (著) の書籍にて、第7章の「学校訪問システムとOTの人材育成—先進的な沖縄県の取り組み」を執筆担当。

## 専門的な農学研究を幅広いレベルで地域に還元 ～生産量向上から、景観美化・一石二鳥の食育 まで

### SDGS との関連



### 研究者氏名

大城 美樹雄 (おおしろ みきお)

名桜大学 国際学群国際学類  
経営情報教育研究学系経営専  
攻 准教授

### 研究シーズの内容

1. ワーク・ライフ・バランス (WLB) に関する研究  
⇒働きやすい職場とは？を考える
2. 成果主義の功罪に関する研究  
⇒仕事（業績）をどのように評価すればいいのか
3. 地域活性化に関する研究  
⇒地域が活性化する、とは、どのような状態かを考える

### 地域連携の実績（または連携イメージ）

県立名護高等学校の卒業生として、地元に貢献することだけを考え、研究対象としての「やんばる」や「おきなわ」の地域活性化、地域貢献での連携が可能である。名桜大学は北部 12 市町村立であり、地元で愛される大学をめざして、やんばるの方々が「わったー大学」と思っただけように活動を行う。

### 関連する特許や論文等

- ・「沖縄企業研究—自立経済の確立を目指して—」愛知学院大学論叢『経営学研究』第 25 巻第 1・2 合併号、2016 年
- ・「地域と連携したゼミ活動—『ゴミゼロ大作戦！』について—」名桜大学紀要第 20 号 87～94 頁、2015 年
- ・第 12 章 PBL プログラム等の国内での実践状況 VII 地域と連携したゼミ活動—「ゴミゼロ大作戦！』について（176～182 頁）『学生の「力」をのばす大学教育—その試みと葛藤』愛知東邦大学地域創造研究所編、唯学書房、2014 年
- ・「沖縄本島北部市町村自治体の発刊する報告書等の分析による自治体との関わり方に関する検討」名桜大学総合研究所紀要「総合研究」第 22 号 44～55 頁、2013 年
- ・大学コンソーシアム沖縄 子どもの居場所学生ボランティアセンター 副センター長（2019.03.31.まで）

# マルチステークホルダーによる市民性共育

## SDGS との関連



## 研究者氏名

佐藤 学 (さとう まなぶ)

沖縄国際大学  
法学部地域行政学科  
教授

## 研究シーズの内容

### 1. 沖縄の多様な地域課題に関する研究

「地方自治」「農業問題」「住環境」「観光開発」「基地問題」などの研究

### 2. 政策立案・合意形成に関する研究

グループワークによる研究、質疑応答、ディスカッションを通して、活発な議論を交わし、相互に学習するためのアクティブラーニング

### 3. マルチステークホルダーの市民性教育に関する研究

行政職員、NPO、社会福祉関連、学生などへの政策形成の講義を提供し、マルチステークホルダーの市民性教育

## 地域連携の実績（または連携イメージ）

「地方自治」「農業問題」「住環境」「観光開発」「基地問題」などの研究内容を幅広く取り上げ、沖縄の特有な分野を幅広く研究している。研究の際のルールとして、実際に行政関係者にヒアリングに伺い、現場を視察するフィールドワーク、地域課題の解決に向けたプレゼンテーション指導などを行っている。

住環境フォーラムに参加し、公共政策の観点からも SDGS を考える意味でも、離島の持続可能なモデル構築の重要性を提言。行政のトップダウンで行う政策形成だけでなく、地域住民や関係機関のマルチステークホルダーが集まって、地域課題を吸い上げる形でボトムアップしていくことが重要であり、その為の市民性教育に取り組む。

## 関連する特許や論文等

- ・『より良い自治を考える～沖縄 21 世紀ビジョン・沖縄振興一括交付金を題材として』、沖縄自治研究会報告書 2017年
- ・『市民も自治と議会に関われる』、沖縄自治研究会報告書 2013年
- ・『米国型自治の行方 ピッツバーグ都市圏自治体財政破綻の研究』、敬文堂、2009年
- ・「問われる沖縄の自治力」、『沖縄「自立」への道を求めて』、宮里政玄他編、高文研、2009年 等

# SDGS 包摂ネットワークのモデル構築

## SDGS との関連



## 研究者氏名

島袋 純 (しまぶくろ じゅん)

国立大学法人琉球大学  
教育学部社会学科教育  
教授

## 研究シーズの内容

### 1. 市民的公共性をはぐくむ社会科教育のあり方に関する研究

市民参加ワークショップでゼロから進める自治体政策形成のスキル習得指導

### 2. ガバナンス変容の中の沖縄に関する研究

市民主導による自治体計画・実施・評価・改善の経営サイクル確立の理論及び方法伝授

### 3. 自治基本法及び自治基本条例の総合的理論的実践的研究

市民的資質の育成のプログラム開発と学校教育、生涯学習、地域経営における市民性教育

## 地域連携の実績（または連携イメージ）

市民参加ワークショップで地域課題を抽出し、課題解決に向けたプロセスを構築するスキル習得指導する。1. 地域の方々の視座を重視する聞き取り能力、2. 聞き取りや現状施策からの地域的な課題の発見、3. 課題の本質的な解明の力、4. 聞き取り、課題発見、課題探求に至るまで、議論を納得できる集合的な解を見出ししていく力、ファシリテーション・スキルの修得を重視する。

SDGS の達成目標は、国際的な基準で「人権」を捉え、全人類の人権保障の水準を上げていくことが最重要な基盤的目標。環境も経済も最も脆弱な人々が持続的かつ取り残されず包摂されて生きていくことのできる「権利」を保障する基盤に基づいて目標が設定されている。国際的な目標 SDGS の導入は、日本政府が進め、自治体への導入は「地方創生」事業の目玉です。国際的な人権条約の人権保障の水準、国際的な環境条約の住民参加を要請する民主的な手続の水準、自治体は、国がその水準に達していないとしても、国際水準を目指して、条例を制定していく政策を実施していくことが重要である。

## 関連する特許や論文等

市民と構築するコミュニティづくり、地域経営などの論文多数。2002 年自治体職員や市民らと沖縄自治研究会を設立。著書に『「沖縄振興体制」を問う』（法律文化社、2013 年）等。

## XR (AR/VR/MR) を活用した協調作業支援 XR による教育支援システム (語学, プログラミング)

### SDGS との関連



### 研究者氏名

小渡 悟 (おど さとる)  
准教授

沖縄国際大学 産業情報学部  
産業情報学科

### 研究シーズの内容

#### 1. AR/MR/VR に関する研究

拡張現実 (AR), 複合現実 (MR) 技術, 仮想現実/人工現実 (VR) 技術を用いた情報提示

#### 2. 情報共有システムに関する研究

複数ユーザによる情報共有システムの研究. プログラミング教育に関する研究. XR 技術を用いた語学学習システムの研究.

### 地域連携の実績 (または連携イメージ)

私の研究テーマの一つとして「コンピュータの眼を作る」というのがある。この「コンピュータの眼」と関連して、実際にコンピュータの眼を通して得られた情報をもとにロボットを動かす、また大量のデータを扱うこともあることから集めたデータを効率的に活用するデータベースの研究なども行っている。

また最近では、流行りの拡張現実感 (AR) にも興味があり、コンピュータにより作りだした情報を現実世界の映像と重ね合わせて提示することで新しいユーザインタフェースの検討も行っている。同分野での地域連携を検討している。

沖縄国際大学産業情報学部産学協力会・事務局 (2017 年～)、経済産業省地域イノベーション創出研究開発事業 事前評価委員 (平成 22 年度)、沖縄産学官共同研究推進事業 (2003 年)、研究テーマ名「オープンソースベースサーバ群の統合管理技術に関する研究開発」、オブザーバー

### 関連する特許や論文等

- ・星野聖, 小渡悟: “画像に含まれる身体形状を判定する方法及び非接触型ポイントング・デバイスの実現方法”, 特許 4060261 号, (平 19.12.28)
- ・新里健, 小渡悟: “臨場感・存在感の向上を目指した VR アバターシステムの構築”, 電気学会九州支部沖縄支所, 2017 年
- ・上地祐汰, 小渡悟: “仮想空間内における触感覚呈示を用いた 3 次元モデリングシステムの構築”, 教育システム情報学会 2016 年度学生研究発表会 沖縄地区, 2017 年

## 沖縄創生まじゅんプロジェクト 地方と首都圏の大学連携・大学生交流の促進

### SDGS との関連



### 研究者氏名

平良 斗星 (たいら とせい)

沖縄大学  
沖縄創生まじゅんプロジェクト  
コーディネーター

### 研究シーズの内容

#### 1. 沖縄式地域円卓会議に関する研究

マルチステークホルダーによる様々な事実・視点・評価・事例を提供し、地域の「困り事」を研ぎ澄まし「社会課題」へと展開するプロセスを学ぶ研究

#### 2. 首都圏と地域が連携した地域振興に関する研究

地方の大学・大学生が都市圏の大学生の受け入れ事業をきっかけに、地域経済への理解を深め、自治体や企業と連携し、沖縄の魅力発信、地域振興に寄与するための学びを展開する研究プロジェクト。地域に対しての高度人材の流入への貢献が狙いでもあり、複合型の研究プロジェクト

### 地域連携の実績（または連携イメージ）

「沖縄創生まじゅんプロジェクト」は、関東学院大学と沖縄大学による連携プロジェクトで、相互に国内留学しながら、自治体や企業と連携し、沖縄の魅力発信、地域振興に寄与するための学びを展開する。

長期と短期で沖縄大学と関東学院大学の単位互換を含めた、「地域創生特論」「沖縄学」「子どもの貧困対策実践プログラム」「自治体職員政策形成セミナー」「沖縄魅力発見プログラム」等の授業を7つ実現する予定（2019年度開始）

### 関連する特許や論文等

- ・「沖縄式 地域円卓会議 開催マニュアル」 著・編集 公益財団法人みらいファンド沖縄 B5 版 32 ページ
- ・琉球大学公開講座「地域円卓会議マネジメント養成講座」メイン講師（2018年～2019年）

# 沖縄の豊かな自然環境を活かして

## SDGS との関連



## 研究者氏名

遠矢 英憲(とおよ ひでのり)

公立大学法人名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科上級准教授

## 研究シーズの内容

### 1. 水辺野外運動の効果的な指導方法に関する研究

豊かな自然環境、教育環境を活かしながら効率的、効果的な教育や指導方法に関する研究を行う。

### 2. アウトドアスポーツ普及事業およびマネジメントに関する研究

地域と連携し、環境保全活動を利用したスポーツツーリズムの開発・研究など、普及事業やマネジメントに関する研究を行う。

### 3. 水難事故防止のための安全教育講習教程の開発

ダイビングをはじめとした水辺野外活動における事故等の防止を目的とした安全教育講習教程の開発を行う。

## 地域連携の実績（または連携イメージ）

1. 野外活動における指導者育成・安全・防災教育の講習・各種(ICTを含む)教材開発。
2. アウトドアスポーツ及び関連ツーリズムに関するイベント・器材の開発。
3. 学校教育や地域創生における野外教育の活用・導入

## 関連する特許や論文等

プロフェッショナル・インストラクターとしてのダイビング指導者の実態に関する研究(Ⅱ)、プロフェッショナルスポーツ研究助成報告書第5号、2002 など

# 日米双方の視点から見る産学官連携 のあり方

## SDGS との関連



## 研究者氏名

當間 建明(とうま たけあき)

公立大学法人名桜大学地域連  
携機構 准教授

## 研究シーズの内容

### 1. マルチタスキング中のヒューマンエラーに関する研究

工場・事務所・病院等におけるポカミス、ヒューマンエラーの防止策等にかんする研究

### 2. 統計データ分析、データマイニングの研究

機械学習や AI（人工知能）を使ったデータ分析など統計データ分析にのぶ販売促進効果推定や予測などの統計データ分析、データマイニングの研究

## 地域連携の実績（または連携イメージ）

### 1. 生産管理・納期管理、プロジェクト管理の問題解決

・製品やサービスの品質不良・顧客満足の問題の原因を最適なサンプル数と実験計画/統計分析で特定できます。

・工場や事業所で限られた時間・資金等を最大限活用する生産・投資計画・時間割等を作成できます。

・科学的な業務の効率化、問題解決や改善手法を講義

### 2. 統計データ分析と認知心理学の両面で意思決定支援

・統計データ分析による販売促進効果推定や販売量予測

・機械学習や AI（人工知能）を使ったデータ分析

・人間が陥りやすい間違った解釈やバイアスを避けて正しい意思決定を支援

・統計データ分析の手法の講義（エクセル、R）

### 3. ヒューマンエラーの防止

・多忙でマルチタスクが必要な工場・事務所・病院等におけるポカミス、ヒューマンエラーの防止策の策定

・ヒューマンエラー防止についての講義

## 関連する特許や論文等

當間（2017）、Apriori アルゴリズムを使った観光客の満足度調査、第 47 回年次大会研究発表会、日本品質管理学会（JSQC）、統計数理研究所など



## SDGS との関連



## 研究者氏名

神谷 武史(かみや たけふみ)

沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学科音楽文化専攻沖縄文化コース 講師

## 研究シーズの内容

### 1. 地域における文化芸術活動普及のための企画制作

八重瀬町「汗水節の里宣言」及び啓発事業などの地域における文化芸術活動普及のための企画制作

### 2. 芸術文化の発表会の企画制作

ハワイ大学より発見された幻の組踊「夫婦縁組の巻」上演企画、指導などの企画制作

## 地域連携の実績（または連携イメージ）

2012年～

志多伯伝統文化保存会事務局としての豊年祭実行委員会等祭り全般の企画制作（からくり旗頭 200年ぶりの復活／ポリビア移民者による帰省演目の復活上演／組踊、芝居の復活／聴取による台本整理／指導・出演）など

## 関連する特許や論文等

関連職歴

八重瀬町役場（1999年4月～2018年3月）

## 専門的な農学研究を幅広いレベルで地域に還元 ～生産量向上から、景観美化・一石二鳥の食育まで

### SDGS との関連



### 研究者 氏名

本村 恵二 (モトムラ ケイジ)

琉球大学

農学部 亜熱帯地域農学科

植物生産科学分野

教授

### 研究シーズの内容

#### 1. イネに関する研究

遺伝子レベルでの研究により、より収量が上がるイネの発見及び病気などへの対策

#### 2. カンナに関する研究

生態調査及び系統分類、あわせて二次利用についても特に食用について研究

#### 3. クワンソウに関する研究

生態調査及び系統分類、あわせて二次利用についても特に睡眠効果について中心的に研究

### 地域連携の実績 (または連携イメージ)

植物育種学の分野から沖縄県の植物について幅広く研究還元を行っている。中心となっている研究はイネについてで、実際に農家への指導や知見の共有を通して、研究をもとにした高収量のイネの栽培が行われている。日常的にも県内農家から病気の相談や育成方法の相談などにのることが多く、地域に頼られる農学博士として活動が幅広い。

花いっぱいプロジェクトには主幹メンバーとして参加し、クワンソウ、カンナの両種類を用いて町の景観を向上させるアイデアや、クワンソウ、カンナの二次的な利用方法についての指導、及び苗の提供を積極的に行った。宜野座村漢那地区では実際にカンナの植え付けを地域住民や地元の小学生と行い、現在は二次利用としての食育イベントを企画中でもある。

### 関連する特許や論文等

- ・Trisomic analysis of new gene for late heading in rice, *Oryza sativa* L, 2004 年
- ・イネの雄性不稔細胞質をもつ稔性回復遺伝子ヘテロ型個体の種子稔性低下の要因、日本熱帯農業学会、2002 年 等
- ・イネ台中 65 号の核置換系統 RT98C における雄性不稔および稔性回復の遺伝、熱帯農業 45(3) 202-208、2001 年



お問い合わせ

---

一般社団法人 **大学コンソーシアム沖縄**

知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業 担当

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

Phone: 098-895-8562

Mail: [csc@consortium-okinawa.or.jp](mailto:csc@consortium-okinawa.or.jp)